

事項一五 「シベリア」出兵関係一件

六八七 一月二日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

過激派軍ノ東進イルクーツク叛乱ノ事態ニ対

スル米國ノ態度打診ノ件

別電 同日在米國幣原大使発内田外務大臣宛電報第九一八号

シベリア最近情勢及日本ノシベリア政策ニ関シ

米国新聞論評ノ件

第九一七号

（一月三日接受）

往電第九〇八号ニ閲シ露軍ノ一部「コルチャック」ニ叛キ

「イルクーツク」停車場ヲ占領シ赤軍ノ勢力愈々拡大シツ

ツアル旨ノ情報ニ二十七日參謀本部ヨリ井上武官ニ到着セル

ニ付二十九日本使ヨリ其ノ趣ヲ國務長官ニ通報シ此ノ窮迫

セル事態ニ顧ミ速カニ應急措置ヲ取ルノ必要アル事長官ニ

於テモ同感ナルベント申入レ重ネテ米国政府ノ回答ヲ督促

シ置キタリ尚三十日午後國務長官ハ新聞記者ト会見ノ際西

比利亜問題ニ付種々ナル質問ヲ受ケタル趣ナルガ其ノ際長

官ハ始終用心深キ態度ヲ持シ多ク語ラザリシ由ナルモ過激

之ヲ放棄スルニ若カズ西比利亜ヲ救ヒ支那ノ過激主義感染

ヲ阻止スルノ事業ハ日本独リ之ヲ企ツルナラン只此場合日本

本ガ莫大ナル報酬ヲ要求スベキハ人情ノ自然ナリ

「バルチモア、サン」（民主黨機関）
露國ニ於ケル反過激派ノ勢力ハ何レモ最近萎靡振ハザルモノノ如ク日本ニシテ自衛上断乎タル処置ニ出ヅルニ非ズンバ來春迄ニハ過激派ハ全露國ヲ其手中ニ収ムベシ右事情ニ顧ミ米國ハ此際其曖昧ナル對露國態度ヲ明カニ決定スルノ要アリ米國ガ西比利亜ニ軍隊ヲ維持スルノ理由ニ就キテハ未ダ満足ナル説明ヲ聞カズ「セメノフ」ハ内心米國軍ノ西比利亜駐屯ヲ好マズト云フ旁々吾人ハ一日モ早ク対西比利亜方針ヲ決定セザルベカラズ

「スプリング、フィールド」「レバブリカン」

「セメノフ」ガ「コルチャック」ニ代リタルハ何人モ失望

一五 「シベリア」出兵関係一件 六八七

派ノ東進ヲ憂慮スル日本ノ立場ハ充分ニ了解シ居ル旨ノ口吻ヲ洩シ且日本ノ増兵提議ニ同意スルヤ否ヤトノ質問ニ対

シ We might not object ト答ヘタル由確聞セリ將又別電新聞論調ニテ察セラル通リ今回「セメノフ」ノ軍司令官ニ任命セラレタル事ハ米國側ニ多大ノ悪感ヲ与ヘタルモノノ如シ

英仏伊ヘ転電セリ

（別電）

一月二日在米國幣原大使発内田外務大臣宛電報第九一八号

シベリア最近情勢及日本ノシベリア政策ニ関シ米国新聞論評ノ件

第九一八号

西比利亜最近ノ形勢ニ閲スル當方面主ナル新聞社説大要摘要ス

二十九日紐育「トリビューン」

西比利亜ニ於ケル最近ノ發展ニ対シ日本ガ憂慮スルハ尤モノ義ニシテ「レーニン」ハ已ニ多數支那人ヲ傭兵トシテ使

スル所ナルベシ蓋シ「セメノフ」ハ未來ノ酋長ニシテ其ノ日本人ト陰謀ヲ画策シ且ツ反米的ニシテ部下ノ哥薩克ガ米兵ト衝突セルハ吾人ノ記憶ニ新ナル所ナリ米國ハ「コルチャック」ニ示シタル好意ヲ移シテ「セメノフ」ニ与フルヲ得ズ

紐育「タイムス」

日本ハ露國過激主義ノ東漸ヲ憂フベキ最大ノ理由アリ從ツテ本件ニ閲シ米国政府ト交渉ヲ開始セルハ尤モノコトニシテ原内閣ニ対シテハ十分信ヲ置クベキ理由アリ但シ内閣ハ日本ニ非ズ日本政府ノ存意ニ対シテハ世界何ニモ何等疑ヲ抱クモノナシ只日本陸軍ハ從来政府ト無関係ニ種々ノ行動ニ出デタリ吾人ハ今日ノ世界ニ独逸ノ事例ノ再現セザランコトヲ望ム

三十日紐育「タイムス」

「コルチャック」倒レテ「セメノフ」之ニ代リタルハ即チ西比利亜ヲ過激派ト日本ノ勢力範囲トニ处分セルモノナリ斯カル事態停滞スル責任ハ大部分聯合国ニアリ日本ヲ外ニシテハ何国モ「コルチャック」ニ實質的援助ヲ与ヘ得ズ然シテ日本ハ其援助ヲ自己ノ利益擁護ニノミ局限セリ何レニシ

一五 「シベリア」出兵関係一件 六八八

八三四

テモ過激派露西亞ニ対スル世界ノ関係ハ一変セリ平和ヲ以

テ一種ノ戦争状態ト考ヘ居ル過激派政府ト平和ヲ結ブベシ

トノ議論今後右方面ニ行ハルコトナランガ政府ハ徒ニ幻

影ニ迷ハズ事実ニ着眼シテ其ノ方針ヲ建ツルヲ要ス尚「タ

イムス」ハ同日別欄ニ於テ前日ノ同紙ニ掲載セラレタルニ

十五日原首相ノ「シカゴトリビューン」通信員ニ対スル言明ニ論及シ過激主義東漸ニ対シ首相ノ採ラントスル態度ハ同感ナリ又日本ハ西比利亞ニ領土的野心無シトノ言明ハ世人ニ安心ヲ与フ西比利亞干渉ハ名ハ列国共同ナルモ日本ノ兵數過半数ヲ占メ且ツ「セメノフ」ノ親日的ナルニ顧ミ事實上日本ハ貝加爾以東ヲ占領スル次第ナリ原首相ノ公表ハ結構ナルモ吾人ハ同首相及び将来ノ首相ニ於テ日本ニ於ケル或ル分子ヲ制御シ得シコトヲ希望ス日本ハ未だ曾テ其一度足場ヲ占メタル土地ヨリ撤退シタルコト無シ満洲朝鮮ノ歴史ヲ顧ミル時ハ世人ガ原首相ノ声明ニ対シ左迄大ナル興味ヲ感ゼザル理由ヲ知ルベシ云々ト論ゼリ

六八八 一月五日

浦潮派遣軍參謀長ヨリ
山梨陸軍次官宛(電報)

過激派軍東進ノ結果生ズル情勢下ニ於テ採ル
ベキ措置ニ付請訓ノ件

附記 浦潮派遣軍司令官へ指示案

(陸軍省ヨリ一月六日接受)

浦参第九号 対過激派態度ニ閑スル問合

昨年軍カ「チエックスローワック」救援ノ任ヲ持ッテ出動

スルヤ當時極東露領又所謂過激派軍ナルモノノ跳梁ヲ逞ウ

スルモノアリシモ戡定ノ功成リ爾來軍ハ治安維持殊ニ鉄道

保護ノ任務上之ヲ攢乱シ之ヲ阻礙スル所ノ過激派ノ與党寧

ロ不逞ノ匪徒トモ称スヘキモノニ対セシニ過キシテ「コ

ルチャック」政府ノ存在ト相待ッテ今日迄軍ハ直接真ノ過

激派政府軍ト正面スルヲ要セサリシナリ然ルニ今ヤ「コル

チャック」政府ノ運命慘澹ヲ極メ然モ在「イルクーツク」政

府ハ首ヲ垂レテ反政府党ニ妥協ヲ求ムルノ悲境ニ沈淪シ大

勢ノ赴ク所「イルクーツク」方面ニ於ケル窮極優勢ハ反政府

党ニ帰シ而シテ反政府党ハ結局過激派政府ニ転移合一スル

コトトナル無キヲ保セスニ於テカ縦令極東ニ竄入シ来ル

ヘキ「コルチャック」政府ノ殘骸又ハ之ニ代リタルモノヲ

救フニモセヨ將又其ノ後繼者トシテ「セミヨーノフ」ヲ擁

立支持スルニモセヨ茲ニ軍ハ真ノ過激派軍ト正対シ直接ニ過激派政府ト接觸セサルヲ得サル情勢ニ立チ至ラントス而シテ從来極東露領ニ於ケル過激派敵対ノ方針ニ闇シテハ既ニ指示セラルル所アリト雖モ今後大勢ノ推移ニ伴ヒ或ハ実現シ得ヘシト判断セラルル過激派政府軍ノ東進ニ闇シテハ未タ何等指示セラレタルコトナキカ故ニ此ノ際本件ニ闇シ方針至急御指示アリタシ然ラサレハ軍ノ採ルヘキ措置ニ就キ機宜ヲ失スルノ虞アリト信ス

(附記)

浦潮派遣軍司令官へ指示案

浦参第九号問合ニ対シ貴軍ノ対過激派態度ハ帝国ノ政策ニ基キ左ノ諸条項ニ準拠セラレタシ貴官ハ其ノ主旨ヲ宣伝スルト共ニ帝国ノ領土的野心ナキコトヲ露国民ニ能ク了解セシムルコトヲ努ムルヲ要ス

第一 帝国ハ極東三州ニ於ケル過激派類似ノ政治団体ニ対シテハ必スシモ之ヲ敵視セス而モ之ト妥協ヲ求メス 一二鉄道沿線及重要都市ノ秩序維持ヲ任トス然レトモ苟モ我ニ反抗シ来ルモノアラハ之ヲ圧迫スル方針ヲ變更セザルヘシ

一五 「シベリア」出兵関係一件 六八八

第三 若シ「レニン」政府ノ過激主義緩和セラレ極東三

東漸スル過激派主義ヲ奉スル「レニン」政府軍ニ対シテモ該軍カ挑戦的態度ニ出テサル限り我軍ハ自ラ進ンテ之ヲ敵トシ攻撃スルコトナク主トシテ露軍ヲシテ之ニ対セシム然レトモ該軍カ貝加爾湖以東ニ進入スルコトハ帝国ト密接ノ関係ヲ有スル極東三州ノ治安ヲ紊シ延テ帝国ノ存立ヲ危クスルニ至ルヲ以テ其ノ東行ハ断然之ヲ阻止ス

極東内部ノ匪徒ニ対シテハ我ヨリ求メテ之ヲ討伐スルノ要ナキモ彼等來リテ我守備隊ヲ襲ヒ我居留民ヲ迫害シ交通線ヲ犯スコトアラハ我亦之カ討伐ヲ行フコトアルヘキハ從來ト異ナルナシ

第二 極東露領ニ於テ露國ノ穩健分子ヲ支持スルノ主義ハ何等變化スルコトナシ「コルチャック」政府カ極東シ退避シ来ル場合ニ於テモ亦然リ而シテ過激主義ヲ有セサル各政治団体ニ対シテハ從来ノ因縁ニ拘泥セス進シテ彼等相互間ノ協調ヲ計リ速ニ民意ヲ尊重スル政治機関ヲ組織セシムルニ努ム其ノ首脳ノ何人タルヤハ彼等ノ撰挙ニ委ス

八三五

一五 「シベリア」出兵関係一件 六八九

八三六

州ニ成立シタル穩健ナル政治団体ト相調和シ秩序ヲ紊
スコトナキ政策ヲ採ルニ至ラハ日本ハ之ヲ看過シ妥協
ノ手段ニ出テシムルモ妨ケナシ

第四 極東ノ治安維持ハ威力的圧迫ノミヲ以テ其ノ目的

ヲ達スルモノニアラス寧ロ人民ノ生活状態ヲ安定ナラ
シムル手段ヲ講スルヲ以テ有効ナリト認ム之力為ニハ
先ツ經濟的方面ノ一大改善ヲ必要トスルヲ以テ貨幣ノ
整理生活必需品ノ輸入及交通ノ整理等ニ関シ我ヨリ進
ンテ援助指導ヲ与ヘ要スレハ物々交換ノ途ヲ開キ以テ
人民ヲシテ生活上ノ苦艱ヨリ脱セシム其ノ方法ニ就テ
ハ講究中ナリ

別ニ政治經濟ヲ主宰スル特別機関ヲ新設スルカ若ハ軍司令
部内ニ特別機関ヲ設クルノ要アルヘシ

(欄外註記)

「一月九日閣議席上陸相配布、閣議末了」

六八九 一月六日

在米國幣原大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

対露方針ニ関スル五国代表者会議及シベリア

増兵問題ニ付國務長官ト会談ノ件

第四号

一月三日國務長官ヲ訪ヒ貴電第八九六号ニ依リ先ツ十二月
十三日倫敦ニ於テ五国代表者会合ノ結果對露方針ヲ協定セ

ル件ニ關シ米國政府ニ於テ何等公表ヲナスノ意向アリヤ若
シ然ラバ如何ナル範囲ニ於テ公表セラルベキヤト問ヒタル
處長官ハ右協定事項ヲ失念セルガ如キ模様ナリシヲ以テ本
使ヨリ説明ヲ加ヘタル末長官ハ更ニ一応關係書類ヲ調査ス
ベキモ米國政府ニ於テ未ダ本件ニ關スル公表ヲナシタルコ
トナク又今日ノ所公表ノ必要アルモノトモ思ハレズト答ヘ
タリ次ニ長官ハ自ラ進ンデ西比利增兵問題ニ言及シ本問題
ニ付日本政府ガ急速ナル解決ヲ必要トスルハ自分ノ深ク諒
察スル処今日迄已ムヲ得ザル内情アリテ米國政府ノ意見ヲ
回報スルニ至ラザリシモ數日中ニ貴大使ト会商スルノ運ト
ナルベシ語リタルニ付本使ハ曩ニ本問題ヲ提起セル以来
現ニ數週ニ及ビ其ノ間西比利ノ形勢日々益險悪ヲ加ヘツツ
アルコトヲ指摘シタルニ長官ハ至極尤ナリト首肯シ重ネテ
本使ヨリ何日頃米國政府ノ回答ヲ期待スルコトヲ得ベキヤ
ト問ヒタルニ対シ右ハ大統領ノ決裁ヲ経ルノ都合上期日ヲ
確定スルコト能ハザルモ多分來週ニハ回答ノ手順ニ至ルベ

シト答ヘ長官ノ意見書ハ已ニ大統領ノ手許ニ提出シアルガ
如キ口吻ヲ洩セリ

英仏伊ヘ転電セリ

六九〇 一月八日

浦潮派遺軍參謀長ヨリ

山梨陸軍次官宛(電報)

グレーブスマ派遣軍司令官ヨリ米軍ノシベリ

ア撤退ニ付通告ノ件

浦參第一四号 第八号 (一月九日接受)

一、本八日「グレーブス」ハ大井司令官ニ対シ左記公文ヲ
送附シ来レリ

西伯利ヨリ本軍隊ヲ撤退スヘキ陸軍中央当局ノ命令ヲ受
領セリ仍テ鉄道守備ニ任シアル軍隊ヲ次ノ如ク撤退スル
コトヲ通報ス

「バスカヤ」烏蘇里区间 一月十日

「シコトワ」「カンガウス」区间 一月十日

「ウエルフネ」「ムイソワヤ」区间 成ルヘク速ニ

二、軍ハ米軍担任区域ヲ代リテ保護スルコトナシ第五師
團管区内ノ分ニ対シテハ師團現在ノ兵力ヲ以テ機宜ノ処
置ニ出テシメ烏蘇里地区ニ対シテハ止ムヲ得ス新ニ北満

一五 「シベリア」出兵関係一件 六九〇 六九一

右ニ關シ「スマス」ハ米國ニテハ一月七日ニ發表ノ筈ナリ
右撤退ニ關スル説明ハ未ダ当地ニ到着シ居ラザル故如何ナ
ル理由ナルヤ判然セズト申述ベタリ本官ハ米國側ニテハ鉄
道管理ノ拠点ノ意ナルヤト尋ネタルニ何等右ノ如キ情報ニ
接セザル旨答ヘタリ不取敢

一五 「シベリア」出兵関係一件 六九二 六九三

大使「チタ」哈爾賓「ブランズ」「ハバロウスク」へ転電済

六九二 一月八日

浦潮派遺軍參謀長ヨリ
山梨陸軍次官宛(電報)

米軍ノシベリア撤退事情ニ付グレーブス司令

官ヨリ聽取ノ件

浦參第十五号

前電「グレーブス」ノ発セル米國軍撤退ノ公文到着後本職ハ「グレーブス」ニ会シ日本軍ニ於テ鐵道守備ヲ代リテ担任シ得ル期間ヲモ与ヘス急遽撤退スルコトノ不信ヲ責メタルニ彼ハ撤退ノ成行ニ付次ノ如ク説明セリ

「グレーブス」ハ先月三十一日夕在西伯利軍隊撤退ノ準備ニアルヘキ旨及之ヲ外間ニ對シ秘密タルヘキ旨本国ヨリ電報アリ次テ去ル五日ニ至リ愈々撤退ニ決シ七日ヲ以テ華盛頓ニ於テ公表セラルヘキヲ以テ爾後浦潮ニ於テモ公開支障ナキ旨ノ電報ヲ受領シ即チ本日公文ヲ以テ通報セシ次第ナリ急遽撤退ノ為メ日本軍ニ与フル苦痛ハ諒察ニ余リアルモ事情以上ノ如キ景況諒察セラレタシ

運送船ハ十一十三及二十三日ニ何レモ麻尼刺ヨリ到着シ先

八三八

ツ烏蘇里方面ノ部隊ヲ乗船セシメ後貝加爾方面ノ分ハ鉄道輸送ノ關係上当地出發ハ来月中旬頃トナルナラン在浦潮軍隊ノ大部及「グレーブス」以下幹部ハ此ノ最終ノ船ニテ浦潮ヲ去リ全部麻尼刺ニ向フ筈而シテ爾後「チエック」及「セルビヤ」軍撤退輸送ノ半分ヲ米國ニテ担任スル關係上之力

處理ノ為メ將校二名ノミヲ浦潮ニ止メ置ク筈ナリト謂ヘリ

六九三 一月九日

内田外務大臣ヨリ
在米國幣原大使宛(電報)

シベリア派遺米軍ノ抜打的単独撤兵事情ニ付

米國政府ニ説明要請方訓電ノ件

第五号 至急

西比利亞增兵問題ニ付テハ其後尚米國政府ノ回答ニ接セザル処現場ニ於ケル形勢ハ日々危殆ヲ加ヘ事態頗ル切迫セルモノアルヨリ帝国政府ニ於テモ之ガ応急手段ニ付焦慮シツツアリタル矢先米國ハ単独撤兵ニ決シタル旨浦潮派遺軍ヨリ陸軍省ニ電報アリタルニ付一月九日不取敢米國大使ヲ招キ別電第六号ノ通リ派遺軍電報ノ要領ヲ語リタル処同大使ハ自分ハ是迄一切此事ヲ承知セズ本國政府ヨリハ本件ニ關

シ何等ノヒント又ハ何等ノ予報ニ接シタルコトナク全ク夢ノ如キ感アル次第ナルガ実ハ今朝參謀本部ヨリ大使館附陸軍武官ニ米國撤兵ノ報道アリタル趣ヲ以テ同武官ヨリ自分ニ其旨報告シ來リタルニ付自分ハ一笑ニ附シ去リタルモ為念不取敢「グレーブス」ニ電報問合ハスト同時ニ一面本國政府ニモ同様電報シ置ケル次第ニテ殊ニ七日華盛頓ニ於テ發表セラレタリトセバ八日ニハ自分ノ許ニモ電報到達スペキ

筈ニテ又幣原大使ヨリモ同様貴方ニ電報有之候コトト信スト答ヘタルニ付本大臣ハ元来西比利亞出兵以來貴我両国間ノ協調ニ顧ミ本件ノ如キ決定ヲ見ルニ付テハ仮令協議ト迄ハ行カズトモ少クトモ前以テ何等カノ打合ヲ遂ゲラルベキ筋合ニテ現ニ両國軍隊ガ共同シテ鉄道守備ノ任ニ当リ居ルニ際シ予メ打合ナク突然一方ノ撤退ヲ見ルニ於テハ忽チ守備上欠陥ヲ生シ極メテ不都合ナル事態ヲ生スベキハ明白ナリ殊ニ我方ニ於テハ僅々數千ノ増兵ヲ為スガ為ニモ両國協調ノ精神ニ顧ミ御承知ノ通り貴國政府ニ開談シテ其諒解ヲ求メツツアル際今回ノ事アルニ至レルハ帝國政府ノ頗ル当惑スル所ニシテ何レ本件新聞紙ニ顯ハルニ至ラバ種々ノ議論ヲ生ジ我方ニ於テ極メテ困難ナル立場ニ陥ルコトナシ

一五 「シベリア」出兵関係一件 六九三

八三九

一五 「シベリア」出兵関係一件 六九四 六九五

八四〇

係ニ極メテ不良ノ結果ヲ成スノ虞ナキニ非ザル旨ヲ以テ可然先方ノ説明ヲ求メラレ結果電報アリタシ

本電別電ト共ニ在欧各大使ニ転電アリタシ

註 別電第六号省略

シベリア派遣米軍ノ单独撤兵ニ関スル大井司
令官宛グレーヴスノ通告等ニ付國務長官ノ証
別電 同日在米國幣原大使発内田外務大臣宛電報第一
三号及第一四号

六九四 一月九日 内田外務大臣(ヨリ) 在ハルビン佐々木總領事代理宛(電報)

イルクーツクヘ出兵ノ説明取消方訓電ノ件

第七号 貴電第一一七四号ニ関シ

古沢ヘ左ノ通り

貴電第六八号ニ関シ

客年十二月二十九日貴官ハ「タスキン」ヲ訪問セラレ日本ハ閣議ニ依リ「イルクーツク」ヘ出兵ノ件略決定セリト告ゲラレタル趣ノ處帝國ハ現ニ從來ノ方針ヲ維持シ「バイカル」以西ニ出兵ヲ行フノ意ナク貝加爾以東増兵ノ計画アルモ是亦目下米國ト協議中ニシテ未タ確定ニ至ラス就テハ「タスキン」ニ対シ可然訂正シ置カレタシ

六九五 一月十一日 在米國幣原大使(ヨリ) 内田外務大臣宛(電報)

第一五号 至急

(一月十二日接受)

「グレーブス」少将ヨリ大井司令官宛一月八日附公文ヲ以テ今回在西伯利米國軍隊全部撤退ノコトニ決シタル旨通告シ来リタリトノ參謀本部ヨリノ電報一月九日午後当大使館附武官ニ到着シタルニ付本使ハ事実ヲ聞キ質サン為メ直チニ國務長官ニ會見ヲ申込ミタル処同官ハ閣議出席中ニテ同日ハ遂ニ會見ノ機ヲ得ズ十日午前ヲ以テ會見ノ事ニ打合セタルガ九日夕刻國務長官ヨリ別電第一三号及第一四号覺書(一月九日附)ニ接手シタリ

次デ十日午前同官ヲ訪問シ先づ本使ガ右覺書ニ接手セル前日即チ一月八日ヲ以テ「グレーブス」少将ヨリ既ニ大井司令官ニ宛前記撤兵ノ件通告アリタル事実ヲ指摘シタルニ国

務長官ハ語ヲ遮リ實際右「グレーブス」少將ノ措置ハ全ク行違ニ基クモノニシテ自分ハ其報告ニ接スルヤ直チニ陸軍部ニ移牒シ未ダ本件大統領ノ承認ヲ得ズ從テ日本政府ニモ何等通報ノ時期ニ至ラザルニ當リ突然「グレーブス」少將ニ於テ前記通告ヲ為シタルハ甚ダ失当ナルヲ語リ此ノ行違ヲ生ジタル責任ノ次第ヲ調査中ナリ孰レニスルモ事茲ニ至リタルハ自分ノ深ク痛心スル所ナリト述ベタルニ付本使ハ「グレーブス」少將通告ノ當否ハ姑ク措キ別ニ根本主義ノ問題トシテ國務長官ノ説明ヲ請ハントスルモノナリ即チ自分ノ了解スル所ニ依レバ元来西伯利出兵ト云ヒ鐵道運行計画ト云ヒ共ニ日米兩國政府間ノ協調ニ基因スルモノナルガ故ニ右軍隊撤退又ハ鐵道運行計画ノ廃止ヲ決行スルニ付テ亦均シク兩國政府ノ協調ニ俟ツ可キモノト思考ス本使ガ政府ノ訓令ニ依リ過日來西伯利ノ時局対応策ニ關シ米國政府ニ協議セルモ亦一二両國協調ニ重キヲ置クノ趣旨ニ出デタルハ國務長官ノ了悉セラル所ナル可シ

然ルニ今ヤ米國政府ハ何等日本政府ト交渉スルコト無クシテ軍隊及鐵道技師ノ撤退ヲ決定セラレ單ニ其ノ決定ヲ通告スルニ止メラルハ如何ナル事由ニ基クヤト問ヒタル処國

務長官ハ暫ク躊躇ノ後米國軍隊ノ西比利駐屯ハ國論ノ反対強烈ニシテ又当初ノ目的ヲ達シタル今日之ヲ続行スルコトハ国情ノ許サザル所ナルコトヲ反覆弁疏セリ本使ハ之ニ対シ自分ノ差当り間ハントスルハ右米國政府ノ執ラレタル政策ノ當否ニ非ズ只此ノ最終決定ニ到達セラルニ先立チ何故ニ日本政府ニ協議セラレザリシヤノ点ニアリ殊ニ鐵道運行計画ノ如キハ形式ヨリスルモノノ國際協定ナリ日本政府ノ提議及米國政府ノ同意ニ依リテ完全ニ成立シ且關係列國政府ノ加入ニ依リ施行セラルモノナルニ今米國政府単独ノ意思ニ依リ該協定ノ施行廢止ヲ通告セラルハ自分ノ意員間ニ於テ米國政府ガ今尚西比利ニ軍隊ヲ駐屯セシムルノ不当ナルヲ攻撃スルモノ(脱)之ニ要スル経費ノ支出ヲ拒絶スルノ動議近日提出セラレントスルノ状アリ政府ハ内政ノ関係上右動議ノ提出ニ先立チテ撤兵ノ決定ヲ為スノ必要ヲ認メタルモ大統領ノ決裁意外ニ遲延シ最早日本政府トノ協議成立ヲ待ツノ余日ナキニ至リタル為メ急速ニ撤兵準備ニ着手シタルモノニシテ如何ニモ日本政府ニ協議ノ手続ヲ執ラザリシコトハ自分ノ深ク遺憾トスル所ナリ只米國政府

明報告ノ件

附記 一月十二日在本邦米國大使館ヨリ外務省ニ送付シタル同大使館宛米國政府ノ電報写ノ和訳文

於テ何等日本政府リ対シ殊更ニ礼儀ヲ欠クノ意思リ出ハタルニ非ゞ又毫モ如斯惡意アル可キ理由ナク近來日本政府ノ表彰セラレタル両国協調ノ精神ニ対シテハ厚ク感謝スルモノナルコトハ篤ト日本政府ニ徹底スル様貴大使ヨリ伝達セラレンコトヲ

次ニ本使ハ今回米国政府ノ回答ノ結果日本政府ガ爾後西伯利ニ於テ如何ナル措置ヲ執ル可キカ予測スルコトヲ得ズト雖モ仮ニ単独ニテ依然軍隊ヲ駐屯セシメ又必要ナル増兵ヲ行ヒ且シ鉄道運行計画ヲモ続行スルモノトセハ米国政府ニ於テ之ニ対シ何等異議無キコトニ了解シ然ル可キヤト問ヒタルニ國務長官ハ固ヨリ米国政府ニ於テ異議ヲ唱フ可キ理由ナシト明言シ只若シ多数ノ増兵ヲ決行セラル場合ニハ日本ニ於テ西伯利ノ領土保全ヲ破壊スルノ意思無キコムハ明カリセラルノ必要アル可シテ附言ゼルニ付本使ハ日本カ西伯利ニ於テ領土侵略ノ野心ナキロバ既ニ出兵ノ当初声明ヤル所ニシテ之ニ対シ何等疑惑アル可キ謂レナシト答

くタル尙長官ハ右々固ヨリ自分又ハ米国政府ニ於テ毫モ疑念ニ懷クヤノニ非スト雖モ世間ニハ一種猜疑ノ眼ヲ以テ日本ノ行動ヲ見ル者尠カラザル実情ニ顧ミ動ヤベシハ其諾ヲ

read to the Secretary of State by the Japanese Ambassador on the 8th day of December and which concerns the recent unfavourable development of the military situation with which Admiral Kolchak's forces have been confronted, and which proposes three alternative courses for the Allied and Associated Powers to take.

The Government of the United States agrees that for it to send reinforcement of sufficient strength and to act on the offensive in co-operation with anti-Bolshevik forces are impracticable.

The Government of the United States of America believes that for it to continue to participate in guarding districts now under Allied military protection is also under present conditions impracticable for the reason that an agreement to send reinforcements to such an extent as may be required with a view to maintain the status quo might involve the Government of the United States in an undertaking of such indefinite character as to be unadvisable. The amount of reinforcements which

might become necessary for the execution of such an agreement might be so great that the Government of the United States would not feel justified in carrying it out.

Consideration has been given therefore to the alternative presented by the Government of Japan of entire or partial withdrawal. It will be recalled that the purposes of the expedition as originally conceived by the United States and expressed in an aide-mémoire handed to the Japanese Ambassador at Washington July 17, 1918 were first to help Czechoslovak troops which had during their retirement along the Siberian railway been attacked by the Bolsheviks and enemy prisoners in Siberia to consolidate their forces and effect their repatriation by way of Vladivostok and second to steady any efforts at self-government or self-defence in which the Russians themselves might be willing to accept assistance. (以下別電第十四号)

Not only are the Czechoslovak troops now success-

招クノ虞アル多数増兵ノ場合ハ重ネテ日本ノ公正ナル政策ヲ宣明セラルルコト日本ノ為メニ得策ナル可シ要スルニ過激派ノ世界文明ノ公敵タルハ今回國務省ノ公表セル調査書(写送附済)ニ徵スルモ明瞭ニシテ若シ日本ガ西伯利地方ト日本トノ貿易モ発達シ日本ニ於テ必要トセラルル生産原料品ノ供給ヲ同地方ヨリ得ラル上ニモ便益歟カラザル可シト真摯ナル語調ヲ以テ切言セリ

在英仏伊大使へ転電セリ

(別電)

一月十一日在米國幣原大使発内田外務大臣宛電報第一三一號及第一四二號

ハノトア派遣米軍ノ単獨撤兵ニ關スル大井司令官宛ダーネーイバヘ
ハ通告ニ付國務長官ニ幣原大使宛覺書

No. 13 及 No. 14 Betsuden

Memorandum.

The Government of U.S.A. has given the most careful consideration to the subject matter of the communication from the Japanese Government which was

fully advancing into Eastern Siberia, but an agreement has been effected between the Governments of Great Britain and the United States providing for their repatriation from Vladivostok. American vessels will begin to arrive at that port by February 10th and a contingent of more than 10,000 Czecho-Slovak troops can be immediately embarked. It is expected that evacuation will proceed rapidly thereafter and from that date the first purpose for which American soldiers were sent to Siberia may be regarded as accomplished.

With respect to the second purpose, namely, the steadyng of efforts at self-government or self-defence on the part of the Russians, the Government of the United States is impressed with the political instability and general uncertainties of the present situation in Eastern Siberia, as described in the aide-mémoire presented by the Japanese Ambassador, December 8th, and is disposed to the view that further military effort to assist the Russians in the struggle toward self-govern-

Careful consideration has also been given to the possibility of continuing, after the departure of the American troops, the assistance of American railway experts in the operation of the Trans-Siberian and Chinese Eastern Railways. It will be recalled that it was expressly stipulated in the plan for the supervision of the railways which was submitted by the Japanese Ambassador at Washington, January 15, 1919, that the arrangement should cease upon the withdrawal of the foreign military forces from Siberia, and that all foreign railway experts appointed under the arrangement should then be recalled forthwith.

The experience of recent months in the operation of the railways under conditions of unstable civil authority and frequent local government interference furnishes a strong reason for abiding by the terms of the original agreement. Arrangements will be made accordingly for the withdrawal of the American railway experts under the same conditions and simultaneously

ment may in the present situation lead to complications which would have exactly the opposite effects, prolong possibly the period of readjustment and involve Japan and the United States in ineffective and needless sacrifices. It is felt accordingly to be unlikely that the second purpose for which American troops were sent to Siberia will be served by their presence there.

In view then of the fact that the main purposes for which American troops were sent to Siberia are now at an end, and of the considerations set forth in the communication of the Japanese Government of December 8, 1919, which subsequent events in Eastern Siberia have strengthened, the Government of the United States has decided to begin at once arrangements for the concentration of the American forces at Vladivostok with a view to their embarkation and departure immediately after the leaving of the first important contingent of Czechoslovak troops, that is to say, about February 10th.

with the departure of the American military forces.

The Government of the United States desires the Japanese Government to know that it regrets the necessity for this decision, because it seems to mark the end, for the time being at least, of the co-operative effort by Japan and the United States to assist the Russian people, which had of late begun to bear important results and seemed to give promise for the future. The Government of the United States is most appreciative of the friendly spirit which has animated the Government of Japan in this understanding, and is convinced that the basis of understanding which has been established will serve in the future to facilitate the common efforts of the two countries to deal with the problems which confront them in Siberia. The Government of the United States does not in the least relinquish the deep interest which it feels in the political and economic fate of the people of Siberia or its purpose to co-operate with Japan in the most frank and friendly way in all

practical plans which may be worked out for the political and economic rehabilitation of that region.

It is suggested that the Government of Japan may desire to communicate to the other principal Allied and Associated Governments the substance of the aide-mémoire of December 8th. This Government will likewise make known to them the substance of the present communication.

Shidehara

英仏伊く転電セリ

(附記)

一月十二日在本邦米国大使館ヨリ外務省ニ送付シタル同大使館宛米国政府ノ電報写ノ和訳文

西比利亞ニ於ケル聯合軍移動ニ関シ千九百二十年

一月十二日米国大使館着米国政府発電報和訳文

千九百十九年十二月八日在米日本大使ハ本国政府ノ命ニヨリ米国國務長官ニ対シ西比利亞ニ於ケル情勢力最近ニ於テ不利ナル変化ヲ見ルニ至レルヲ述ヘ其ノ注意ヲ喚起セリ且併セテ米国政府ハ現状ヲ維持スルノ意図ナルヤ將又其ノ軍

政府カ其ノ実行ヲ正当ト思惟スルコト能ハサル程ノ大数ニ上ラントス

敍上ノ事情ニ基キ日本政府ノ提出セル全部若ハ一部撤兵ノ案ニ就キ考量ヲ尽シタルカ当初米国政府ニ於テ確信シ且ツ一九一八年七月十七日華盛頓ニ於テ日本大使ニ交付シタル覚書ヲ以テ指示シタル所ニヨンハ出兵ノ目的ハ

〔「チョック、スロバキヤ」軍カ西比利亞鉄道沿線退却中過激派及敵国俘虜ニヨリテ攻撃セラレツアリタルヲ以テ之ヲ救援シ其軍隊ノ結束ヲ鞏固ナラシメ且ツ其ノ浦潮經由本国帰還ヲ遂行セシメ

〔〕露西亚人自ラ進ムテ受諾セムトスル露西亚ノ自治及自衛ニ関スル帮助ヲ与フル為努力スル所アラムトスルニアリタルハ又明白ナリ今ヤ「チョック」軍ハ着々東部西比利亞ノ地ニ移動シツタルノミナラス同軍ノ浦潮ヨリ本国ニ向テノ送還ニ關シテモ英米両国政府間ニ協定ノ成立ヲ見ルニ至レリ即チ米国船ハ本年二月十日迄ニ浦港ニ到着スヘク一万以上ノ「チョック」軍ハ直ニ乗船スルコトヲ得ヘシ爾後撤兵ハ迅速ニ実行セラルヘク米国西比利亞出兵ノ第一目的ハ是ニ因リ達成セラレタルモノト認ムルヲ得ヘン

一五 「シマラ」出兵関係一件 六九五

隊ノ全部若ハ一部ヲ撤退スルノ措置ニ出ツヘキヤ或ハ必要ノ場合ニ於テハ更ニ兵力ヲ増援スルノ準備アリヤ否ヤヲ質問セリ國務長官ハ本日^(註)ヲ以テ下記覚書ニヨリ米国政府ノ本件ニ關スル決定ヲ通報セリ

米国政府ハ十二月八日日本大使カ國務卿ニ向ヒ朗読セラレタル日本政府通牒ノ主題ニ關シ最モ慎重ナル考慮ヲ加ヘタリ右通牒ハ「コルチャック」提督ノ軍隊カ遭遇シタル最近ニ於ケル不利ナル戰況ノ開展ニ關スルモノニシテ同盟及聯合國カ採ルヘキ三個ノ選択的方針ヲ提議シタルモノナリ米国政府ハ充分有力ナル増兵ヲ為シ且反過激派ト協謀シテ攻勢ニ出タルハ同政府ニ取リテハ實行不可能ナルモノナルコトニ意見ヲ同シクス

米国政府ハ目下聯合軍ノ保護下ニアル地方ノ共同守備ヲ此ノ上尚繼續スルコトモ亦現下ノ情勢ニ鑑ミ同政府ニ取り実行不可能ナリト信スルモノナリ蓋シ現状維持ノ目的ノ為メ必要ナル程度迄増援軍ヲ遣派スルノ協定ハ米国政府ヲシテ余リニ空漠ニ過キ從テ甚々好マシカラサル事業ノ渦中ニ投セシムルモノト云フヘシ

惟フニ斯ノ如キ協定ノ実行ニ必要ナル増援軍ノ兵数ハ米国

第二ノ目的即チ自治政府ノ樹立若ハ自衛ニ關スル露国民ノ努力ヲ支援スルノ議ニ付テハ米国政府ハ客年十二月八日附日本大使ノ覺書掲記ノ通り東部西比利亞ニ於ケル現下ノ政情頗ル不安ナルト一般的な情況甚々不定ナルトヲ看取シ自治政府樹立ニ關スル露国民援助ノ希望ニ對シ此ノ上尚軍事的支援ヲ与フル如キハ現在ノ情勢ニ鑑ミ却テ事態ヲ攬乱シ同地方ノ秩序恢復ノ時期ヲ遷延セシムルカ如キ反対ノ結果ヲ惹起スヘク日米両國ヲシテ徒ラニ無効且ツ不必要ナル犠牲ヲ提供セシムルニ畢ラムトスニ依テ之ヲ觀レハ米国西比利亞出兵ノ第二ノ目的ハ其ノ同地駐在ニヨリ何等達成ノ途ナシト思惟セラル

依テ米軍西比利亞派遣ノ主要目的今ヤ終了シタル事實並十二月八日附日本國政府ノ通牒ニ記載セラレ其ノ後發生セル事實ニ依リ一層有力量ナリタル論旨ニ鑑ミ米国政府ハ来る二月十日頃即「チョック、スローヴァック」軍隊ノ第一主導部隊ノ出發後直ニ乗船出發セシムル目的ヲ以テ米軍ヲ浦潮ニ集合セシムルノ準備ニ直ニ着手スルコトニ決セリ

尚米国軍隊ノ撤退後西比利亞及東支両鐵道ノ運行ニ關シ米國鐵道技術委員ノ援助ヲ繼續シ得ルヤ否ヤノ点ニ關シテモ

一五 「シベリア」出兵關係一件 六九六

八四八

慎重ナル考慮ヲ加ヘタリ千九百十九年一月十五日在米日本大使ノ交付セル兩鐵道計画中ニハ此等ノ地方ヨリ外國軍隊撤退スルト共ニ一切活動ハ終熄スヘク從テ両国協定ノ下ニ任命セラレタル外國鐵道技術委員モ之ト同時ニ召喚セラルヘキ旨明カニ規定セラレアリ鞏固ナル基礎ヲ有セサル官憲ノ下ニ在リ加フルニ地方軍隊ヨリ頻繁ナル干涉ヲ受ケ鐵道ヲ運行シツツアル最近數箇月ノ經驗ニ徴シ最初取極ノ条件ヲ固守スルノ最モ妥当ナルヲ認メタルカ故ニ米國軍隊ノ撤退ト同一條件ノ下ニ且之ト同時ニ米國鐵道技術委員ノ撤退ニ着手セントス

今回ノ決定ハ露國民援助ニ對スル日米両國ノ共同努力カ最

近漸ク重要ナル効果ヲ齎ラシ且将来望ヲ嘱セシムルニ至ラントスル時ニ當リ少クトモ當分ノ間右共同努力ヲ終止セシ

ムルノ觀アルヲ以テ米國政府ハ同政府カ此決定ヲ為スノ已ムヲ得サルヲ遺憾トスル次第ヲ日本政府ニ於テ諒知セラレムコトヲ希望ス

米國政府ハ本計畫ニ關シ日本政府ヲ動カシタル友誼的精神ヲ大ニ多トスルト共ニ確立セラレタル協定ノ基礎カ将来西比利ニ於テ發生スル諸問題ヲ處理スルニ當リ両國ノ協力ヲ

促進スルニ有効ナルヲ確信ス米國政府ハ毫モ政治上並ニ經濟上西比利亞住民ノ援助ニ對シテ有スル深甚ナル利害ヲ抛弃スルモノニ非サルト共ニ同地方ノ政治的並經濟的復旧ノ為ニ實際的計畫ヲ行フニ當リテハ常ニ最モ卒直且友誼的ニ日本ト協力セントスル目的ヲ拠棄スルモノニ非サルナリ日本政府ニ於テ他ノ主タル同盟及聯合國政府ニ對シ十二月八日附覺書ノ内容ヲ通牒スルニ至ランコトヲ希望ス米國政府モ亦同様ニ本通牒ノ内容ヲ他ノ主タル同盟及聯合國政府ニ告知スヘシ

註 幣原大使來電ニ依レハ「本日」トハ「千九百二十年一月九日」ヲ指ス

六九六 一月十一日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

シベリア派遣米軍抜打の単独撤兵決定ニ關シ

國務長官ノ説明ニ對スル感想票申ノ件

第一六号 (一月十二日接受)

貴電第五号ハ本使ガ一月十日朝國務長官ト會見後ニ右貴電ヲ接手セリ右會見ノ始末ハ往電第十五号ノ通リニシテ米國

ガ單獨撤兵ニ決シタル理由ニ付國務長官ノ与ヘタル弁明ハ甚ダ徹底セザル処アルモ本使ノ得タル感想ニ依レバ國務長

官ハ實際予メ右單獨決定ガ日本側ニ來ス可キ不快ナル感触又ハ重大ナル結果ニ深ク想到セズ單純ニ米國內政上ノ見地ノミヨリ考量セルモノノ如シ從テ本使(脱)ヤ長官ハ当惑ノ色ヲ示シ其ノ弁疏セル処モ趣旨明白ナラズ遂ニ遺憾ノ意ヲ示シタルト共ニ自分ノ惡意ナカリシコトヲ再三繰返セリ只米國今日ノ国情ニ於テ久シク西比利撤兵ヲ遲延スルコト能ハザルハ曰ムヲ得ザル処ナル可ク議員ノ攻擊強烈ナルハ諸方面ヨリ得タル報道ト一致ス英仏伊ヘ転電セリ

六九七 一月十二日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

シベリア派遣米軍ノ撤退理由ニ關シ浦潮ニ於

ケル觀察報告ノ件

(一月十三日接受)

往電第七号ニ關シ米軍撤退ニ關シテハ貴電第六号ニ依リ日本政府ト何等ノ交渉ナカリシコトヲ承知セルガ右撤退ノ動機ト認ム可キ原因ニ關シテハ表面上ノ「ステートメント」

一五 「シベリア」出兵關係一件 六九七

ハ別トシ當地ニ於テ觀察シタル主ナル点御参考迄左ニ報告ス
(一)米軍ハ出動以後數月間一般露人ニ氣受ケ好カリシモ漸次軍規弛緩セルト同時ニ各地ニ於テ露人ノ嫌忌ヲ受ケ殊ニ過激派ト称スル匪徒ニ對シ日本軍ノミ奮闘シ米軍ハ之ヲ顧ミザリシ為メ有產階級殊ニ右党側ヨリ甚ダシク非難ヲ受クルニ至リ米軍ノ不信用ハ漸次昂マレリ而シテ米軍ガ唯一ノ同情者ト恃ミタル左党側及労働者農夫等モ近來漸次米國ニ対シテ不滿ヲ抱クニ至リ最初米軍ニ同情ヲ有シ居タリシ鐵道沿線各地ノ所謂過激派ナルモノ客年央以後ハ米軍ヲ敵トシ各所ニ之ヲ襲フ状態ヲ來シタルコト
(二)先般交代シテ當地ニ來リタル守備兵ハ何等軍隊教育ヲ受ケ居ラス到底万ノ場合ニ為シ得ル資格無キコトハ過日「グレーブス」自身本官ニ語リタルコトアリ然シテ昨今「イルクーツク」方面ハ勿論蘇城炭坑及烏蘇里綿ニ於テ露軍ノ(脱)米軍ニ於テハ彼等ノ襲撃ヲ必要ニ恐怖シ居タルコト能ハズト覺知シタルモノノ如シ

(三)近來社會黨側ニ於テハ外國干涉排斥外國軍隊撤退希望ノ

一五 「シベリア」出兵関係一件 六九八 六九九 七〇〇

八五〇

声ヲ高メ右党側ノ幹部ニ於テスラ之ニ共鳴スル傾向ヲ生ジ
来リタルコト

加藤大使及佐々木ヘ電報スミ

六九八 一月十二日 増原外務次官 在本邦米国大使 会談

チエク、スローヴァック軍ノ帰還輸送ニ閣ス

ル件

大正九年一月十二日在本邦米国大使「モーリス」氏ハ増原外務次官ヲ本省ニ來訪シ

在西班牙与國軍隊 (friendly contingents) ハ送還ニ閣シ米国政府ニ於テハ英國政府トノ間ニ協定ノ上両国政府ニ於テ等分ニ右送還ヲ引受クルコトニ決定シ米国政府ノ閣スル限り其陸軍運送船ニ依リ愈々来ル二月一日頃ヨリ浦潮第一回輸送ヲ開始スル筈ニテ米国ノ送還スヘキ人員數ハ總計三万五千ヲ超ヘサルヘキコトニ打合セ濟ナリ尚米国政府ノ計算ニ依レハ一ヶ月ニ約一万人ヲ送還シ得ル見込ナリ自分(米国大使)ハ政府ノ訓令ニ依り以上ノ次第ヲ帝国政府ニ通告ス尚右通告ニ際シ自分ハ「チエク、スローバク」軍隊ノ浦潮ニ向ヒテ輸送セラルニ付在西北

利亞日米兩軍司令官ヨリ十分ノ便宜ヲ与ヘラルコトノ極メテ重要ナル所以ヲ非公式ニ指摘スヘキ旨命セラレタリト述ヘタリ

六九九 一月十三日 閣議決定

シベリアヘノ軍隊増派ニ閣スル件

閣 議

帝国政府ハ大正七年八月二日宣言ノ趣旨ニ変更ヲ加フルモノニアラズ然レドモ東部西伯利ニ於ケル現下ノ状態ニ於テハ兵力補充ノ必要ヲ認ムルニ依リ約半箇師団ヲ增遣ス

註 右ニ対シ一月十四日ノ外交調査会ハ冒頭「帝国政府ハ」ヨリ「然レドモ」迄ヲ削除スルコトニ決定セリ

七〇〇 一月十四日 在英國珍田大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

中央ソビエト執行委員会ノ赤軍ニ対スル訓令 並聯合國ノ対露政策ニ閣スル輿論ニ付報告ノ件

第一七号

十三日当地接受莫斯科発無線通信ハ中央「ソビエット」執行委員会ガ赤軍ニ対シ近ク日本ニ切迫スルモ之ト衝突ヲ來スガ如キ何等攻撃的行動ニ出ヅベカラズト發訓セル趣ヲ伝

フルモ日本軍ノ行動ニ閲シテハ新聞報道ノ掲載セラルムモノナク輿論ハ其ノ将来ニ対シ多大ノ注意ヲ払ヒ居ルモノト認メラル反過激派ノ振ハザルニ顧ミ「タイムス」ヲ初メ聯合国ニ於テ取ルベキ政策ニ閲シ社説ヲ載セ居ル所十三日 Daily Chronicle ハ反過激派勢力潰敗ノ今日聯合国ノ任務ハ障壁國タル波羅的諸州、波蘭、羅馬尼等ヲ支持シ又亞細亞ニ於テハ適當ノ防守的措置ヲ講ズルニアルガ邊境諸国ハ何レモ平和ヲ熱望シ居ルニ依リ彼等ニ最良公正ノ平和ヲ得セシムルヲ以テ吾人ノ政策トセザルベカラズト論ジ「ロバート・セシル」卿ハ同日國際聯盟協會集会ニ於テ聯合国ノ対露政策ノ全然失敗ニ終レルコトヲ述べ波蘭其ノ他ニ戰争ヲナサシメズ平和的通商關係ヲ再設スペキコトヲ慾懃シ更ニ露国内ノ真相ヲ調査鮮明セシム International Commission フ派遣スルハ國際聯盟ノ任務ナリト述べタリ

シムルヲ以テ吾人ノ政策トセザルベカラズト論ジ「ロバ

ト・セシル」卿ハ同日國際聯盟協會集会ニ於テ聯合国ノ対露政策ノ全然失敗ニ終レルコトヲ述べ波蘭其ノ他ニ戰争ヲナサシメズ平和的通商關係ヲ再設スペキコトヲ慾懃シ更ニ露国内ノ真相ヲ調査鮮明セシム International Commission フ派遣スルハ國際聯盟ノ任務ナリト述べタリ

西二〇

西二一

西二二

西二三

西二四

西二五

西二六

西二七

西二八

西二九

西二一〇

西二一一

西二一二

西二一三

西二一四

西二一五

西二一六

西二一七

西二一八

西二一九

西二二〇

西二二一

西二二二

西二二三

西二二四

西二二五

西二二六

西二二七

西二二八

西二二九

西二二一〇

西二二一一

西二二一二

西二二二〇

西二二二一

西二二二二

西二二二三

西二二二四

西二二二五

西二二二六

西二二二七

西二二二八

西二二二九

西二二二一〇

西二二二一一

西二二二一二

西二二二二〇

西二二二二一

西二二二二二

西二二二二三

西二二二二四

西二二二二五

西二二二二六

西二二二二七

西二二二二八

西二二二二九

西二二二二一〇

西二二二二一一

西二二二二一二

西二二二二二〇

西二二二二二一

西二二二二二二

西二二二二二三

西二二二二二四

西二二二二二五

西二二二二二六

西二二二二二七

西二二二二二八

西二二二二二九

西二二二二二一〇

西二二二二二一一

西二二二二二一二

西二二二二二二〇

西二二二二二二一

西二二二二二二二

西二二二二二二三

西二二二二二二四

西二二二二二二五

西二二二二二二六

西二二二二二二七

西二二二二二二八

西二二二二二二九

西二二二二二二一〇

西二二二二二二一一

西二二二二二二一二

西二二二二二二二〇

西二二二二二二二一

西二二二二二二二二

西二二二二二二二三

西二二二二二二二四

西二二二二二二二五

西二二二二二二二六

西二二二二二二二七

西二二二二二二二八

西二二二二二二二九

西二二二二二二二一〇

西二二二二二二二一一

西二二二二二二二一二

西二二二二二二二二〇

西二二二二二二二二一

西二二二二二二二二二

西二二二二二二二二三

西二二二二二二二二四

西二二二二二二二二五

西二二二二二二二二六

西二二二二二二二二七

西二二二二二二二二八

西二二二二二二二二九

西二二二二二二二二一〇

西二二二二二二二二一一

西二二二二二二二二一二

西二二二二二二二二二〇

西二二二二二二二二二一

西二二二二二二二二二二

西二二二二二二二二二三

西二二二二二二二二二四

西二二二二二二二二二五

西二二二二二二二二二六

西二二二二二二二二二七

西二二二二二二二二二八

西二二二二二二二二二九

西二二二二二二二二二一〇

西二二二二二二二二二一一

西二二二二二二二二二一二

西二二二二二二二二二二〇

西二二二二二二二二二二一

西二二二二二二二二二二二

西二二二二二二二二二二三

西二二二二二二二二二二四

西二二二二二二二二二二五

西二二二二二二二二二二六

西二二二二二二二二二二七

西二二二二二二二二二二八

西二二二二二二二二二二九

西二二二二二二二二二二一〇

西二二二二二二二二二二一一

西二二二二二二二二二二一二

西二二二二二二二二二二二〇

西二二二二二二二二二二二一

西二二二二二二二二二二二二

西二二二二二二二二二二二三

西二二二二二二二二二二二四

西二二二二二二二二二二二五

西二二二二二二二二二二二六

西二二二二二二二二二二二七

西二二二二二二二二二二二八

西二二二二二二二二二二二九

西二二二二二二二二二二二一〇

西二二二二二二二二二二二一一

西二二二二二二二二二二二一二

西二二二二二二二二二二二二〇

西二二二二二二二二二二二二一

西二二二二二二二二二二二二二

西二二二二二二二二二二二二三

西二二二二二二二二二二二二四

西二二二二二二二二二二二二五

西二二二二二二二二二二二二六

西二二二二二二二二二二二二七

西二二二二二二二二二二二二八

西二二二二二二二二二二二二九

西二二二二二二二二二二二二一〇

西二二二二二二二二二二二二一一

西二二二二二二二二二二二二一二

西二二二二二二二二二二二二二〇

西二二二二二二二二二二二二二一

西二二二二二二二二二二二二二二

西二二二二二二二二二二二二二三

西二二二二二二二二二二二二二四

西二二二二二二二二二二二二二五

西二二二二二二二二二二二二二六

西二二二二二二二二二二二二二七

西二二二二二二二二二二二二二八

西二二二二二二二二二二二二二九

西二二二二二二二二二二二二二一〇

西二二二二二二二二二二二二二一一

西二二二二二二二二二二二二二一二

西二二二二二二二二二二二二二二〇

西二二二二二二二二二二二二二二一

西二二二二二二二二二二二二二二二

西二二二二二二二二二二二二二二三

西二二二二二二二二二二二二二二四

西二二二二二二二二二二二二二二五

西二二二二二二二二二二二二二二六

西二二二二二二二二二二二二二二七

西二二二二二二二二二二二二二二八

西二二二二二二二二二二二二二二九

西二二二二二二二二二二二二二二一〇

西二二二二二二二二二二二二二二一一

西二二二二二二二二二二二二二二一二

西二二二二二二二二二二二二二二二〇

西二二二二二二二二二二二二二二二一

西二二二二二二二二二二二二二二二二

西二二二二二二二二二二二二二二二三

西二二二二二二二二二二二二二二二四

西二二二二二二二二二二二二二二二五

西二二二二二二二二二二二二二二二六

西二二二二二二二二二二二二二二二七

西二二二二二二二二二二二二二二二八

西二二二二二二二二二二二二二二二九

西二二二二二二二二二二二二二二二一〇

西二二二二二二二二二二二二二二二一一

西二二二二二二二二二二二二二二二一二

西二二二二二二二二二二二二二二二二〇

西二二二二二二二二二二二二二二二二一

西二二二二二二二二二二二二二二二二二

西二二二二二二二二二二二二二二二二三

西二二二二二二二二二二二二二二二二四

西二二二二二二二二二二二二二二二二五

西二二二二二二二二二二二二二二二二六

西二二二二二二二二二二二二二二二二七

西二二二二二二二二二二二二二二二二八

西二二二二二二二二二二二二二二二二九

西二二二二二二二二二二二二二二二二一〇

西二二二二二二二二二二二二

一五 「シベリア」出兵關係一件 七〇三

眞アルコト

二、单ニ威力ヲ以テ極東三州ノ統治ヲ全フスルコトハ現下ノ事態ニ適応セサルモノアルニ顧ミ三州ノ秩序ヲ回復セ

ンニハ先ツ各地ニ抬頭セル穩建ナル諸政治団体ノ融合統

一ヲ見ルコト希望ニ堪ヘサルカ其ノ何人ヲ以テ之カ施政ニ任セシムヘキヤハ彼等ノ欲スル処ニ一任シ何等從来ノ関係ニ拘束セラルカ如キコトナキヲ要ス

三、右ニ閔シテハ近日奈良中將ヲ派遣シ篤ト説明セシムル

苦追加 (一月十七日午后十時発)

一、我軍ノ西伯利ヘノ出動最初ノ宣言ニ於テ「チエック」軍救援ヲ主目的トシテ其ノ目的ハ今日ト雖継続シアルコト勿論ナリ從テ軍ハ「チエック」ノ帰還輸送其ノ他二十分ノ援助ヲ与フヘク此ノ行動ヲ阻害セントスルモノアラハ露軍若ハ「セメノフ」軍ト雖之ヲ排除スルニ十分ノ努力ヲ致スヲ要ス

二、西三〇号並本追加ノ件ハ広ク軍全般ニ徹底セシメ尚追加事項ノ趣ハ「ヂャナン」將軍其ノ他聯合軍代表者ニ通告セラルヘシ

西比利亞出兵ノ為一年一億ヲ支出シ居リ単独事業トナレハ一年二億以上ヲ要ス可ク過激派ノ勢力増大スルニツレ遂ニハ一年五億弗ニモ達ス可ケレハナリ米国政府今回ノ決定ハ日本ノ國論ニ重大ナル影響ヲ与フ可ク日本ニシテ撤兵ニ決ストスレハ其以前ニ内閣倒ル可ク原首相ニシテ留任セハ日本ハ増兵ニ決シタルモノト見ル可シ目下ノ処日本ノ増兵ハ想像セラレス但シ内政ノ関係上日本カ直ニ減兵スルコトモ無之ル可シ云々

七〇四 一月十八日 潮浦(浦潮)派遺軍參謀長ヨリ

福田參謀次長宛(電報)

イルクーツク派遣隊撤退ニ關シ報告ノ件

浦參四九

「イルクーツク」派遣隊撤退ノ件

第五師團長ハ「イルクーツク」派遣隊ニ対シ準備出来次第

同地ヲ撤退シ「ウエルフネ」附近ニ其ノ兵力ヲ集結スヘキ旨十六日夜命令セリ同派遣隊爾後ノ行動ニ就テハ未ダ報告ニ接セス

註 右ハ芳賀少佐ヨリ武者小路書記官ニ参考迄トシテ送付越セラルモノナリ

一五 「シベリア」出兵關係一件 七〇四 七〇五

八五一

(欄外註記)

「九年一月十九日陸相手交(内田外相印)」

七〇三 一月十七日 在米國幣原大使(ヨリ) 内田外務大臣宛(電報)

米軍ノシベリア撤退ノ結果日本ノ直面スル政

治的困難ニ關シ米國新聞ノ報道報告ノ件

第一六号 (一月十八日接受)

十六日当方面諸新聞ニ華府特電トシテ西比利亞問題ニ閔シ大要左ノ如キ記事掲載セラレタリ

米國ノ西比利亞撤兵ノ決定ハ全ク日本ノ予期セサリシ処ニシテ兼而西比利亞政策ニ閔シ反対党ノ攻撃ヲ受ケツツアリシ原内閣ハ之ニヨリテ其ノ立場一層困難トナリタルモノノ如ク十五日着東京ヨリノ非公式報道ニ依レハ内閣ハ本問題ノ為総辞職ヲ見ルヤモ計ラレサル趣ナリ元來増兵計画ハ内田外相ヲ始メ閣員中ニモ反対アリ其ノ後陸軍側ノ意見勝ヲ占メテ此ノ新提議トナリタルカ日本ハ当初ヨリ米國ノ増兵ハ期待セサリシモ尠クモ現状維持ス可シト察シタリシナリ当地情報ヲ綜合スルニ日本ハ単独ニテ過激派ノ東部西比利亞侵入ヲ阻止スルノ挙ニ出ツルコトナカル可シ蓋シ日本ハ

七〇五 一月十九日 内田外務大臣(ヨリ)

在米國幣原大使宛(電報)

米軍ノシベリア撤退ニ關スル一月九日附國務

長官ノ覺書ニ対シ回答方訓令ノ件

別電 同日内田外務大臣発在米國幣原大使宛電報第二

二号

右回答覺書ノ内容

第二一号

貴電第一三号第一四号第一五号ニ閔シ

國務長官覺書ニ対シ日本政府ノ訓令ニ拠ル趣ヲ以テ貴官ノ

回答トシテ別電第三二号ノ通リノ覺書ヲ送致セラレタシ尚

本電並別電在英仏伊三大使ヘ転電ノ上別電ノ通リ米國政府ニ通告シタル旨任国政府ニ内告方本大臣ノ訓令トシテ附加セラレ度シ

(別電)

一月十九日内田外務大臣発在米國幣原大使宛電報第三二号

米軍ノシベリア撤退ニ閔スル一月九日附國務長官ノ覺書ニ対スル日本政府回答覺書ノ内容

第二三号

日本政府ハ西比利亞方面ニ於ケル米國軍隊及同國鐵道技術員ノ撤退方ニ閔スル本月九日附在米日本大使宛米國政府覺

八五三

一五 「シベリア」出兵関係一件 七〇六

八五四

書ヲ閱悉セリ

米国政府ハ増兵並ニ現状維持共ニ実行不可能トセラレ当初米国軍隊ヲ西比利亞ニ派遣シタル主要目的今ヤ既ニ終了シタルノ事実ト其後発生セル事態トニ顧ミ同國軍隊撤退ノコトニ決定セラレタル趣ヲ以テ右決定ニ到達セラレタル事由詳細説示セラルト同時ニ此決定ヲ為スノ已ムヲ得サルニ至リタルヲ遺憾トスル旨表陳セラレタル處日本政府ハ米国政府カ自己ノ都合ニ因リ撤兵ニ決定セラレタルニ対シ何等之ヲ是非セントスルノ意思ヲ有スルモノニ非ザルモ唯一昨年

両国西比利亞出兵以来相互保持來リタル協調ノ精神ニ顧ミ米国政府ニ於テ右ノ如キ決定ニ到達セラル前一応日本政府ニ協議セラルル所アルヘキヲ期待シタル次第ナルカ此点ニ付国務長官ハ一月十日ノ会見ニ於テ日本大使ニ対シ米国政府ニ於テハ内政関係上至急撤兵ノ必要ヲ認メラレタル処其手続意外ニ遲延シタルヨリ決定ノ際ハ最早日本政府ト協議ヲ為スノ余裕ナキニ至リタル為メ急速撤兵準備ニ着手セラレタルモノニシテ日本政府ニ協議ノ手続ヲ執ラレサリシコトハ深ク遺憾トスル所ナル旨陳弁セラレタル趣ヲ承知シ

公第三九号

(三月三日接受)

米国政府カ西比利撤兵ヲ公表シタル当日即チ一月十七日

Elihu Root 氏ハ客年十一月廿九日ヲ以テ在紐育米露商業會議所ニ於テナシタル演説ノ要領ヲ公表致候右ハ同氏ノ地位ニ鑑ミ多少参考ニ資スヘキモノアリト被存候ニ付右ニ関スル新聞記事抄訳相添此段及報告候也

(一)米国ハ露国ニ対シ誓ツテ友好援助ヲ約シナカラ悉ク食言シテ之ヲ実行セス露国ノ局面ハ幾多ノ変転ヲ経其間屢々

米国ノ動クヘキ機会少カラサリシニモ不拘米国ハ常ニ何等行動ノ準備ナクシテ之ヲ逸シ去レリ今ヤ露国ハ一時暗雲ニ閉サレタルノ觀アルモ早晚再ヒ機会ハ到着スヘシ吾人ハ吾人ノ与ヘタル誓約ヲ履マサルヘカラス今ニシテ予メ備ヘサレハ再ヒ機会ヲ失スルノ虞アリ

(二)両国親交ノ基礎ヲ築クヘキ秋ハ今ナリ露国ハ目下物資ヲ要スル事急ナリ露国秩序回復ノ後両国間ノ貿易開展ヲ計ラントセハ今日ヨリ之力準備行為ニ着手セサルヘカラスアルニ不拘米国ハ独リ晏如トシテ衆ニ遅ル大勢如斯米国実業家ハ須ク自ラ其執ルヘキ途ニ就キテ進マサルヘカ

書「シベリア」出兵関係一件 七〇六

八五五

日本政府ハ米国政府カ今回ノ決定ヲ為スニ先チ予メ日本政

府ニ協議ノ途ニ出テサリシコトノ必シモ他意アリシニアラサルヲ知ルヲ喜フモノナリ將又右会見ニ於テ本件ニ関聯シテ日本大使カ日本ニ於テ今後単獨ニテ依然軍隊ヲ駐屯セシメ又必要ナル増兵ヲ行ヒ且ツ鉄道運行計画ヲモ続行スル場合ニ米国政府ニ於テ之ニ対シ何等異議無キコトニ了解シ

然ルヘキヤト質問シタルニ対シ國務長官ハ固ヨリ米国政府ニ於テ異議ヲ唱フヘキ理由ナキ旨言明セラレタル趣ナルカ同官ノ坦懐ナル右言明ニ対シテハ日本政府ニ於テ満足トスル所ナリ

尚米国政府覚書末段ノ申出ニ付テハ日本政府ニ於テ曩ニ英仏両国政府ニ對シ十二月八日附覚書ノ内容ヲ通牒シ置キタルモ今回更ニ之ヲ伊国政府ニモ通牒スヘキ旨並ニ本覚書ノ内容モ同様之ヲ英仏伊三国政府ニ通牒スヘキ旨ヲ茲ニ附言ス

尚米国政府覚書末段ノ申出ニ付テハ日本政府ニ於テ曩ニ英仏両国政府ニ對シ十二月八日附覚書ノ内容ヲ通牒シ置キタルモ今回更ニ之ヲ伊国政府ニモ通牒スヘキ旨並ニ本覚書ノ内容モ同様之ヲ英仏伊三国政府ニ通牒スヘキ旨ヲ茲ニ附言ス

七〇六 一月二十日 在米國幣原大使ヨリ

内田外務大臣宛

ルート氏ノ露国援助ニ関スル演説ニ付報告ノ件

ラス然ル時ハ一面ニ於テ憐レナル露国人ヲシテ米国ヨリ空言ノ外何物カヲ得セシムルノ結果トナルヘシ
(二)吾人ハ過激派ヲ其本陣ニ於テ屠ラサルヘカラス米国政府ハ國內ニ於テ寥々タル過激主義運動者ヲ捕ヘ鼓ヲ鳴シテ過激派討伐ヲ呼号スト雖モ其本源タル露国ニ於テハ兇暴ナル少數者独逸ノ資金ニヨリ傭兵ニヨリテ老帝国ヲ支配シ滾々トシテ尽キサル宣伝運動ノ毒流ヲ世界ニ流シツアリ病ハ其源ヲ治セサレハ効ナシ
吾人ハ過激派ト戦ハントノ熱望ヲ有スル露国人ニ軍需品其他ノ物資ヲ供給シ彼等自身ノ力ニヨリテ之ヲ破ラシメ露國ヲ光明ニ導カサルヘカラス之過激派絶滅ノ根本策也予ハ露国ノ将来ヲ樂観ス革命ノ大業ハ一朝一夕ニシテ成就シ難キ事米国ノ実驗ニ照スモ明カナリ露国カ数年ノ後鞏固ナル共和国ヲ樹立シテ世界列強ノ班ニ復帰スル時米露ノ関係ヲ定ムヘキ標準ハ今日ニ於ケル米国ノ対露政策ニ因由セサルヲ得ス米国実業家ハ時ヲ移サスシテ直チニ活動ニ着手シ得ヘキ地位ニアリ米国人ハ来ルヘキ機会ニ於テ有効ナル援助ヲ与フル準備ニ着手シ得ヘキ地位ニアリ

民々両國ノ親交ヲ真リ歎望スル事ヲ了解セシム機ヲ移サバ
直ニ実行ニ入ラサルカラス^ハ

1月11日 在本邦米国大使^ハ
埴原外務次官宛

404 | ハマニカ派遺米軍ノ撤退通知ニ付行達紙明

廿

Personal and Confidential Tokyo, January 22, 1920.
(1月24日発送)

My dear Mr. Hanihara:

In conformity with my promise of the other day I am sending herewith a paraphrase of what I read to you and was instructed by the Department of State to explain to His Excellency the Minister for Foreign Affairs. It is as follows:

There has been no purpose on the part of the Government of the United States to act in any other way than frankly and with the greatest possible coordination. The aide-memoire left by Ambassador Shidehara with the Secretary of State on December 8th, presented clearly, it was understood, three alternative

Japan, the Czecho-Slovaks' safe evacuation.

I am, My dear Mr. Hanihara,

Sincerely yours,

(Signed) Roland Morris

404 1月11十四日 在米国幣原大使宛(電報)

米軍ノハマニカ撤退ニ關ハ 1月11日正

本政府覚書ニ國務長官ニ手交ノ件

別 電 同日在米国幣原大使宛内田外務大臣宛電報第11
九号

右覚書

第三十八号

貴電第11号ニ關シ 1月11日國務長官ニ会見シ先ツ
月九日附國務長官覺書及1月10日同官ノ談話ニ對スル回答
トシテ本国政府ヨリ電訓ニ接シタル旨ヲ述ヘタルニ同官ハ
語ヲ遮リ再ヒ「グローバス」少將ノ大井司令官宛 1月8日
附通告カ全ク不慮ノ錯誤ニ由テタルコトヲ謝シ同事件ニ付
テハ深ク痛心スル旨ヲ繰返セリ(右ハ今朝當地新聞紙ニ發
表セラレタル閣下ノ帝国議會ニ於ケル御演説中本件ニ言及

courses of action: reinforcement, maintenance of the status quo, or withdrawal. It also required a definite answer. Because of the illness of the President, with whom final decision rested, it was necessary to present the question categorically. As soon as his decision was learned it was communicated as quickly as possible to Ambassador Shidehara and to the Embassy at Tokyo by means of the memorandum dated January 9th.

The departure of American troops, as reference to the memorandum of January 9th will show, is not intended before the Czecho-Slovaks' safe evacuation has been assured. Orders have been sent General Graves to report on the present disposition of the Czecho-Slovaks, and also of his own troops. The instructions which will be given him eventually respecting departure of the American troops, or their removal from railway sectors now guarded by them, will be based upon a consideration of the report of American evacuation, with a view to assuring, in cooperation with the military forces of

ヤハニタル所アリタルヲ以テ特リ同官ノ注意ヲ惹キタル可シ)

次テ本使ハ貴電第111号ノ趣旨ニ依リ作成セル別電第三十九
号覚書(1月11日附)ヲ讀ミ上ハタル處同官ハ其ノ記
載事項ニ付ニ々首肯セル後本覚書ハ當地ニ於テ公表スルコト
ト一般公衆ノ誤解ヲ避クル為有益ト思考スル旨ヲ述べ日本
政府ニ於テ右公表ニ異議アリヤト問ヒタルニ付本使ハ一応
請訓ノ上何分ノ儀回答スシト答ヘ置キタリ就テハ右公表
ニ付スル御異議ノ有無御回訓ヲ請フ
尚國務長官ハ11月8日附本使ノ覚書ニ付テモ諸方面ニ於
テ公表ヲ希望スルモノアル旨ヲ語リタルニ付本使一個ノ私
見トシテハ該覚書ハ日本政府ノ露國過激派ニ付スル将来ノ
方針ヲ暗示スル所アルニ顧ミ過激派ヲシテ之ヲ知悉セシム
ルコトハ不得策ナル可ク從シテ本使トシテハ該覚書全文ノ
公表ヲ本国政府ニ稟議スルコト能ハズト答ヘタルニ國務長
官ハ如何ニモ最モナリト言クリ

尚同官ハ西比利問題将来ノ發展ハ自分ニ於テモ深ク関心ス
ル所ニシテ當國公衆中ニハ種々ノ臆説ヲ為スモノ尠カラス
最近東京ヨリノ新聞電報ニヨレハ日本ニ於テモ西比利撤兵

ハ誰リ決ムタニトシタルル結果シテ然ルハ現在ノ西比利
駐屯軍ハ滿洲ニ集中ヤラルルノ意ナリヤ又東清鉄道ハ日支
両國孰ノ軍隊ノ守備ニ歸スケキヤ若クハ両國ノ共同守備
ニナハクキヤト問ニタルニ付本使ハ未タニニ闇クル何等ハ
報道ヲセ有ヤベト答ヘタルニ同官ハ日本政府ノ今後孰ル
キ行動ニ闇シテ、隨時通報ヲ得ハシテ希望シ本使ハ於
ト其眞ニ帝国政府ニ近クハシテ依頼セリ本使ニ於テモ右
ノ無根ノ虚説又ハ疑惑ヲ除ク為帝国政府ニ於テ差支ナギ限
リ、隨時其ノ行動ヲ米国政府ニ通報セハルニ必要ニ思
セリハルニ付然ルク御取計相成様致シタシ

(元 署)

1月11十四日 在米國務院大使翁内田外務大臣宛電報第119号

米軍ハシベニア撤退ニ闇シ 1月9日 附國務長官ノ覚書ニ於スル
日本政府ノ覚書

No. 39 Betsuden

Memorandum

The Japanese Government have carefully examined
the memorandum of the Department of State addressed
to the Japanese Ambassador at Washington on January
9, 1920, on the subject of the withdrawal of American

cooperation in which the military enterprise in Siberia
(脱) since been conducted by the two Powers, the Jap-
anese Government had expected that in proceeding to
final decision to put an end to such undertaking, the
American Government would be willing to communicate
with them in advance.

They are informed that the honorable the Secretary
of State, in the course of his conversation with the Jap-
anese Ambassador on January 10, explained that in
view of the conditions prevailing in the United States,
the American Government had found it urgently neces-
sary to effect an early withdrawal of American troops
from Siberia, and that when the decision was reached,
there was no time left for the discussion of the question
with the Japanese Government. Preparations for the
departure of American troops from Siberia were accord-
ingly ordered forthwith, and the Secretary of State
regretted that he had not been able to consult the Jap-
anese Government beforehand on the step thus taken.

In that Memorandum it is stated that for the United States, neither the sending of a reinforcement to Sibe-
ria, nor the further maintenance of the expeditionary
forces has been found practicable, and that having re-
gard to the main objects of the American military
expedition which have now been accomplished, and also
to the situation which has lately developed in Siberia,
the decision has been taken by the Government of the
United States, to proceed to the withdrawal of American
troops, and at the same time to recall the American
railway experts at assisting the operation of the Trans-
Siberian and the Chinese Eastern railways. After de-
scribing the considerations on which this conclusion is
based, the Memorandum expresses the regret of the
American Government for the necessity of such decision.

The Japanese Government have no intention what-
ever of calling in question the propriety of its own
accord. Relying, however, on the spirit of harmonious

The Japanese Government are happy to be assured
that the failure of the American Government to com-
municate with them on the subject before the decision
was finally taken was due to no other consideration
than the need of prompt action under special conditions
mentioned by the Secretary of State.

The Japanese Government are happy to be assured
that the failure of the American Government to com-
municate with them on the subject before the decision
was finally taken was due to no other consideration
than the need of prompt action under special conditions
mentioned by the Secretary of State.

They are further gratified to learn that in reply to
the questions submitted by the Japanese Ambassador
on the decision (脱) of the foregoing interview, the Sec-
retary of State declared that the American Government
would have no objection to the decision which might
be reached on the part of Japan to continue single-
handed the stationing of her troops in Siberia or to send
a reinforcement in case of need or to carry the assistance
in the operation of the Trans-Siberian and the Chinese
Eastern Railways with reference to the last paragraph
of the Memorandum of the Department of State under
examination, the Japanese Government have already
communicated the British and French Governments the

115 「シベリア」出兵関係一件 408 シ10

八六〇

substance of the aide-memoire of the Japanese Embassy handed to the Secretary of State on December 8, and they will communicate it equally to the Italian Government. They will also make known to the British, French and Italian Governments the substance of the present memorandum.

Shidehara
四〇九 一月二十四日 在浦潮菊池總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）
日本軍隊ノシベリア駐兵ヲ希望スル各種団体
連合協議会ノ決議ニ付報告ノ件

第一七号

全露商工業組合浦潮支部、極東護国会、「オムスク」非社會党聯合会、浦潮商業會議所、浦潮家主組合、極東漁業組合、沿海州山林組合、烏蘇里鉱山業組合、露國工商業援助會其他各市資產階級各代表ヲ網羅セル聯合協議会ハ一月二十二日日本ノ過激派討伐ニ対スル武力援助極東占領問題ニ就キ審議ノ上決議其ノ旨一月二十四日新聞紙上ニ發表シタルガ要領左ノ如シ

第一一、社会党ハ頻リニ日本軍ノ撤退必要ヲ呼ブモ右ハ過激派ノ煽動籠絡ニ因ルモノニシテ國民ノ意ニアラズ彼等ハ結局過激派ノ為ニ排日又ハ葉籠中ノモノトナルベキハ前ノ「ケレンスキイ」ノ運命、最近ノ「イルクーツク」ノ例ニ徴シ明瞭ナリ而シテ結果多數民衆ニ多大ノ苦ヲ齎スニ過キザルベシ故ニ吾人ハ日本ノ極東ニ於ケル友誼的武力援助ヲ衷心必要トシ且ツ歓迎スルモノナリ云々

右御参考迄
七一〇 一月二十七日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）
兵ニ決シタル迄ナリ

第七号

七一一 一月三十日 内田外務大臣ヨリ
在米國幣原大使（電報）
米軍ノシベリア撤兵ニ關スル日米両國間往復文書ノ公表問題ニ付回訓ノ件

第四七号

貴電第三八号ニ關シ

貴電第三九号覚書ハ米國政府ニ於テ之ヲ公表セラルモ差支ナク帝國政府ニ於テモ之ヲ公表スヘキ旨回答セラレタシ尚帝國政府最初ノ通牒ハ貴見ノ如ク公表セサル方得策ニ付

右様御含置アリタシ

七一二 二月一日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）
シベリア派遣米軍ノ撤退ニ關シ一月二十二日

附我方覺書ニ付回訓ノ件
別電 一月三日在米國幣原大使堯内田外務大臣宛電報
第五五号

右回答

（一月七日接受）

貴電第四七号ニ關シ

一月二十一日附當館覺書公表ノ件一月三十一日書面ヲ以テ

國務長官ハ通牒シタル處ナレ行違ニ回岐御ニ別電第
五五號ハ通ニ一月二十一日附覺書ニ接シタリ
在英仏伊ニ転電ヤニ
(元 聞) 一月二十一日蓋翁方覺書ニ於ベニ米國政府ヘ回如
九日接納)

No. 55 Betsuden

The Government of the United States has received memorandum under date of 22nd instant, in which the Japanese Embassy, on behalf of the Imperial Japanese Government, took note of the memorandum by which this Government communicated its decision to proceed to the withdrawal of troops from Siberia and to recall the American railway experts now assisting in the operation of the Siberian and of the Chinese Eastern Railways.

The Government of the United States has particularly noted that paragraph of the memorandum in which the Imperial Japanese Government expresses its

to the Russian people, the Government of the United States desires to record assurance of its confidence that the Imperial Japanese Government will, in the exercise of trust developing upon it, pursue the same policy that was mutually agreed upon when the two governments determined to co-operate in Siberia, particularly in connection with operation of the Siberian railway system (including therein the Chinese Eastern Railway), existing rights to which, it is confidently assumed, will in no way be impaired in consequence of efforts of the Japanese Government to carry out purposes which induced two Governments to send their military forces to Siberia.

The present memorandum is being communicated to the British, French and Italian Governments.

Shidehara

英仏伊ニ転電ヤニ

(右和訳文)

米國政府ハ曩ニ覺書ヲ以テ其ノ軍隊ヲ西比利亞ニ撤退シ
一月 「ハノーラト」 王政閣送1件 ナリ

gratification at the intimation conveyed by the Secretary of State to the Japanese Ambassador that the American Government would have no objection to the decision which might be reached on the part of Japan (脱) continuation singlehanded of the stationing of her troops in Siberia or send reinforcement in case of need or carry on assistance in the operation of the Trans-Siberian and the Chinese Eastern Railways.

This Government is happy to take occasion to confirm the intimation thus given by the Secretary of State that it has no desire to present any obstacle to such measures as the Japanese Government may find necessary to the achievement of announced purposes which induced co-operation of American and Japanese Governments in Siberia. In giving this confirmation of intimation thus conveyed by the Secretary of State in connection with this Government's withdrawal from further active participation in measures of military and technical assistance which it has been sought to render

此現今西比利亞鐵道並東支鐵道ハ運行ヲ援助シタルル米國鐵道從業員ヲ弓揚クルノ決定ヲ日本政府ニ通告シタル處右ニ対シ日本大使ヨリ一月二十一日附覺書ヲ以テ其ノ本国政府ニ代リ右ハ趣説承シタル旨通報ニ接シタリ
米國政府ハ日本側ニ於テ单独ニ其ノ軍隊ヲ西比利亞ニ駐屯シシテ又必要ノ場合ニ於テハ軍隊ヲ増援シ若ハ西比利亞鐵道及東支鐵道ノ運行ヲ援助ヲ與フルコトニ決定セハルル場合ニシテ何等ノ異議ヲ有セサルくキ旨國務長官ヨリ日本大使ニ通照シタル儀ニ關シ日本政府カ満足ヲ表ベル旨其ノ覺書中ハ一節ニ於テ叙説セラシタルベ特ニ之ヲ了然セリ
米國政府ハ日本政府カ西比利亞ニ於テ日米両國ハ共同動作ヲ誘致シタル周知ノ由的ヲ達スルニ必要ナリト認メ之カ為執ハシタル手段ニ対シ何等ノ支障ヲ構フルヲ欲セサル旨國務長官ノ開示シタル所ヲ茲ニ確認スルノ機会ヲ得タルヲ欣幸ムベルセナリ

米國政府ハ右ノ如ク露西亞人ニ対シ供与スルノ由のリ由テタル軍事上及技術上ノ援助行動ニ今後現実ノ參加ヲ為ササルくキ旨國務長官ヨリ開示シタル所ヲ確認スルニ際シ日本政府カ其負担スル責務ヲ遂行スルリ判リテハ曩ニ日米両國

一五 「シベリア」出兵関係一件 七一三 七一四

八六四

政府カ西班牙ニ於テ協力スルコトヲ決定シタル當時相互間ニ協定シタル政策特ニ西班牙鉄道(東支鉄道ヲ包含ス)ノ運行ニ関スル政策ヲ踏襲スヘキヲ確信シ且同鉄道ニ対スル既存ノ権利ハ両国政府カ西班牙ニ軍隊ヲ派遣スルニ至リタル目的ノ遂行上日本政府ノ尽サルヘキ努力ニ依リ何等侵害ヲ被ラサルコトヲ深ク期待スル次第ヲ開陳セムコトヲ欲スルモノナリ

本覚書ハ之ヲ英仏伊政府ニ通牒セントス

七一三 二月三日 開議決定

浦潮附近ニ於ケル騒擾ニ付採ルヘキ措置ニ關

シ指示ノ件

陸軍次官ヨリ浦潮派遣軍參謀長ヘ電報案

最近「ニコリスク」及浦潮等ニ於ケル騒擾ハ「チエック」軍ノ還送ヲ阻礙シ且ツ公安ニ危險ナルモノアルヤニ察セラルル処過般大臣ヨリ対政治團體態度ニ關シ指示アリタルモ将来真ニ過激派ノ行動ニシテ前記ノ懸念アリト認メラルル場合ニ於テハ適応ノ処置ヲ執ルコトハ差支ナキ義ニ付為念

陸軍省

当地政變後ニ於ケル當局ノ態度ヲ確メ彼我ノ意思疏通ヲ計ルハ刻下ノ急務ナリト認メタルニ付本官ハ二月二日當州自冶會議長「メドウエジョフ」ト會見シ意見ノ交換ヲ試ミタルガ「メ」ハ本次ノ政變ガ「コルチャック」側ノ暴政ニ慊ラザリシ民衆及軍隊ガ自分等ヲ信任シタルニ依リ流血ヲ見ズシテ行ハレタル顛末ヲ詳説シ今ヤ當市会及「コラペラチーズ」職業組合郡部自治会等公共團體及帝国銀行前「ロザノフ」民政部員前政府各代表官ノ大部分等官衙側ノ重ナル者及前政府軍「バルチザン」(過激派ヲ含ム)及南部烏蘇里「コザック」分隊等何レモ新政權ニ服従忠順ノ意ヲ表シ来レルヲ以テ近々「ハバロフスク」其他當州全部ノ結合ヲ見ルベク當州一帶固定ノ上ハ漸次黒龍及後貝加爾各州トモ連

(欄外註記)
「二月四日電報済」

七一四 二月四日 在浦潮松平政務部長ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

浦潮政變後ノ新政權ノ態度打診ノ為メドウエ

ジヨフ自治會議長ト會見ノ件

第五五号

(二月五日接受)

各国ニ取り甚ダ迷惑ナル問題ナルガ伊國ニ於テハ御承知ノ通リ議會總選挙ノ結果社會黨ノ政綱ハ少クトモ表面上「レーニン」政府ノ支援ヲ標榜シ居ルヲ以テ政府トシテハ何等積極的政策ヲ採ルコトヲ得ザル事情ニアリ

七一六 二月十一日 在米國幣原大使ヨリ

米軍ノシベリア撤兵ニ關スル日米兩國間往復
文書ノ公表見合方國務長官ヨリ申越ノ件

第七〇号 (二月十八日接受)

往電第五四号覚書公表ノ件ニ關シ二月五日附書面(十日接受)ヲ以テ國務長官ヨリ帝國政府ニ於テ十二月八日本使ノ

覺書公表ヲ欲セサルニ於テハ他ノ關係書面ノミヲ公表スルコト却テ誤解又ハ質疑ヲ招ク虞アルニ付十二月八日及一月二十二日附本使覺書一月九日及同三十日附國務省覺書ハ全部公表ヲ見合ハスコトシ度旨申越シタリ一月九日覺書ハ國務省ニ於テ公表セルコト既電ノ通り去ル二十三日本使長官ト会見ノ際十二月八日ノ覺書公表ハ好マシカラサル事情説明シタルニ長官ニ於テモ可ナリト答ヘ別ニ異見ヲ述ヘサリシニ斯ル書面ヲ送付セルニ至リタルハ其後國務省部内ニ異論ニテモ起リ長官ニ於テ曰ムヲ得ズ其態度ヲ変更スルニ

西比利亞駐兵問題ニ關スル最近ノ帝國對米回答ニ付伊国外務省書記官長ノ本使ニ語ル所左ノ如シ

日本政府ノ態度ハ甚ダ正当ナリト思考ス兔ニ角露國事件ハ

一五 「シベリア」出兵關係一件 七一五 七一六

八六五

一五 「シベリア」出兵関係一件 七一七

至リタル次第ナルヘキカト察セラル兎ニ角先方ニ於テ公表ヲ希望セザル以上我方ニ於テ未タ公表前ナルニ於テハ全文公表ノ義ハ見合セラル様致シ度ク何分ノ義御回電ヲ請フ

七一七 二月二十八日

（陸軍省烟歩兵大佐ヨリ
外務省政務局宛）

北満駐兵二件フ日支交渉案件

第一、対労農政府政策

一、日支両国ハ労農政府ニ対シ常ニ一致ノ歩調ヲ執リ單独行動ハ嚴ニ之ヲ避ケルヲ要ス

二、日支両国ノ労農政府ニ対スル特殊ノ政策ハ世界列強ノ趨勢ニ顧ミ両国ノ露國ニ対スル特殊ノ關係ニ鑑ミ姑ク極東ニ於ケル同政府ノ施政ヲ觀察シ徐ロニ対策ヲ決定ス

三、労農政府軍若シ日支両国軍ノ一方若ハ双方ニ対シ攻勢ヲ執ルトキハ両国軍ハ協同シテ同政府軍ニ対シ対敵行動ヲ執ルヘシ

第二、東支鐵道沿線ニ於ケル露國ノ政治團体ニ対スル態度

一、東支鐵道沿線ニ於テハ労農政府ニ対スル対策決定セラル迄同政府系統ノ政治團体及之ニ属スル軍隊ノ存

在ヲ許サス姑ク露國ノ穩健團体ヲシテ施政ニ任セシム

政情安定スルニ至レハ全部撤退ス

註 右交渉案件ハ軍務局ノ試案ト認メラル
(欄外註記)

「對労農政府政策ハ列國ノ政策如何ヲ參酌スルヲ要シ倫敦會議ノ結果ヲ俟ツベキモノト思考ス(芳沢政務局長)」

七一八 三月一日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛 (電報)

シベリア派遣軍守備地域短縮並ニ二閥連シテ

東支線及蘇城以南沿海州ニ我軍駐屯ノ件

別電一

同日内田外務大臣発在中国小幡公使宛電報第

一三〇号

後貝加爾ヨリ浦潮ニ至ル間ニ於ケル過激派團體ニ對スル件ニ対シ採ルヘキ派遣軍ノ態度ニ閑スル件
(別電一)
三月一日内田外務大臣発在中国小幡公使宛電報第一三〇号
後貝加爾ヨリ浦潮ニ至ル間ニ於ケル過激派團體ニ對スル件ニ閑スル件

二 同右電報第一三一号

チエック、スロヴァック軍極東ロシア転進後ノ事態ニ於ケル日本軍ノ守備地域縮小ノ方針ニ閑スル件

三 同右電報第一三三号

対露軍事行動ニ閑シ日本中國徹底的協議方中國側へ申入訓電ノ件

第一二九号

八六六

二、東支鐵道沿線ニ於テハ公安ヲ害スル政治團体及之ニ属スル軍隊ノ存在ヲ許サス

第三、対東支鐵道政策

一、日本國ハ支那國ノ東支鐵道ニ対スル特殊ノ權利及利益ヲ尊重ス

二、支那國ハ日本國ノ南滿洲鐵道カ東支鐵道ト密接ナル關係アルニ顧ミ東支南線ニ対スル日本ノ権利利益ヲ尊重ス

第四、日本軍ノ北満洲駐屯

一、日本軍ハ支那國軍ト協同シテ労農政府軍ノ極東露領ニ対スル行動ヲ監視シ機宜ノ処置ニ出テンカ為滿洲里及黑河附近ニ兵力ヲ配置ス

二、日本軍ハ浦潮方面ト南滿洲方面トノ連結ヲ容易ナラシメ且滿洲里附近及黑河ニ在ル部隊ノ補給ヲ確実ナラシムル為哈爾賓附近ニ一部隊ヲ配置ス

三、北満洲ニ於ケル日支両国軍ノ協同ニ閑シテハ日支軍事協定ヲ準用ス

四、北満洲ニ在ル日本軍ハ露國ノ政權確立シ極東露領ノ

西比利亞派遣軍守備地域短縮並ニ二閑聯シテ東支線及蘇城

一五 「シベリア」出兵關係一件 七一八

八六七

一五 「シベリア」出兵関係一件 七一八

八六八

サル旨ヲ警告シ且其ノ監視ニ必要ナル方法ヲ講セラルヘシ
但シ予メ穩健政治団体ト意思ヲ疏通シ且支那側トモ打合セ
ラルヲ必要ト認ム當方ヨリモ支那中央部へ交渉スヘシ又
黒竜州ヨリ我軍ヲ撤退スルコトニ就テハ參謀總長ヨリ指示
スル筈

(別電二)

三月一日内田外務大臣発在中國小幡公使宛電報第一三二号
チェック、スローヴァック軍極東ロシア転進後ノ事態ニ於ケル日
本軍ノ守備地域縮小ノ方針ニ関スル件

第一三一號別電乙

浦潮派遺軍ノ行動ニ就テ

「チェック、スローヴァック」軍ハ二月下旬乃至三月上旬
ニ於テ其ノ後尾ヲ以テ貝加爾湖附近ヲ通過スヘク同軍輸送
ノ完了後極東露領ノ政情安定ナラサル為累ヲ帝国ニ及ホス
ヘキニ鑑ムルトキハ我接壤近邇ノ關係アル地方ニ於テハ帝
國ノ自衛上直ニ撤兵ヲ許サナルモノアリ依テ浦潮派遺軍ノ
行動ハ将来左ノ要領ニ準拠スルコト致度シ

一、派遣軍ハ其ノ兵力ヲ概ネ滿州里附近ヨリ「ボグラニチ
ナヤ」附近ニ至ル東支鐵道沿線及「ボグラニチナヤ」附
近ヨリ蘇城附近ニ至ル線以南ノ沿海州地方ニ配置ス

テ相当ノ人物ヲ密ニ東京ニ派遣シ我政府當局ト商議セシム
ルヲ必要且有効ノ手段ナルヘキヲ慤通シ其ノ運ニ至ル様尽
力セラレタシ但シ小幡公使トモ内議シ若シ実行到底不可能
ト判断サルレハ寧ロ交渉セサルヲ可トス
本件ハ首相外相承知済

七一九 三月二日 開議決定

守備地域ヲ縮小シテ依然シベリア派遺軍ノ駐 留ヲ繼續スル件

附記 三月五日外交調査会決定

帝國ノ西比利亞出兵ハ一昨年八月ノ帝國政府宣言ニ明記シ
アル通リ主トシテ「チェック、スローヴァック」軍ノ救援
ヲ目的トセルモノナルカ今ヤ同軍ハ近キ将来ニ於テ西比利
亞ヲ撤退スヘク從テ帝國トシテハ既ニ西比利亞出兵ノ目的
ヲ達シタル次第ニ付单ニ右ノ見地ニ立論スルトキハ直ニ撤
兵ヲ実行スヘキ筈ナリ然ルニ西比利亞ニ於ケル事体ハ益々
混沌ヲ極メ過激派ノ勢力將ニ東部西比利亞ヲ席捲セントス
ルニ至リ帝國ト一衣帶水ノ浦潮方面モ全然過激派ノ掌中ニ
兵ニ於ケル

混沌ヲ極メ過激派ノ勢力將ニ東部西比利亞ヲ席捲セントス

ルニ至リ帝國ト一衣帶水ノ浦潮方面モ全然過激派ノ掌中ニ
兵ニ於ケル

二、東支鐵道沿線ニ於テハ日支兩國軍協同シテ交通及治安

ヲ維持シ以テ直接滿洲方面ニ對スル過激派ノ行動ヲ防止
ス

三、烏蘇里地方ニ於テハ帝國軍ハ守備地域内ノ交通及治安
ヲ維持シ以テ直接朝鮮北境及吉林省東境ニ對スル過激派
ノ行動ヲ防止ス

四、過激派ニ屬スル軍隊ニシテ我守備地域内ノ騒擾ヲ企図
スルカ又ハ我軍隊ニ危害ヲ加ヘントスルニ於テハ派遣軍

ハ自衛上所要ノ処置ニ出ツヘシ

五、派遣軍ノ守備ヲ撤退スヘキ地域ニ在ル我官民ハ軍事行
動開始ニ先チ退去セシム

(別電三)

三月一日内田外務大臣発在中國小幡公使宛電報第一三三号
對露軍事行動ニ關シ日本中國徹底的協議方中國側ヘ申入訓電ノ
件

第一三三號別電丙

陸軍大臣ヨリ坂西少將宛

貴官ハ段祺瑞及靳雲鵬ニ貴官ノ心付トシテ刻下日支兩國ノ
對露軍事行動ハ兩國共存ノ根原ニ關係スルモノナルコトヲ
力説シ之カ対策ヲ徹底的ニ協議スルカ為兩人ノ腹心ノ者ニ

多朝鮮人部落ヲ挙テ同派行政ノ下ニ帰セシムルハ勿論接壤
地タル朝鮮ニ對スル一大脅威ヲ現出スルト同時ニ同派ハ黑
龍江ヲ渡テ北滿ニ侵入シ來ルノ虞アル處如此ハ帝國ノ国防
上固ヨリ默視シ難キ所タリ蓋シ過激派ニ對スル防禦ハ或ハ
武力ノミヲ以テ成シ得ル所ニ非サルヘキモ武力ニ依ラスシ
テ全然之ヲ防禦シ得ヘキコトモ未タ遽ニ之ヲ信スル能ハサ
ル次第ナルカ故差当リ帝國軍隊ノ守備線ヲ短縮シ後貝加爾
及ヒ黑龍江方面ノ軍隊ヲ撤シテ之ヲ東支鐵道及ヒ浦潮方面
ニ移駐セシメ以テ帝國臣民ノ保護竝ニ北滿及ヒ朝鮮ニ對ス
ル防備ニ當ラシメ靜ニ形勢ノ推移ヲ觀ルヲ要ス「ニコライ
ウスク」ハ黑龍江ノ河口ニ位シ我樺太ニ對スル防備上ノ要
地ナルヲ以テ日下同地ニ駐屯スル我陸海ノ守備兵ハ依然之
ヲ留置ス

(欄外註記)

「病氣ニテ開議欠席ノ陸相ヨリ注文アリ多少ノ変更ヲ加ヘ三月
五日外交調査会ニ提出シ其決定ヲ得タリ尚右變更ノ次第ハ三月
六日ノ開議ニ報告済(内田康哉印)」

附記 三月五日外交調査会決定

帝國ノ西伯利出兵ハ一昨年八月ノ帝國政府宣言ニ明記シ
ル通リ主トシテ「チェック、スローヴァック」軍ノ救援ヲ目

一五 「シベリア」出兵関係一件 七二〇

八七〇

的トセルモノナルカ今ヤ同軍ハ近キ将来ニ於テ西比利ヲ撤

退スヘク從テ帝国トシテハ將ニ西比利出兵ノ目的ヲ達ゼン

トスル次第ニ付单ニ右ノ見地ニ立論スルトキハ間モナク撤

兵ヲ実行スヘキ筈ナリ然ルニ西比利ニ於ケル事態ハ益々混

沌ヲ極メ過激派ノ勢力將ニ東部西伯利ヲ席捲セントスルニ

至リ帝国ト一衣帶水ノ浦潮方面モ全然過激派ノ掌中ニ帰シ

接壤地タル朝鮮ニ對スル一大脅威ヲ現出スルト同時ニ同派

ハ進テ北満ニ侵入シ來ルノ虞アル処如此ハ帝国ノ自衛上默

視シ難キ所タリ依テ帝国軍隊ノ守備線ヲ短縮シ後貝加爾及

黑龍江方面ノ軍隊ヲ撤シテ之ヲ概ネ東支鐵道沿線及浦潮地

方ノ沿海州ニ配置シテ此等地方ノ交通及治安ヲ維持シ直接

満洲及朝鮮方面ニ對スル過激派ノ行動ヲ防止シ以テ形勢ノ

推移ヲ観ルヲ要ス「ニコライウスク」ハ黒龍江ノ河口ニ位

シ我樺太ニ對スル防備上ノ要地ナルヲ以テ目下同地ニ駐屯

スル我陸海ノ守備兵ハ依然之ヲ留置ス

七二〇 三月九日

田中陸軍大臣ヨリ

大井浦潮派遣軍司令官宛（電報）

浦潮派遣軍ニ對シ新情勢ニ即応シテ採ルヘキ

方針指示ノ件

同沿線ノ交通及治安ノ維持ハ主トシテ支那國軍隊ヲシテ
之ニ當ラシメ軍ハ之ト密接ナル協調ヲ保持スヘシ

六、行動地域内ニ於ケル鮮人ノ情態ニ注意シ適応ノ処置ヲ
執ルヲ要ス

七、帝國軍人ノ外人ニ對スル態度ハ其ノ威信ヲ保持スルト
共ニ勉メテ其ノ關係ヲ円満ナラシメ万一事端ヲ生スルニ
至レハ所在官憲適宜ノ処置ヲ講シ迅速ナル解決ヲ為スヲ
要ス

八、駐屯久シキニ從ヒ軍紀風紀ヲ弛緩スルノ虞ナキニアラ
ス各級幹部ハ自ラ戒メ部下ヲ指導シ遺憾ナキヲ期スヘシ

特ニ過激思想ノ感染ヲ防止シ國軍ノ声価ヲ失墜セサルコ
トニ閑シテハ深甚ナル注意ヲ加フルヲ要ス

（欄外註記）

「九年三月八日陸軍次官來談手交」

「九年三月九日閣議決定（内田外相印）」

七二一 三月十二日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

過激派ニ對シ武力ヲ使用シテ打撃ヲ加へント

スル我軍ノ企圖ニ對シ反対ノ旨意見具申ノ件

一五 「シベリア」出兵関係一件 七二一

陸軍大臣ヨリ浦潮派遣軍司令官へ指示
「チェック、スローヴ・アック」軍救援ノ目的ヲ以テ聯合与
國ト共ニ西伯利ニ派兵シテヨリ以來將ニ二歳今ヤ同軍ノ帰
還終了ニ際シ所管事項ニ關シ指示セントス

一、東漸スル過激派ニ對スル帝国ノ態度ハ自衛上軍ノ行動
地域ヲ保持シテ形勢ノ推移ヲ觀察スルニ在リ

二、極東露領ノ政情安定ナラサルハ累ヲ朝鮮及満洲ニ及
スモノアルニ鑑ミ軍ハ其ノ行動地域内ニ於ケル交通及治
安ヲ維持スルモノトス

三、行動地域内ニ於ケル施政ハ露国人ヲシテ之ニ當ラシメ
民意ト旧慣トヲ顧慮シテ統治宜キニ適セシメ該政治團体
ヲ支援シテ施政ヲ容易ナラシムヘシ

四、軍駐屯ノ目的ハ行動地域ノ交通及治安ヲ維持スルニ存
スルニ顧ミ軍ハ須ク此ノ根本ニ依遵シ特ニ部内一般ニ之
ヲ徹底周知セシメ從来ノ關係ニ拘泥スルコトナク各機關
一致ノ歩調ヲ執リ苟モ他ノ誤解ヲ招キ累ヲ国交ニ及ホサ
サルヲ要ス

五、東支鐵道沿線ニ於ケル支那國ノ權利利益ハ之ヲ尊重シ

第一〇九号 極秘 （三月十四日接受）

別電第一一〇号「ラズドルノエ」附近ノ隧道守備問題ニ關シ
軍司令部ヨリ我各軍隊ニ出シタル訓示御参考迄ニ報告ス本
件ニ關シテハ我軍憲側ニ於テハ武力ヲ用ユル決心ヲ以テ着
々準備ヲナシツツアルカ万一衝突ヲ起スニ於テハ浦潮始メ
全線ニ於テ革命側ト日本軍トノ衝突トナリ從テ勞農及人民
ノ大部分ヲ敵トシテ戰フ結果トナリ黒龍州ニ於ケル先般來
ノ状態ヲ更ニ大規模ニ現出シ而モ黒龍州ニ於テハ表面ハ露
國軍ヲ援助シタル形ニナリ居リタルモ今回ノ場合ハ援助ス
ヘキ露國軍ナキ為結局日本カ正面ニ起チ露國人民ヲ敵トシ
テ戰フコトトナリ其結果ハ帝國ノ将来ニ執リ極メテ不利ナ
リト思考セルニ付本官ハ「ユラユエスキ」其他代行當局ニ
モ數回面会ノ上鐵道協定ノ性質武官會議ノ決議効力等ヲ説
キ且又日本軍ノ立場及名譽ニ顧ミ日本側ニ於テ体面上放棄
シ難キニ付露軍ニ於テ穩カニ引取り日本軍ニ信賴シテ守備
ヲ任スルコトノ然ルヘキコトヲ説示シタルモ露國側ニ於テ
ハ今日鐵道沿線ノ危險消滅シ保護ノ必要ナキコト又露國軍
ノ名譽ハ勿論露國人民ノ自尊心ヨリ同地ノ守備ハ露軍ニ於
テ為シタキコトヲ繰返シ容易ニ聽納レス

一五 「シベリア」出兵関係一件 七二二

八七一

本官ハ本件ノ為両軍ノ間ニ衝突ヲ起スカ如キコトナキヲ保

セサルコトヲ注意シ極力反省ヲ促シ平和的解決ヲ計リツツ

アルモ今尚解決セス我軍憲ニ於テハ過般中央部ヨリノ訓令

ニ基キ機会ヲ見テ当地方ノ過激派ニ一打撃ヲ与ヘントノ方

針ナル様察セラルル處我軍ヲ攻撃スル如キ場合ハ別トシ我

方ヨリ此方針ヲ以テ進ムコトハ甚タ危険ナルノミナラス事

実今日ニ於テハ当地方ニ於ケル革命軍ハ過激派ト区別スル

コト能ハサル程接近シ居ルニ付結局此ノ如キ行為ハ前記革

命軍ヲ敵トスルト同シ結果ニ陥ルヘキ危険ノコトト思考ス

尚軍憲ノ一部ニハ我軍当地方ニ集中セル後当地方ニ於ケル

過激派（事変革命派）ヲ武力ヲ以テ放逐シ「セメノフ」又

ハ「ホルワット」一派ヲシテ当地方ニ政權ヲ行ハシメント

ノ企図アル様察セラルル處斯クノ如キハ目下ノ状況ニ於テ

成功到底覚束ナキノミナラス其結果ハ帝国ノ為極メテ不利

ナル状態ヲ惹起ス可キニ付本官ハ飽ク迄反対シ居レリ

ナル

在オムスク島田事務代理ヨリ

七二二 三月十二日 在オムスク島田事務代理ヨリ

内田外務大臣宛

在オムスク領事館ノ撤退ニ關シ報告ノ件

会、通、公第六号 (三月三十一日接受)

ノ搬出ハ暫ク之ヲ見合セ居タルカ當時ノ形勢ヨリスレハ

「オムスク」政府ハ無事「イルクツク」市ニ撤退シ其ノ存

在ヲ継続シ得ヘシトノ意見多數ナリシニ顧ミ多少ノ備品ヲ

東方ニ携行セサルヘカラスト思惟シ別紙乙、丙、丁号所載

ノ物品ヲ引上列車ニ積込ムコトトナシ十一月三日ヨリ弗々

之カ輸送ヲ開始シ當時車馬人夫ノ入手頗ル困難ナリシニ不

拘之ヲ六日迄ニ加藤大使特別列車手荷物車竝在「オムス

ク」陸軍特務機関用車ニ積載シアリ候尤モ混雜ノ際ニ於ケ

ル積込ニモアリ且其後鉄路長日月輸送シタル結果備品破損

シタルモノ渺カラス候

領事館家屋ハ家主「スイロミヤトニコブ」ト賃貸借契約ニ

ヨリ大正九年八月迄賃借済ナルニ付コノ内左記甲号目録物

品ヲ残置シ且ツ倉庫内ニハ薪木約二十「サーゼン」ヲ残シ

此等物品監視ノ為予テ当館ニ雇用中ナリシ喫食国人俘虜

「アントン」ナル者ニ手当五箇月分露貨五千留ヲ前渡シテ

留守セシムルコトトシ同時ニ家主カ同一構内ニ居住セルヲ

幸ヒ同家主ニ五千留ノ金員ヲ預ケ右「アントン」ト共ニ充

分館舍址残留品ノ監視方ヲ委嘱シ万事遺漏ナキヲ期シ候

十一月六日以来本官ハ大使特別列車内ニ宿泊スルコトトナ

大正九年三月十二日

在オムスク

領事館事務代理 島田滋(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

客年十月下旬ニ於ケル「オムスク」政府軍ノ敗戦ハ「オムス

ク」市ヲシテ次第ニ不安ヲ感セシメ市民並在留外国人中ニ

ハ東方ニ撤退スル者アリ十月末日ニ及ヒテハ形勢頓ニ陥惡

トナリ「オムスク」市ノ支持到底覚束ナシト認メタルニヨリ

本官ハ在留邦人四名ニ対シ引上ノ時機到来セルコトヲ説示

シ之カ出発ノ手続ヲ了シ候又在留朝鮮人ノ引上ニ必要ナル

車輛配給方ニ関シテハ適當ノ時機ニ於テ「オムスク」撤退委

員長陸軍大臣ニ對シ極力交渉スル所アリ其後加藤大使ヲモ

煩ハシテ交渉シタルカ遂ニ其ノ目的ヲ達スル能ハス不得已

必要ナル証明書ヲ交付シ個々別々ニ出発スル様取置候

翌十一月一日以来「オムスク」政府諸官庁中ニハ職員、其

家族、書類、備品等ヲ東方ニ輸送スルモノ統出しシ市内ヨリ

「オムスク」駅ニ到ル約壹里ノ間車馬絡繹トシテ壯觀ヲ極

メ候事態斯ノ如クナリシ處他方加藤大使ノ命ニ依リ飽迄平

静ナル言動ヲ採ルヘキコトトナリ居タルニ依リ領事館備品

リ爾後列車内ニ於テ館務ヲ弁スルコトト致候

然ル処十一月七日「オムスク」政府外務大臣ヨリ政府ハ十

一月九日全部「オムスク」出發「イルクツク」ニ撤退スル

コトニ閣議決定シタルヲ以テ加藤大使一行ニ於テモ九日撤

退アリ度旨通知シ來リ候本官ハ加藤大使指揮監督ノ下ニ行

動スルコトトシ同大使一行ト共ニ九日夜半「オムスク」市

ヲ撤退シ爾後大使ノ事務ニ從事シツツ十一月二十八日「イ

ルクツク」ニ安着致候

十一月二十九日乃至本年一月五日「イルクツク」滯在中及

ヒ其ノ後本官転官、転任、大使隨員命令接受ノ日タル大正

九年一月十七日迄ハ依命大使事務ニ從事致居候

「オムスク」政府「イルクツク」移転後ノ政況ハ多數者ノ

予期ニ反シ極テ速ニ其ノ存在ヲ失ヒ且ツ在「イルクツク」

領事館モ撤退スルコトトナリタルヲ以テ本官持參ノ物品ハ

同領事館ニ預ケ置クコト能ハス一月六日ニ至リ加藤大使ニ

随伴シテ「イルクツク」市ヲ引上ケサルヘカラサルニ至リ

候當時左記乙号目録所記ノ物品ヲ積載シアリタル二貨車ハ

在「オムスク」陸軍特務機関用車ニシテ同機關カ當分「イ

ルクツク」ニ残存スルコトナリタルト牽引力其他諸般ノ

一五 「シベリア」出兵関係一件 七二三

八七四

関係上大使列車ト同行セシムルコト能ハス不得已在「イルクツク」陸軍特務機関ニ保管方依頼シ置キタル処其ノ後同機関「イルクツク」ヲ撤退シ「チタ」ニ引上ケタル由ニ付

今尚同機関ニテ保管中ニ有之候唯大使列車手荷物車内ニ積込ミアリタル左記丙号目録ノ物品ハ哈爾賓迄持來ルコトヲ得目下同館ニ保管中ニ有之候

斯クテ本官ハ一月二十五日哈爾賓出立加藤大使ニ隨行帰朝ノ途ニ就キ一月三十一日帰京致候

右報告申進候
追テ別冊「オムスク」「イルクツク」撤退日誌並「オムスク」「イルクツク」撤退間際ノ発刊ニ係ル在「オムスク」及「イルクツク」露字新聞數部何等御参考迄ニ添附致候間御查閱相成様致度尚右日誌ハ淨書ノ暇無之候ニ付原稿ノ儘提出致候間右様御了承相成度右申添候

註 附屬書甲号乙号丙号省略
敬具
七二三 三月十六日 浦潮派遣軍參謀長ヨリ
山梨陸軍次官宛(電報)
近ク樹立ヲ見ルヘキ浦潮ノ過激派政權ニ對ス
ル軍ノ態度ニ關シ請訓ノ件

イ、政變ニ際シ軍ハ何等干渉ヲ行ハス
ロ、新政府樹立スルヤ直ニ其ノ主義及歐露過激派政府並ニ西伯利各地政治團体トノ関係ヲ尋問ス

ハ、次テ大要左記要領ノ通告ヲ新政府ニ与ヘ此ノ通告通リ承諾セハ軍ハ不干涉ノ態度ヲ持続シ實行ヲ監視ス通告記載ノ条件ハ前記「ロ」ノ回答ニ依リ多少変更ヲ加フルコトアルヘキモ条件内容ハ断シテ具体的論議ニ亘ルヲ避ク
(1)西伯利ニ接壤スル鮮滿ハ固ヨリ日本國全般ニ對シ苟モ其ノ安寧秩序ヲ妨碍スル如キ一切ノ行動ヲ為ササルコト
(2)在西伯利日本人ノ生命財産ノ安全ハ固ヨリ既ニ

干渉スヘキ動機ヲ發見スルコト困難ニシテ此ノ場合強テ之ヲ行ハ露國民其他ノ反感ヲ增長スルニ至ルヘキヲ恐ル

ロ、新政府ノ樹立ヲ其ノ儘默認スルハ消極行為ニ過クハ、条件附承認ハ新政府之ヲ受容セハ我軍駐屯ノ自由ヲ得彼若シ受容セサル場合ハ我ノ都合ヨキ時期ニ於テ斷然タル处分ヲ加フルニ十分ノ名義ヲ得ヘシ

(5)西伯利ニ日本軍ノ駐屯スル間ハ其ノ駐屯移動、通信、軍事輸送品ノ調弁輸送等ノ便宜ニ對シ十分ノ保証ヲ与フ

七二四 三月十七日 浦潮派遣軍參謀長ヨリ
福田參謀次長宛(電報)
チタ、ハバロフスクヨリノ撤兵反対ノ井染大佐ノ意見報告ノ件

(三月十八日參謀本部ヨリ外務省接受)

時局ニ對シ井染大佐所見ノ要旨

二、前記条件成立セサルトキハ軍ハ新政府ヲ過激派団体ト認メ之ニ対シ先ツ大臣指示ノ警告ヲ与ヘ爾後情況ニ基キ任意ノ行動ヲ取ル

二、前記処置ニ出ツル理由

イ、政變ハ恐ラク平和ノ内ニ解決セラルヘク從テ之ニ

一五 「シベリア」出兵関係一件 七二四

浦參第一九九号 (三月十七日陸軍省ヨリ外務省接受)

浦潮政變ニ對スル軍ノ態度ニ關スル件

一、當浦潮ニ於テ近ク過激派政府ノ樹立ヲ見ントスルコトハ既ニ浦參謀二六一、二六二ヲ以テ報セシ如シ而シテ此ノ政變ニ際シ軍ハ左記要領ニ依リ処置スヘキ企圖ヲ有ス中央部ノ方針トモ關係アルヲ以テ至急何分ノ回示ヲ待ツ

二、帝國ノ對露政策ハ五国会議ニ於ケル列國協調ヲ以テ基礎トスルコトナク極東ニ於ケル帝國ノ地位ト必要トニ鑑ミ國境護衛ノ目的ヲ以テ断乎トシテ過激派ニ対抗スルカ又ハ妥協交譲ノ道ヲ開クノ準備ヲ為スヲ必要トス

勞農政府ノ妥協案ニ對スル列國ノ態度ハ漸次軟化シツ

一五 「シベリア」出兵関係一件 七二五

八七六

ツアリテ今ヤ共同的歩調ハ素レントシ英國代表者ノ過激派政府トノ妥協条件ナルモノヲ觀ルニ露国内ニ於ケル外國兵ノ撤退ヲ約セントスルモノノ如シ故ヲ以テ帝国カ列国トノ協調ヲ以テ対露政策ノ基礎トセハ國軍ノ進退ヲ彼等ノ利害ニ委スルニ外ナラサルヘシ

二、国境護衛ノ目的ヲ以テ過激派勢力ニ対抗セシカ為ニハ

必要ナル地域ニ兵力ヲ集結シ（以下十七字電文不明）

労農部政情ノ変化スル時期迄持久スルノ算ナカルヘカラス

然レトモ帝国ノ実情ハ其実行困難ナリト觀察セラル

三、果シテ之ヲ難シトセハ過激派トノ妥協ヲ基礎トシテ是

ニ必要ナル準備ニ向ツテ進ムヲ要ス之力為ニハ政治的

經濟的要地ニ兵力ヲ集結シ以テ将来過激派トノ折衝ニ

於ケル背景ト為スヲ有利トス

四、露国国民性ハ極端ナル両面ヲ有シ勢ノ前ニ屈スルコト

猫ノ如シ而シテ好意ニ乘シテ伸ヒルコト虎ヨリモ猛シ

軍ニシテ哈府知多ヲ棄テンカ勢ノ変スル所民情ヲ益々

險惡ニ導キ折衝一層難キヲ加ヘン故ニ妥協ヲ以テ主義

七二五 三月十八日

浦潮派遺軍參謀長ヨリ
菅野陸軍省軍務局長宛（電報）

東進スル過激派軍ト日本派遣軍トノ間ニ於テ

申ノ件

（三月十九日陸軍省ヨリ外務省接受）

切ノ行動ヲ充分取締ルコト

ハ、鮮人ノ排日行為ニ閑シテハ日本露國両國民ノ和親ニ基キ充分ノ取締ヲ為スコト

ニ、極東西伯利ニ於ケル鉄道ハ水路電信等交通通信ノ安全ヲ確保シ且ツ一般ノ正義人道ニ違反スル如キ行動ナキコト

ホ、極東在来ノ諸政治團体ハ日本軍ト葛藤ヲ惹起スヘキ恐アル諸原因ヲ除去シ一切ノ對敵行動及其準備ヲ為ササルコト

ヘ、日本軍駐屯地方ニ於テ政治團体相互ノ争闘ニ依リ公安ヲ紊ルヲ許ササルコト

ト、西伯利ニ日本軍駐屯スル間其駐屯移動通信軍需諸品ノ調弁輸送等其ノ便宜ニ対シ十分ノ保証ヲ与フルコト

チ、從米露國當局ト日本トノ間ニ協定セラレタル鐵道守備運輸通信等ニ閑スル協約ヲ尊重スルコト

リ、現時日本軍隊ニ於テ保管シアル露國兵器軍需品ノ後日正式ニ露國政府承認セラル迄ハ依然日本軍ニ保管ヲ托スルコト

左記

イ、極東西伯利ニ接壤スル朝鮮満洲ハ素ヨリ日本全般ニ対

シ苟モ其ノ安寧秩序ヲ阻礙スル如キ一切ノ行動ヲ為ササ

ルコト

ロ、在留日本人ノ生命財産ノ安全ハ素ヨリ既ニ享有シアル

一切ノ權利ヲ確保シ且日本露國民ノ親和ヲ害スル如キ一

一五 「シベリア」出兵関係一件 七二五

トセハ依然哈府知多ニ駐兵スルヲ要ス

五、「セメノフ」ノ始末ハ妥協条件ニ於テ定ムヘク夫レ迄

ハ依然之ヲ支持シテ敵乎トシテ其地位ヲ保タシメ妥協

成立後其權力ヲ放棄セシムルモ可ナリ其軍隊ヲ解カシムルモ可ナリ

六、今ヤ過激派政府ハ帝国ノ態度ニ対シ杞憂煩悶ノ極所ニアリ此機ヲ捉フルハ自ラ先ンスル所以ニシテ今ニシテ決スル所ナク五国会議ノ協調ニ誘導セラレンカ過激派政府ノ腰ハ更ニ一層強硬ヲ加ヘンコト必セリ機ハ捉フル事ニ難ク逸スルコトニ易シ速カニ策ヲ決シテ機ニ乗スルヲ肝要トス尚最後ニ烏蘇里知多ヲ撤センカ居留民ノ被レル慘害ハ我軍ニ対スル怨恨タルヘキヲ附記ス

スルヲ肝要トス尚最後ニ烏蘇里知多ヲ撤センカ居留民ノ被レル慘害ハ我軍ニ対スル怨恨タルヘキヲ附記ス

スルヲ肝要トス尚最後ニ烏蘇里知多ヲ撤センカ居留民ノ被レル慘害ハ我軍ニ対スル怨恨タルヘキヲ附記ス

ヌ、日本人收容ノ露人ヲ理由ナク又予告ナク之ヲ拘致シ又

八七七

一五 「シベリア」出兵関係一件 七二六 七二七

八処分セサルコト

ル、日本軍ハ前記要求諸条件ニシテ露国側ニヨリ誠実ニ履行セラル限リ露軍ニ対シ對敵行動ヲ取ラス又内政ニ関シ干渉セサルヘシ

三、以上ノ如ク極東ヲ欧露過激派政府ノ勢力権外ニ置クヘキ見地ニ立チ極東新政治団体ニ対シテハ前記二項記載ノ条件ヲ以テ厳正中立内政不干涉主義ヲトルモノトス

七二六 三月二十九日 外交調査会決定

チェック、スローヴァック軍撤退後ニ於ケル

日本軍ノシベリア駐兵方針ニ付日本政府声明

ノ件

嚮ニ帝国ノ西比利亞ニ出兵シタルハ「チェック、スローヴ

アック」軍ノ救援ヲ目的トシタルモノナルカ故同軍ノ引揚ニシテ事実完了シタル上ハ帝国モ亦撤兵ノ舉ニ出ツヘキハ出兵當時ノ宣言ニ依リ明ナリ然リト雖モ帝国ノ西比利亞ニ对スル地理的関係ハ他ノ列強ト自ラ其ノ趣ヲ異ニシ特ニ極東西比利亞ノ政情ハ直ニ鮮満地方ノ情況ニ波及スルノミナラス西比利亞地方ニ於ケル多數ノ居留民ハ其生命財産ノ安

テハ帝国政府ノ閔知セサルコトトシ非公式ニ両軍限り交渉ヲ行ヒ帝国政府ノ宣言及之ニ伴フ派遣軍警告ノ主旨ヲ通告シ露国労農政府カ其ノ軍隊ヲ貝加爾湖以東ニ進ムルコトナク且極東政治団体ニ対スル我警告ノ主旨ヲ容認スルニ於テハ両軍間ニ於テ純然タル軍事上所要ノ取極ヲ行フハ差支ナキコトト承知セラルヘシ

(欄外註記)

「三月三十日閣議決定」

七二八 三月三十一日 山梨陸軍次官ヨリ

埴原外務次官宛

浦潮附近ノ政治団体ニ対シ警告ヲ発スル様浦

送達 西密第九六号

浦潮附近ニ於ケル露国政治団体ニ対シ警告ノ件

通牒

大正九年三月三十一日

陸軍次官 山梨半造(印)

外務次官 増原正直殿

首題ノ件ニ関シ本日浦潮派遣軍參謀長ヘ別紙写ノ通り電報

一五 「シベリア」出兵関係一件 七二八 七二九

八七八

全ヲ期スル能ハサルノ実情ニ在リ是レ帝国力遠ニ撤兵ヲ決

行スル能ハサル所以ニシテ其間露国ニ対シテ何等政治的野心アルニアラス故ニ我接壤地方ノ政情安定シテ鮮満地方ニ

対スル危険除去セラレ我居留民ノ生命財産ヲ安固ナラシメ交通ノ自由保障セラルニ至ラハ「チェック、スローヴ

ック」軍ノ撤去完了後成ルヘク速ニ西伯利亚地方ヨリ我軍隊ヲ引揚クヘク茲ニ重ネテ我誠意ノ存スル所ヲ声明ス

(欄外註記)

「三月三十一日公表」

七二七 三月三十一日 田中陸軍大臣ヨリ

大井浦潮派遣軍司令官宛 (電報)

東進スル過激派軍ノ行動中止ニ閔シ非公式交

涉ヲ許容スル旨訓電ノ件

極秘

東進スル過激派軍行動中止提議ニ閔スル件

陸軍大臣ヨリ浦潮派遣軍司令官ヘ電報

曩ニ在「イルクーツク」過激派軍ヨリ派遣軍ニ対シ行動中止方提議シ来レル処右ハ果シテ誠意アル申込ナリヤ否ヤ不明ナルモ万一将来彼カ眞面目ニ如上ノ提議ヲ為ス場合ニ於

三月三十一日陸軍次官ヨリ浦潮派遣軍參謀長ヘ電報

致置候条及通牒候也
(別紙)

三月三十一日陸軍次官ヨリ浦潮派遣軍參謀長ヘ電報

三月二十九日大臣発電報ノ通り政府ノ宣言今三十一日発表セラレタリ依テ貴軍ハ直ニ露国政治団体ニ対シ浦参一九九ノ警告ヲ發スルノ処置ヲ取ラルヘシ依命

七二九 三月三十一日 陸軍省軍務局長ヨリ

外務省政務局長宛

シベリアニ於ケル政治団体ニ対スル浦潮派遣

日本軍ノ警告要領

大正九年三月三十一日

(四月一日接受)

陸軍省軍務局長

外務省政務局長殿

別紙為参考及送付候也

(別紙)

浦潮派遣軍ノ露国政治団体ニ対スル警告ノ要領

一、警告事項

(1) 西伯利ニ接壤スル鮮満ハ固ヨリ日本國全般ニ対シ苟

一五 「シベリア」出兵関係一件 七三〇

八八〇

モ其ノ安寧秩序ヲ妨碍スル如キ一切ノ行動ヲ為ササ
ルコト

(2) 在西伯利日本人ノ生命財産ノ安全ハ固ヨリ既ニ其ノ

享有シアル一切ノ行動ヲ十分ニ取締ルコト

(3) 鮮人ノ排日行動ニ對シテハ十分ノ取締ヲナスコト

(4) 西伯利ニ於ケル鉄道、水路、電信等交通通信ノ安全

ヲ確保シ且一般正義人道ニ違反スル如キ行動ナキコ
ト

(5) 西伯利ニ日本軍ノ駐屯スル間ハ其ノ駐屯移動通信、

軍事輸送品ノ調弁輸送等ノ便宜ニ對シ十分ノ保証ヲ

与フ

(6) 新政府ニシテ前記各項ノ厳守ヲ約シ且之ヲ誠実ニ実
行スルニ於テハ日本軍ハ新政府ノ成立及爾後ノ行動

ニ関シ何等ノ干渉スルナキコトヲ宣言ス

二、右ノ事項ヲ承認セサルニ於テハ軍ハ該政治団体ニ對シ

所要ノ処置ヲ執ル

七三〇 四月五日 在浦潮矢野政務部長代理ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

沿海州革命軍ノ武装解除ニ関シ報告ノ件

(附記)

四月七日浦潮事件ニ關シ烟軍事課長芳沢政務局長ヲ來訪会談ノ

要旨

四月七日陸軍省烟軍事課長芳沢政務局長ヲ來訪シ左ノ通り

ル旨

述ヘタリ

今回浦潮ニ於ケル戰闘開始ニ付テハ外務省側ニ於テ大分感
触ヲ害シ居ラル趣ナルカ実ハ陸軍内部ニモ硬軟両派アル
内情ナリ其ハ兎モ角此際折角親密ニナリ来リタル外務陸軍

両省ノ關係ヲ傷フハ誠ニ面白カラザル次第ナルニ依リ何ト

カ感情ヲ和ラケラル様致度シ

之ニ対シ政務局長ハ左ノ通り述べタリ

陸軍側ノ執ラレタル措置ニ付テハ自分ニ於テモ感服セサル

点アルモ之元ヨリ感情ノ問題ニアラスシテ道理ノ問題ナリ

例へハ浦潮派遣軍ヨリ同地臨時政府ニ對シテ提出シタル條

件中聯合側ト露西亞トノ約定ニ関スル条項アル処元来日本

一国ト露西亞トノ約定ニ關スル事項ニテモ我陸軍官憲カ露

西亞官憲ト商議セラル場合ニハ外務省ノ同意ヲ得ラルベ

キモノト思考セラルノミナラス日本以外ノ諸國ヲモ含メ

ル此種約定ニ關スル商議ヲ開クニ当リ政府ノ議ヲ纏ムルコ

トナクシテ決行セラレタルハ法律上ヨリ云フモ違法ノコト

ナルヘン

右ニ対シ軍事課長ハ派遣軍ノ方ニテモ少シク功ヲ急キタル

嫌ヲ免レス要スルニ今後浦潮事件ヲ如何ニ處理スルカハ大

問題ニシテ偏ニ外務省ノ助力ヲ乞ハサルヘカラス本件善後

附記 四月七日烟軍事課長芳沢政務局長ヲ來訪会談ノ
往電第一三三二号ニ關シ

軍ハ四月二日交渉要項ヲ提出シ自治会政府軍事官憲ト商議

ヲ開始シ三日四日ニ亘リテ進行多少ノ論議ヲ見タルモ全体

トシテ當方主張ヲ貫徹シ談判ハ平穏ニ終了ノ見込ナリシ處

四日夜十時半露國武装團体ハ軍事動作ヲ(脱)兵站司令部

等ノ衛兵ニ攻撃ヲ始メ来リン為已ムナク之ニ応射シタルガ

爾余露國武装團体ノ參加ヲ慮リ軍ハ当地露國革命軍民警等

ノ武装ヲ解除セリ

軍司令官ハ事變ニ對シ五日宣言ヲ發シタリ(陸軍側ヘノ報
告参照アリタシ)軍ハ目下各官衙停車場電信局等ヲ占領シ

居ルモ当地ノ秩序維持ハ現在ノ自治会政府ヲシテ当ラシム

ル筈

(附記)

四月七日浦潮事件ニ關シ烟軍事課長芳沢政務局長ヲ來訪会談ノ

要旨

四月七日陸軍省烟軍事課長芳沢政務局長ヲ來訪シ左ノ通り

述ヘタリ

沿海州革命軍ノ武装解除ヲ命スル派遣軍司令

官ノ布告ニ付報告ノ件

(四月七日參謀本部ヨリ外務省接受)

浦參謀第三三三号

軍司令官ハ四月五日正午左ノ布告ヲ發セリ

布告

日本軍ハ三月三十一日帝國政府ノ宣言ニ基キ我軍ノ駐屯ニ

関シ四月一日以来露國當局ト平和的交渉ヲ進行中四月四日

夜突然露國武装團体ノ一部ハ我軍需品集積所、自動車廠、

兵站司令部ノ各衛兵ニ向ヒ攻撃ヲ開始シ又市内我巡察兵ニ

對シテ各所ニ狙撃ヲ試ミタリ依テ我軍ハ此ノ如キ不法行為

ニ基キ危難ノ拡張スヘキヲ慮リ爾余ノ露國武装團体ニ對シ

其ノ武装解除ヲ求ムルノ已ムナキニ至レリト雖モ敢テ他ニ

何等ノ野心ヲ有セルニアラス直ニ露國當局ト交渉シ秩序ノ

一五 「シベリア」出兵関係一件 七三一 七三三

八八二

紊乱ニ陷ルコトナキニ就キ有ラユル手段ヲ講シツツアリ

大正九年四月五日

次官、次長、第十三、第十四師団、黒沢、石坂、南部烏蘇

利済

浦潮派遣軍司令官 大井成元

在浦潮矢野政務部長代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

浦潮事件ニ関シ臨時政府側ヨリ提出セシ抗議

書二付報告ノ件

第一四三号

(四月九日接受)

往電第一四〇号今回ノ事変ニ関シ四月六日臨時政府閣員
「メドウエジヨフ」「アファナシェフ」「ボポフ」ノ三人連
名ニテ英露両文ヲ用ヒ露國ニ対スル軍事干渉ハ聯合国ノ共
同責任ナリトノ見解ノ下ニ今回ノ事件ニ関シ審議ノ上当地
聯合国ニテ代表者会合ヨリ日本軍司令部ニ提議セラレタキ
希望ヲ以テ同会合宛抗議書ヲ提出シタリ右ハ事変後連日開
催ノ同会合ニ於テ何レ問題トモナルヘシト予想セラル
抗議要求ハ五ヶ条ヨリ成リ其大要ハ(一)逮捕者ノ解放(二)占領
各官衙ノ明渡シ(三)日本軍隊今回ノ出動ニ付弁明及臨時政府

第一四三号

(四月九日接受)

往電第一四〇号今回ノ事変ニ関シ四月六日臨時政府閣員

「メドウエジヨフ」「アファナシェフ」「ボポフ」ノ三人連

名ニテ英露両文ヲ用ヒ露國ニ対スル軍事干渉ハ聯合国ノ共

同責任ナリトノ見解ノ下ニ今回ノ事件ニ関シ審議ノ上当地

聯合国ニテ代表者会合ヨリ日本軍司令部ニ提議セラレタキ

希望ヲ以テ同会合宛抗議書ヲ提出シタリ右ハ事変後連日開

催ノ同会合ニ於テ何レ問題トモナルヘシト予想セラル

抗議要求ハ五ヶ条ヨリ成リ其大要ハ(一)逮捕者ノ解放(二)占領

各官衙ノ明渡シ(三)日本軍隊今回ノ出動ニ付弁明及臨時政府

参一発第百五号
大正九年四月七日

参謀本部ヨリ
(四月八日接受)

ニ対スル陳謝(四)家宅搜索及捕縛中止(五)没収武器ノ還附ニシ
テ尚今回ノ事変調査ノ為日露両国(脱)ヲモ含ム聯合国ノ
調査委員会ヲ設置センコトヲ提議シ居リ各外交代表者ハ本
国政府ニ対シ本書ノ伝達方ヲ希望セリ

抗議書写郵送ス

七三三 四月七日 外務省宛

沿海州革命軍ノ武装解除ノ経緯ニ付通報ノ件

参謀本部ヨリ
(四月八日接受)

参一発第百五号
大正九年四月七日

参謀総長
(四月八日接受)

ニ対スル陳謝(四)家宅搜索及捕縛中止(五)没収武器ノ還附ニシ
テ尚今回ノ事変調査ノ為日露両国(脱)ヲモ含ム聯合国ノ
調査委員会ヲ設置センコトヲ提議シ居リ各外交代表者ハ本
国政府ニ対シ本書ノ伝達方ヲ希望セリ

抗議書写郵送ス

参一発第百五号
大正九年四月七日

参謀総長
(四月八日接受)

ニ対スル陳謝(四)家宅搜索及捕縛中止(五)没収武器ノ還附ニシ
テ尚今回ノ事変調査ノ為日露両国(脱)ヲモ含ム聯合国ノ
調査委員会ヲ設置センコトヲ提議シ居リ各外交代表者ハ本
国政府ニ対シ本書ノ伝達方ヲ希望セリ

抗議書写郵送ス

三月三十一日帝国政府カ西伯利駐兵ニ関シ中外ニ声明スル
ヤ浦潮派遣軍司令官ハ四月二日露國革革命政府ニ対シ右声明
ヲ通告スルト共ニ左ノ要旨ノ要求ヲ為セリ
一、我軍ノ駐屯ニ必要ナル諸般ノ事項即チ宿營、給養、通
信等ニ關シ支障ナカラシム
二、聯合国及聯合軍相互ノ協調ニ基キ或ハ単独ニ我政府又

他沿海州各地ニ於テ彼等ノ不信ヲ懲ス為適法ノ処置ヲ執リ
海軍第五戦隊モ亦在港敵艦艇ノ武装ヲ解除セリ

七三四 四月十日 在マニラ来栖總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

シベリア派遣米軍司令官グレーヴス少将ノマ

ニラニ於ケル記者会見ニ付報告ノ件

第二八号

(四月十一日接受)

西比利亜ヲ引揚ケ本月八日入港セル米國派遣軍司令官「グ
レーヴス」少将ハ「マニラ、ブレチン」記者ニ対シ日下日

本軍ハ露國ノ平和ノ鍵ヲ握リ居レルモ同軍カ其目的ヲ声明
スルヲ遲延セルカ為メ却テ露國側ノ憤恚及疑惑ヲ招クニ至

レリト冒頭シ将来露西亞ノ平和ハ一ニ懸ツテ日本軍ノ行動
ニアルヘク而モ同軍カ西比利亜ヲ撤退セサル限り露國ニ平

和ノ到来スル日ナカルヘシト述ヘ又過激派ニ言及シ世ニ
「ボルシエヴィキ」ヲ以テ一概ニ兇惡ナル無政府黨員トン

テ呪咀スルモ決シテ然ラス却ツテ彼等ハ露國ノ平和及(脱)

顛覆ノタメ活動シ其人民ニ対シ勉メテ公平ナランコトヲ期
シツツアリ且前露國民ノ九十五「パーセント」西比利亜民

ノ九十八「パーセント」ハ同派ニ属スト述ヘ只反過激派ノ
心シ五日未明迄ニ殆ト在浦潮革命軍全部ノ武装ヲ解除シ其
突然革命軍ハ我ニ対シ攻勢ヲ取リシカハ軍ハ決然起テ之ニ
カラサルヲ忠告セリ

然ルニ前記我忠告ニ従ハサルノミナラス同四日夜十時半頃

突然革命軍ハ我ニ対シ攻勢ヲ取リシカハ軍ハ決然起テ之ニ
心シ五日未明迄ニ殆ト在浦潮革命軍全部ノ武装ヲ解除シ其

一五 「シベリア」出兵関係一件 七三五

八八四

ミハ其ノ帝政時代ニ享受セル莫大ナル特權ヲ擁護センカ為メ日本軍ノ撤退ヲ希望セスト結ヒ同官ノ西比利亞駐在中ニ日本軍トノ関係ハ極メテ親睦ナリシ旨附言セリ

七三五 四月十五日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

浦潮事件ノ経過ト其後ノ情況ニ關シ報告ノ件

(極秘)

第一五六号

(四月十六日接受)

今回事變ノ経過ニ関スル矢野電報ハ既ニ到達シタルコトト思考スルガ本官帰任以来今日迄当地ニ於ケル各方面ノ情況ヲ觀察セル結果左ニ報告ス

一、我軍ハ兼テヨリ露軍ノ編成ガ漸次進捗シ且ツ武器弾薬ノ供給モ増加スルニ顧ミ不安ノ念ヲ抱キ之ニ対抗スル準備ヲ急キ四月初ニ於テ完成シタルガ露軍側ニ於テモ我軍ノ準備行動ヲ察知シ各方面ニ於テ窃ニ準備ヲ進メ居リタルハ事実ナルガ如クスノ如ク双方危惧ノ念ヲ抱キ且シ悪感情高マリ来リタル結果四月四日夜衝突ヲ起シタルガ何レガ先キニ発砲セルカニ付テハ露國兵ガ先ツ發火シタルモノラシキモ計画的ニ之ヲ行ヒタルモノトハ思ハレズ又

二、露國側ニ於テハ抵抗ノ意ヲ有セス大体ニ於テ穩カニ武装解除ヲ承認セル為双方ノ死傷案外少ク我軍死者六名傷者六名露國側死傷拾数名ニ過ギズ日露市民ニ死傷ナシ唯「ゼムストウ」ノ建物ニ対シ左シタル抵抗ナキニ拘ハラズ銃砲火ヲ以テ猛烈ニ浴ビセラレタル結果著シク家屋ヲ破壊シ為ニ日本軍ノ行動ヲ政治的意味アル如クナスモノ多シ

三、「ゼムストウ」ヲ始メ各官衙停車場等ヲ占領シタル後直ニ日本國旗ヲ掲揚シタル為メ露人外国人ノ疑惑ヲ起シタルモ其後直ニ之ヲ撤回シ漸次官公衙ヲ返還セリ亦官公衙ノ書類ヲ押収シタルモノアルモ未ダ返還セズ

四、予テヨリ注意シ居リタル露人數十名ヲ逮捕拘禁シタル

モ其大部分ヲ解放シ日下軍事委員会委員數名拘禁シアリ

ノ件

五、臨時政府ノ政権行使ニハ何等干渉セズ從テ「メドウェ

ジヨフ」以下從来ノ役員ハ從前ノ通り執務シ居リ盛ニ抗議ヲ述べ立テ排日運動ヲ試ミ居レリ新聞紙ノ如キモ何等拘束ヲ受ケズ日々日本軍ノ行動ヲ駁撃シ居レリ

六、労働者ハ一般ニ我軍行動ニ悪感ヲ抱キ鉄道ハ今日ニ於

テモ一切運行セズ我鐵道隊ヲ使用シ軍ニ必要ナル運行ヲ辛ジテ行ヒ居レリ浦潮「ニ」市間隧道破壊セラレタルモ修理ノ結果一線丈通スルニ至レリ

七、電信、電話、電燈等ノ從業員ハ一部復業シ居ルモ全部ハ就業シ居ラズ

八、市内目下ノ所靜穩ナリ民警ハ一時武装解除セラレタルモ其後職務ニ服シ居レリ

九、大体ノ輿論ハ今回ノ事件ヲ以テ全ク日本軍ノ不法行動ト見做シ之ニ対シ悪感ヲ抱キ居ルモ日本政府及國民ノ意志ニ非ズト信シ居ル模様ナリ

七三六 四月十七日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

今回ノ浦潮事件ニ關シメドウェジヨフト会談

一五 「シベリア」出兵関係一件 七三六

依テ此ノ際日軍ニ於テ事件ノ際占領セル露軍兵營抑留セラレ居ル露人及押収諸物品ヲ還附シ日本側ノ真意ヲ事實上ニ

八八五

一五 「シベリア」出兵関係一件 七三七

八八六

表サルレバ自分ニ於テ直チニ是ヲ宣伝シ排日的記事ヲ中止シ山中ニ入りタル露兵ヲ召還シテ不穏ノ行動ヲ取締リ一般ノ誤解ヲ釈キ人心ノ安堵ヲ計ルヲ得ベシ斯クテ先づ浦潮ヨリ是ヲ開始シ漸次「ニコリスク」其他州内各地ニ及ボシタシ云々

右ニ対シ本官ハ当初ヨリ積極的態度ニ出デタル事無ク自衛上取リタル措置ナル事ヲ詳説シ排日的手段ニ依リ徒ラニ日軍ノ悪感ヲ買ヒ之ヲ敵視スルガ如キ露人ノ言動ハ折角撤退セントスル日軍ヲシテ駐在ヲ余儀ナクセシムルノミナラズ排日的傾向ヲ此ノ儘ニ放任センカ遂ニハ再ビ今回以上ノ事件ヲ惹起スルノ虞アルニ付臨時政府当局ハ須ラク危険ナル言動ヲ取締リ日露親善ヲ希望スル事實ヲ表ハシ是ヲ基礎トシテ善後策ヲ協議セバ解決困難ナラザルベキ旨ヲ答ヘ置キタリ

七三七 四月二十九日 日露軍事協定

指定地域外ヨリノ露国武装団体ノ撤退ニ關ス

ル日露協定ニ關スル件

日露軍事代表委員議定書

沿海州海軍司令官ハ極東沿海州自治会臨時政府ノ全權及西伯利派遣日本軍司令官ニ提議スルニ現下尚州内ニ繼續セル戰闘ヲ停止シテ地方ノ公安ヲ計リ政府機關及官衙ノ機能ヲ復旧シ竝ニ爾後州内ニ臨時駐屯スル日本軍隊及住民間ノ親和的關係ヲ回復シ且ツ再ヒ本年四月四日夜ノ如キ事変ノ發生ヲ予防セントスル希望ニ基キ該事変ノ善後策ニ就キテ協議セントヲ以テセリ日本軍司令官ハ上記露軍司令官ノ希望ヲ容レ本問題商議ノ為特別日露軍事代表聯合委員会ノ編成ニ同意セリ斯クテ任命セラレタル本委員会ハ事變ニ對スル相互ノ罪責問題ニ拘泥セス唯親善ナル關係ヲ設定スルヲ以テ目的トシ且爾後ノ商議ヲ進ムルニ方リテハ四月四日以前ノ状態及四月五日日露軍事委員間ニ協定セル條項ニ準拠スルコトトシ事變ノ解決及将来ニ於ケル此種事變ノ發生ヲ予防センカ為次ノ条項ヲ議定セリ

第一条 日露兩軍司令官ハ速ニ州内各地ニ於ケル兩軍内ノ戰闘ヲ停止セシムル為同時ニ且適応ナル方法ヲ以テ命令ヲ發ス戰闘ノ停止ハ地方所在軍隊指揮官現地ニ於テ命令ヲ受領シ之ヲ各交換シタル時ニ於テ実施ス

第二条 露国武装団隊ハ其如何ナル政治団體ニ屬スルモノ

タルニ論ナク日本軍ト同時ニ左記地域内ニ存在スルヲ許サス

其一 日本軍ノ駐屯スル烏蘇里鉄道幹線ノ端末外及鉄道ノ東側、北側三〇吉、西側及南側各支鮮國境ニ至ル地城

其二 烏蘇里鉄道蘇城線（蘇城ニ至ル迄）ノ端末外及其兩側三〇吉

第三条 前記第一条ノ地域内ニ現在スル露国武装団隊ハ停戦命令受領後三日内ニ前記地域外ニ出シルモノトス若シ露国武装団體ニシテ三日内ニ撤退スルコト能ハサル事情アル時ハ所在日本軍隊指揮官トノ協定ニ依リ延期スルコトヲ得

第四条 指定地域外ニ撤退スル露国武装団體ハ各地戦闘停止命令ヲ交換セル日ニ於ケル兵員ニ基キ各兵種ニ応スル戦時編制定数ノ兵器弾薬其他戦闘諸材料ニ限リ之ヲ携行スルコトヲ得

日本軍憲ハ新配置ニ於ケル露国軍隊ノ為被服糧秣其他給養上必要ナル補給ヲ妨ヶス

第五条 指定地外ニ撤退セル露国軍隊ハ要スレハ露国軍憲

除外条項

一五 「シベリア」出兵関係一件 七三七

八八七

一五 「シベリア」出兵関係一件 七三八

八八八

其一 前記第六条警察儀仗衛兵隊ノ為及陸軍諸學校ノ教育用トシテ不足ナル武器彈薬其ノ他ノ材料ハ日本軍ノ押収品中ヨリ之ヲ交付ス

其二 在浦潮極東機械及造船工場ハ戰闘用諸材料ノ製作ヲ為ササルコト及日本軍之ヲ監視スルノ権利ヲ保有スヘキ条件ノ下ニ之ヲ露國官憲ノ委ス

其三 第八条ニ掲ケサル直接戰闘ニ關係ナキ軍需品並ニ其倉庫ハ之ヲ押収セス

其四 押収セル戰闘用諸材料中通貨荷物ノ性質ヲ有シ未タ露國官憲ノ所有ニ属セサルモノハ特別ノ取扱ヲナス

第九条 日本ノ既ニ占領シ若クハ将来占領スヘキ兵營ハ日本軍ノ撤退迄同軍ノ管理ニ属ス但第六条ノ諸隊及機關ノ為必要ナル場合ニ於テ成シ得レハ日本軍ノ管理中ノモノヲ提供ス

第十条 露國軍憲ハ前記第二条ノ地域内ニ於ケル鉄道電信ノ破壊ニ對シ所有予防手段ヲ講シ且速ニ順調ナル交通ノ復旧ニ就キテ日本軍ハ所要ニ応シ之ヲ援助ス

第十一条 日露両軍ハ本協定ノ急速ナル実行ヲ期スル為所
有方法ヲ尽シ之カ為又ハ本協定實行ニ關スル細部ノ規定

ヲ協議スル為特別ナル日露委員会ヲ設ク
第十二条 以上ノ各条ハ臨時の性質ヲ有シ一方ヨリノ提議ニ依リ審議協定ニ依リ之ヲ改訂スルコトヲ得

大正九年四月二十九日 於浦潮

日本軍事委員

陸軍少將 高柳保太郎

陸軍歩兵少佐 井染 緑朗

陸軍砲兵大尉 沢田 茂

陸軍教授 橋口艶之助

露國軍事委員

シエツ トリン

コハーノフ

スタルコーフスキ

ボボーメフ

サワロフスキ

七三八 五月十日

在ハルビン松島總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

極東ロシアニ於ケル利權ヲ米國ニ許与スル交

渉進行中ナリトノ情報報告ノ件

第三七五号

(五月十一日接受)

「ゴンダツチ」ノ鳥井ニ語リタル所左ノ通り
最近ノ情報ニ拠レバ「メドウエジエフ」ハ在浦潮領事ト謀リ同地ノ銀塊銅其他官有財產ヲ米国人ニ売渡シ現金引取ノ為米國東洋艦隊司令長官ハ其ノ軍艦ニテ今明日中ニ浦潮ニ來ル由ナリ又「スチヤン」炭坑「オリガ」鉱山「インペラートル」湾ノ森林及薩哈連鉄鉛炭坑「ゴンセシヨン」

ヲ米国人ニ許与スルノ交渉進行中ノ趣ニテ右ハ「セメノフ」極東政府ノ前途ニ取り非常ノ打擊ナルニ付此際至急日本側ニ於テ是等ノ計画ヲ打破センコトヲ希望ス
右浦潮「チタ」ヘ転電セリ

七三九 五月十二日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

臨時政府側等トノ接觸方針ニ付請訓ノ件

(五月十三日接受)

往電第一七四号及第一九二号ニ閲シテハ今日迄何等ノ御訓示ニ接セス從テ當方ニ於テハ當地臨時政府側又ハ社會黨領袖連乃至「ヴィレンスキイ」等トノ接觸上不便ヲ感シ居リタル處數日前陸軍大臣ヨリ本月七日ノ閣議ニ於テ決定セル趣ヲ以テ軍司令官ノ宣言書ヲ送附シ來リ發表公命令アリタ

一五 「シベリア」出兵関係一件 七三九 七四〇

敬啓者准本国外交部電開准辺防處及參陸弁公處以日本政府三月三十一日在東京宣布關於西伯利亞撤兵宣言屢次滿鮮並列請由部交涉東省為我疆土日本此舉自屬有妨我國主權蓋東省安寧自有中國政府及地方軍民長官負保護之責日本政府宣言迭以滿鮮並列殊欠妥協易滋誤會國民對此頗滋疑惱囑向貴省提起抗議等因准此除由本國政府已向小幡公使提出抗議

一五 「シベリア」出兵関係一件 七四一

八九〇

外相函達

貴大臣査察并希速予見復以憑報告為荷茲本代理公使對於
貴大臣特表敬意謹具

中華民国九年五月二十日

中華民国代理公使 莊環珂(印)

外務大臣爵 内田康哉閣下

(右和訳文)

外庚字第一八号

以書翰致啓上候陳者本国外交部ヨリノ電訓ニヨルニ邊防處及參陸公処ハ日本政府カ三月三十日東京ニ於テ宣布セル西伯利亚撤兵宣言ニ屢々満鮮ヲ以テ並列シアルニ付外交部ヨリ交渉セラレタシトノコトニ候査スルニ東三省ハ我領土ニシテ日本ノ此挙ハ自ラ我国主權ニ妨アリ蓋シ東三省ノ安寧ハ自ラ支那政府及地方軍民長官ニ於テ保護ノ責ヲ負ヘリ然ルニ日本政府宣言ニハ屢満鮮ヲ以テ並列シアリ殊ニ妥當ヲ欠キ誤解ヲ滋クシ易ク國民之ニ対シ頗ル疑懼ヲ深クスルノ恐アレバ外務省ニ向テ抗議ヲ提起セラルベシトノ趣ニ有之候右本国政府ヨリ既ニ小幡公使ニ抗議ヲ提出セル外茲ニ本使ヨリ貴大臣ニ御照会候条右様御了知ノ上何分ノ儀至急

御回示相成本國政府ヘノ報告ニ便セラレ度此段申進旁々本

代理公使ハ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

中華民国九年五月二十日

莊中國代理公使

内田外務大臣閣下

七四一 五月二十一日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛

新情勢ニ於ケルシベリア駐兵ニ關シ大井浦潮派遣軍司令官力隸下各部ニ布達セル訓示送付ノ件

軍政送第四八号

(五月二十八日接受)

大正九年五月二十一日

附屬書 右訓示

浦潮派遣軍政務部長 松平恒雄(印)

今回大井司令官力隸下各部ニ対シ別添ノ通り時局ニ閑スル訓示ヲ布達致候處右訓示事項中ニハ派遣軍ノ状態等ニ關シ何等御参考トナルヘキモノモ可有之ト思考候ニ付茲ニ供貴

覽候

敬具
(附屬書)
ハ敬礼ヲ欠ク等國軍ノ声価ヲ失墜スルカ如キコトナカラシムル亦必要ナリ

五月十八日大井浦潮派遣軍司令官カ隸下各部ニ布達セル訓示
浦軍令第三三号
時局ニ閑スル訓示
極東現下ノ状勢ハ曩ニ出兵ノ当初ニ比シテ著シク変革シ我駐兵ノ意義亦大ニ改リ今ヤ軍ハ一面ニ於テハ益々戰備ヲ整ヘ軍容ヲ壯ニシ過軍ノ妄動ヲ制シ一面ニ於テハ銳意極東政策ノ安定ニ努力シ以テ速ニ我出兵有終ノ美果ヲ収メサルヘカラス此時ニ方リ各部隊カ難局ニ處シテ克ク上下戮力同心各々任務ノ遂行ニ努力シ其目的ヲ達成シツツアルハ本職ノ大ニ其意ヲ強フル所ナリ然レトモ目下時局ノ頗ル重大ナルモノアルニ鑑ミ特ニ二三所見ヲ述べ各官ノ注意ヲ喚起セントス

一、志氣ノ作興、軍紀風紀ノ振張ハ對敵行動ノ緩和セシ時機ニ於テ益々緊要ナルハ言ヲ俟タル所ナリ各部隊ハ宜シク儼然タル軍容毅然タル態度ヲ持シ其行動ヲ終始スルノ覺悟アルヲ要ス而シテ下士卒等ニ至ル迄個人ノ態度ヲ謹嚴ニ持シ苟モ醉余路上ニ狂態ヲ演シ或ハ服装ヲ紊リ又

五、独斷專行ハ固ヨリ推重獎励スヘシト雖而モ統帥ノ系統、指揮ノ範疇ヲ脱逸スルコトナク克ク上司ノ意図ヲ誤

一五 「シベリア」出兵関係一件 七四二

大正九年五月十八日

八九一

重シ之ヲ達成スヘキ権宜ノ処置タルヘク決シテ專恣ニ陥ルアルヲ許サス

六、情況諜知ハ尚一層ノ励行ヲ望ム殊ニ緊切ナル關係ヲ有シ而モ遠隔ナル地ニ対シテ然リ尚将来國軍ノ必要ヲ顧慮

シ兵要地理ニ関スル豊富ナル資料ノ蒐集ヲ望ム

七、通信文ハ一層用語行文ニ注意シテ簡明確切ヲ期スヘク近時電信ノ輻湊遲著甚シキニ於テ殊ニ然リ尚報告及通報

ハ一事項ニ対シ終始アルヘク且輕重緩急ヲ顧慮シ取捨宜シキニ適セサルヘカラズ

八、初年兵ノ教育ハ徒ニ教育順次表ニ拘泥スルコトナク現

下ノ情況ニ適応スル如ク之ヲ実施シ速ニ戰闘能力ノ向上充実ヲ図ラサルヘカラス又歩兵ニ鹵獲砲ノ用法ヲ教育ス

ル等此等兵器ヲ利用シテ軍戰闘力ノ増進ヲ図リ尚露軍ニ

対スル特種戰法ノ研究竝之カ普及亦一層切要ナリ

九、武装解除並戰鬪等ノ際鹵獲又ハ押収品或ハ私人ノ所有品ニ關シ若クハ無辜ノ虐殺、捕縛者ノ暗殺等甚タ忌ムヘキ風評ヲ耳ニスルコトナキニ非ス無根ノ流説タルヲ信スルモ各級幹部ノ深甚ナル監視監督ヲ要望ス

右訓示ス

公第一五七号

大正九年五月一十八日

(六月五日接受)

二 在中国日本公使館同國外交部宛覧書寫

日本ノシベリア駐兵宣言ニ關スル中國政府ノ抗議通牒及日本公使館ノ回答報告ノ件

附屬書一 在中国日本公使館ヨリ同國外交部宛覧書寫

浦潮派遣軍司令官 大井成元

内田外務大臣宛

七四二 五月二十八日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

特命全權公使 小幡西吉(印)

在支那

(六月五日接受)

外務大臣子爵 内田康哉殿

帝国政府ノ西比利亞駐兵ニ關スル宣言中鮮満

ナル用語ニ対シ支那ヨリ抗議ノ件

本年三月三十一日官報号外ヲ以テ公布セラレタル帝国政府ノ西比利亞駐兵ニ關スル宣言中鮮満ナル文字ヲ使用セルニ對シ五月十七日外交部ヨリ支那領土タル滿洲ヲ朝鮮ト併称

シ之カ治安ヲ云々シテ西比利亞駐兵ノ理由トスルハ畢竟滿洲ノ治安維持ニ關スル支那政府ノ立場ヲ無視セルモノナリトテ別紙甲号写ノ通り抗議ヲ申来リ候ニ付別紙乙号写ノ通り反駁回答致置候ニ付委細各写ニ就キ御了知相成度此段報告申進候也

本信写送付先 奉天、哈爾賓、齊齊哈爾、松平政務部長、閔東長官

外交部啓

(附属書一)

別紙甲号写

五月十七日附中国外交部ヨリ在同國日本公使館宛覧書寫

日本ノシベリア駐兵ニ關シ中国政府抗議ノ件

(右和訳文)

可字第一六号

覺書

可字第一六号

節略

查

貴國政府三月三十一日在東京宣布關於西比利亞撤兵之宣言內有因居留西比利亞國民生命財產不能安全及滿洲朝鮮之安和難以信從不能立即撤兵又開列宣言四項內第二項有俟高麗滿洲安平無險云云各等語在西比利亞方面應否撤兵貴國政府固自有權衡惟東三省為中國疆土所有地方安寧自有中國政府及該地方中國軍民長官負保護維持之責此次

一五 「シベリア」出兵関係一件 七四二

八九四

ト朝鮮トヲ並列セルハ深ク了解ニ苦ム所ナリ我国民中ニハ本件ニ關シ頗ル疑慮ヲ深ウスルモノアリテ屢政府ニ對シ詰問シ來レリ當國政府ハ貴國カ此種ノ字句ヲ用フルコトハ妥當ヲ欠キ誤解ヲ惹起シ易カラシムルモノト認メ抗議ヲ提出セサルヲ得ス依テ茲ニ貴公使ニ申進ルニ付キ速カニ貴國政府ニ御電報アランコトヲ請フ

外交部

(附屬書二)

別紙乙号写

五月二十七日附在中国日本公使館ヨリ同国外交部宛覺書寫
中國ノ抗議ニ對シ回答ノ件

第一一八号

帝国公使ハ曩ニ帝國政府ノ公布セル西比利亞撤兵ニ關スル宣言中滿洲ナル文字アリタルヲ不当ナリトスル五月十七日附外交部節略ヲ接受閱悉セリ查スルニ右外交部節略ニハ帝國政府這次ノ宣言中ニ「有因居留西比利亞國民生命財產不能安全及滿洲朝鮮之安和難以信從不能立即撤兵」並ニ「高麗滿洲安平無險云々」ノ字句アルモノノ如ク記載シアル処今之ヲ帝國政府ノ宣言原文ト対照スル右漢訳ニ該當スヘキ箇

日本帝國公使館

七四三 六月一日 閣議決定

シベリア派遣日本軍隊ノ一部撤兵方針決定ノ件

帝國政府ハ向者西比利亞ニ於ケル我カ接壤地方ノ政情安定シテ鮮満地方ニ対スル危險除去セラレ我居留民ノ生命財產ヲ安固ナラシメ交通ノ自由保障セラルニ至リハ「チエック、スローヴ・アック」軍ノ撤去後可成速ニ西比利亞地方ヨリ軍隊ヲ引揚クヘキ旨宣言シタル処去四月四日浦潮ニ於テ日露両軍ノ間ニ衝突ヲ惹起シ其結果露軍ノ武装解除トナリ一時同地方ノ形勢頗ル險惡トナリタルモ爾来多少ノ変遷ヲ經テ昨今事体稍ヤ安定ノ状ヲ呈スルニ至リ且ツ「チエック、スローヴ・アック」軍ノ撤退モ近ク終了セントスルヲ以テ此際未タ全部ノ撤兵ヲ許ササルノ事情アルニ於テハ尠クトモ一ルル處其ノ範囲及方法ニ付テハ篤ト考慮ヲ遂クルノ必要アリ撤兵ノ前提トシテ貝加爾湖以東ノ東部西比利亞ヲ以テ緩衝國ト為サントスルカ如キハ固ヨリ一案タルニ相違ナキモ

所ニハ明カニ「然リト雖モ帝國ノ西比利亞ニ對スル地理的關係ハ他ノ列強ト自ラ其趣ヲ異ニシ特ニ極東西比利亞ノ政情ハ直ニ鮮満地方ノ情況ニ波及スルノミナラス西比利亞地方ニ於ケル多數ノ居留民ハ其生命財產ノ安全ヲ期スル能ハサルノ実情ニ在リ是レ帝國カ遽ニ撤兵ヲ決行スル能ハサル所以ニシテ（中略）我接壤地方ノ政情安定シテ鮮満地方ニ對スル危險除去セラレ云々」トアリテ畢竟朝鮮及滿洲ノ両地方カ共ニ地理上西比利亞ニ近接セルカ為メ西比利亞ニ於ケル政情ノ影響ハ滿洲ニ滿洲ヨリ朝鮮ニ直ニ順次波及スルノ虞アルヲ指摘シタルニ過キシシテ其間苟クモ支那領土タル東三省内部ノ安寧保持ニ關スル支那政府ノ立場ヲ無視スルノ意ヲ寓スルカ如キ何等字句ヲ存スルコトナク就中「難以信從」ニ該當シ若クハ之ニ類似セル文字ノ如キハ該宣言中何レノ部分ニ於テモ使用シアルコトナシ惟フニ本件支那政府ノ抗議ハ畢竟前記帝國政府宣言ノ誤訛若クハ誤解ニ基因セル次第ナルヘシト雖帝國公使ハ支那官民カ帝國ニ於テ何等他意ナキ是等簡明ナル事實ヲ誤解シ以テ延イテ或ハ累ヲ邦交ニ及ホスカ如キコトナカラムコトヲ希望ス

大正九年五月二十七日

一五 「シベリア」出兵関係一件 七四四

八九六

間鐵道沿線ハ尚暫ク現状ヲ維持シ交通ノ確保ヲ努ムルコ
トトスヘシ将又「ポグラニーチナヤ」浦潮間鐵道沿線地方
ハ朝鮮ト接壤ノ地ニシテ朝鮮ニ対スル過激派又ハ不逞鮮人
ノ脅威ヲ阻止スル為メ該鐵道沿線ニモ亦當分帝国軍隊ヲ駐
留セシムヘク殊ニ浦潮ニ付テハ朝鮮ニ対スル過激派脅威ノ
関係以外同地ニ在ル七千ノ帝国居留民保護ノ見地ヨリシテ
相当數ノ軍隊ヲ駐ムルノ必要アリ尚「ハパロフカ」ハ「ニ
コラエウスク」ノ上流要衝ノ地ニ位セル処「ニコラエウス
ク」事件ニ關聯シテ帝国政府ハ目下「ニコラエウスク」ニ
向ケ出師中ノ次第ニモアリ該地ト交通ノ要衝ニ當レル「ハ
パロフカ」ハ軍略上今暫ク駐兵スルヲ得策トス尤モ「ニコ
ラエウスク」事件ノ善後措置ハ可成速ニ進捗スルコトトシ
其完了ヲ俟テ同地派遣ノ軍隊ヲ引揚ケ遅クモ本年秋季結水
前同地竝ニ「ハパロフカ」ヨリ撤兵スル様諸般ノ施措ヲ為
スコトトスヘシ

七四四 六月一日 開議決定

シベリア派遣我軍ノ一部撤退ノ措置ニ関スル
件

一、近時浦潮地方ニ於テ政變起ルニアラサルヤノ兆候アリ

斯クノ如キハ漸ク靜穩ニ帰セントスル事態ヲ再ヒ紛擾ニ
陥ラシムルモノニシテ我軍ノ将来ニ對シ不利ナル影響ヲ
及ボスモノナリ之ニ對シテハ目下我軍ノ交渉相手方トナ
シアル浦潮臨時政府ヲ相當ニ声援支持シ此等ノ運動ヲ防
止スルヲ可トス

ヲ許サス

三、後貝加爾地方ニ於テハ中立地帶設定ニ関シ協商中ナル
モ「ウエルフネ」政權ノ提議穩當ヲ欠クモノアリテ未タ
俄ニ之カ終結ヲ見ルヘキヲ予断スルコト能ハスノ如キ
ハ二月二十四日開議決定ノ実施ヲ遲延セシムルノ因ヲ為
スモノニシテ該方面ノ協定ヲ成立セシムルハ緊急ノコト
ナルカ故ニ結局左ノ条件ヲ彼ニ於テ承認セハ知多方面ノ
我軍ヲ撤退セシメントス

1、日本軍ノ哈府撤退迄ハ西方「ウ」軍ヲシテ中立地帶
ニ進入セシメス又日本軍ハ勿論東方ノ露軍モ此ノ地帶
ニ入ルコトナシ

2、右条件ノ履行ヲ監視スル為知多ノ露軍及西方「ウ」
軍ニ日本將校ヲ附ス

四、知多及哈府方面ノ撤兵ヲ實行スルモ尼港及北樺太方面
ニ就テハ別問題トシテ處理ス

七四五 六月五日 内田外務大臣ヨリ
在浦潮松平政務部長宛

ザバイカル方面ヨリ我派遣軍撤退方廟議決定

及セメノフ政權ノ處遇ニ關スル件

極秘（佐藤陸軍少將ニ托送）
必親展

拝啓 陳者西比利亞方面派遣ノ帝国軍隊一部撤退方ニ關シ
今回別紙^(註)写ノ通り廟議決定致候処右ハ夫々相當予備的施措

ヲ經テ始テ完行セラルヘキモノニテ例之帝国軍隊後貝加爾
州引揚ニ付テハ先以テ從来我軍隊ニ於テ特殊關係ヲ有シタ
ル「セメヨノフ」政權ノ将来ヲ顧慮セサルヘカラス若シ我
方ニシテ漫然急遽別紙方針遂行ノ擧ニ出テンカ該政權ハ絶

望ノ極不測ノ行動ニ出ツル事無之ヲ保セサルト同時ニ我軍
隊側トノ關係ニ於テモ亦何等懸念ナキヲ断言シ難ク旁々我
軍隊側限ノ一時の方策トシテ或ハ臨機緩衝國（極東三州ヲ

包括セル）樹立ヲ唱道シ「セメヨノフ」ヲシテ行政權ヲ該緩
衝國ニ引繼カシムルト同時ニ同人ニハ單ニ兵權ノミヲ把持
セシムル事トシテ以テ同人ヲ浦潮臨時政府ニ連結セシメ然
ル後「ウエルフネウヂンスク」トノ間ニ交渉ヲ遂ケ同地及ヒ
「チタ」間ニ於テ緩衝地帶ヲ設置シ其上ニテ後貝加爾州ヨリ
撤兵シ度所存ニ有之而シテ撤兵後ニ於テハ同地方事態ノ發
展如何ハ後日ノ考慮ニ委スルコト致度今日ヨリ万ノ場
合ヲ予想顧念スルニ於テハ到底撤兵ノ機ナカルヘク候要ス
ルニ右ノ如キ階段ヲ經テ始テ別紙方針ノ遂行ヲ圖ル次第ニ
有之候將又中立地帶設定ニ關スル「ウエルフネウヂンスク」
政團トノ交渉ニ付テハ之ヲ黒沢大佐ニ委任セシシテ貴地軍
司令部ヨリ別ニ高級將校並ニ貴官ヲ派遣スル手筈ニ相成居
リ候間御含置相成度尚本件ニ關シ貴地軍司令部ニ對シ篤ト
説明ヲ遂クル為メ陸軍ヨリ今回特ニ佐藤少將ヲ貴地ニ派遣
スル事ト相成候ニ付書余詳細ノ事項ニ付テハ同少將ヨリ御
聽取相成度此段申進候 敬具

追而別紙並ニ本信ノ内容ハ一部分ナリトモ之ヲ漏洩セシ
ムルニ於テハ頗ル重大ナル事体ヲ生スルノ虞モ有之旁々
當方ニ於テハ之ヲ嚴重極秘ニ附シ居候次第ニ付貴地ニ於

テモ同様御注意相成度為念申添候也

註 別紙六月一日閣議決定写前掲ニ付省略

七四六 六月十四日 内田外務大臣ヨリ
在本邦中国臨時代理公使宛

シベリア駐兵宣言ニ対スル中國ノ抗議二回答

ノ件

政二送第一六号

以書翰致啓上候陳者帝国政府カ去ル三月三十日東京ニ於テ
宣布セル西伯利撤兵宣言中滿鮮ヲ竝列セル件ニ閔シ客月二

十日附外庚第一八号貴翰ヲ以テ御申越ノ次第致閔悉候然ル

ニ右帝国政府宣言ノ趣旨ハ畢竟朝鮮及滿洲ノ両地方カ共ニ

地理上西伯利ニ近接セルカ為メ西伯利ニ於ケル政情ノ影響

ハ滿洲ニ滿洲ヨリ朝鮮ニ直ニ順次波及スルノ虞アルヲ指摘

シタルニ過キスシテ其ノ間苟クモ貴國領土タル東三省内部
ノ安寧保持ニ關スル貴國政府ノ立場ヲ無視スルノ意ヲ寓ス
ルカ如キ何等辞句ヲ存スルコト無之ハ該宣言ヲ熟閱相成候
ハハ事自ラ明白ナルヘシト確信致候尚右ニ就テハ貴國駐劄
帝国公使ヨリ委曲貴國政府へ説明済ナル趣ニ付已ニ貴國政
府ノ諒認ヲ経タル儀ト存候得共尚貴代理公使ヨリモ右帝国

府ノ諒認ヲ経タル儀ト存候得共尚貴代理公使ヨリモ右帝国

七四七 六月三十日 内田外務大臣ヨリ
在ハルビン松島總領事宛（電報）

日本軍ノ撤退ニ関連シ居留民ニ引揚勧告方訓 電ノ件

第一九八号（至急）

「チタ」及黒河ヘ左ノ通り転電アリタシ

第一一五号

帝国政府ハ今般後貝加爾州及哈爾賓以西東支鐵道沿線並黒
河ヨリ全部撤兵スルニ決シ近々撤退ヲ開始スル筈就テハ貴
官ハ内々此ノ旨ヲ居留民ニ示達シ自己ノ責任ニ於テ強イテ
残留ヲ希望スル者ヲ除ク外總テ漏レナク引揚準備ヲ整ヘシ
メ陸軍側ト協議ノ上能フ限り貴地軍隊出発開始前（撤退期
日ハ軍司令官ニ一任シアリ）ニ貴官及館員ト共ニ哈爾賓ヘ

引揚クル様措置アリタシ、貴官及館員ハ同地ニ於テ命ヲ待
ツヘク引揚民ハ同地ノ東南方面ニ限り随意ニ赴クヲ得ヘシ
引揚費用ハ直ニ送付スヘキモ隨時陸軍側ヨリ立替ヲ受クル
等ノ便法ニ出テラレ差支ナシ尚引揚ニ当リ地方官憲ニ通告
シ便宜供与ヲ依頼スヘキヤ否ヤハ陸軍側ト打合セノ上決セ
ラレ度又朝鮮人中善意ノ良民ハ貴官ノ裁量ニ依リ出来得ル
限り邦人ニ準シテ取扱ハルル様致シ度シ

本件ハ當方ニ於テ公表スル迄極内密ニナシ置カレ度シ

七四八 六月三十日 田中陸軍大臣ヨリ
浦潮派遣軍司令官宛（電報）

シベリア及樺太等ニ於ケル駐兵又ハ撤兵ノ措

置並対シベリア政策変更等ニ關シ訓電ノ件

尼港事件善後措置ト共ニ西伯利問題ニ就テモ新ニ政策ヲ決
スルコトトナリ帝国ハ将来露國ノ正当政府樹立セラレ本事
件ノ満足ナル解決ヲ見ルニ至ル迄薩哈連州内ニ於テ必要ト
認ムル地点ヲ占領シ浦潮及哈府方面ハ此等地方ノ安定スル
迄駐兵シ後貝加爾州及哈爾賓（之ヲ含マス）以西東支鐵道沿
線及黑河ヨリ撤兵スヘク東支東線及南線ニハ當分現状ノ儘
駐兵スルコトトナリ來ル七月三日此ノ旨政府ニ於テ声明ス

後貝加爾方面及黑河ノ撤兵ニ就テハ參謀總長ヨリ指示セラ
ルヘキモ居留民ノ撤退トノ關係ニ就テハ領事館側ト十分連
絡シ手落ナキ様取計ハレタシ

後貝加爾地方ニ於ケル中立地帯及極東ノ緩衝國ハ累次ノ貴
電ニ依リ其ノ成立容易ナラサルノ觀アルモ此等ノ事情ニ永
ク纏綿スルコトハ大局上取ラサル次第ナリト承知セラレタ
シ而シテ「セメノフ」軍カ我軍ノ撤退ト共ニ不利ナル形勢
ニ陥ルハ此又事情止ムヲ得サル義ニシテ之カ為我撤兵ノ支
障ヲ來ササルコトニ就テハ十分ノ手段ヲ講セラレタク「セ

政府ノ意ノ存スル処御伝致ノ上刻下益々貴我両國協調敦睦
ノ必要ヲ感スルノ秋ニ際シ貴國官民カ帝国ニ於テ何等他意
無キ以上簡明ナル事實ヲモ誤解セラレ以テ延テ或ハ累ヲ邦
交ニ及ホスカ如キコト無カラムコトヲ希望スル旨併セテ可
然御轉達相成度右回答申進旁本大臣ハ茲ニ重テ貴下ニ向テ
敬意ヲ表シ候

敬具

メノフ」ニ対スル兵器ノ供給ハ目下夫々手配中ナリ尚「ウエルフネ」軍カ我撤兵ニ対シテ妨害ヲ加フルニ於テハ断然タル手段ヲ執ルヘキニ付此又適時該政権ニ戒告セラルルコト必要ナルヘシ右ハ差向貴官限リノ御含ミトシ他ニ一切漏洩セサル様セラレタシ

(欄外註記)

「外務省ニテ異存無之旨軍務局長ニ返事済六月二十九日(青木政務第一課長印)」

(一)「セメノフ政権」ハ浦潮及「ウエルフネ」ノ政権ヲ目シテ過激派ノ仮面ヲ被リ居ル不俱戴天ノ敵トナシ是等ト握手スルコトハ主義ニ於テ絶対ニ不可ナレハ飽クマテ戦闘ヲ継続スヘシトナシ又後者ハ「セメノフ」政府ヲ目シテ極東(脱)トナシ是ヲ排除スルヲ以テ最大任務ノ一トナシ居ルコトハ世上周知ノ事實ナリ

(二)故ニ前記ノ計画カ予期ノ如ク実現スルヤ否ヤ疑問ナリ然レトモ若シ何等カノ条件ノ下ニ妥協成立シ我軍撤退スルニ至ラハ後貝加爾ハ当ニ混亂ニ陥ルヘシ

七四九 七月一日 在ハルビン松島總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)
ザバイカル方面ヨリノ日本軍撤退前ニ居留民
ヲ引揚ゲシムル様意見具申ノ件

第四六九号

緒方ヨリ左ノ通リ

外務大臣ヘ転電アリタシ

此頃仄聞スル所ニ依レハ政府ハ浦潮派遣軍当局ヲシテ浦潮「ウエルフネ」及「セメノフ」代表者ヲ会合セシメ緩衝國ヲ設定セシメ而シテ先ツ後貝加爾地方ヨリ即時撤兵セシメントノ計画アリト果シテ事實ナリトセハ左記與見ニ関シ御

(一)何トナレハ当地方ハ目下表面頗ル平靜ナルモ之一ニ我軍ノ駐屯セルカ為メニシテ一朝是カ撤退ヲ見ルニ至ラハ是迄隱忍沈黙シ居タル過激派分子ハ忽チ奮起シ同時ニ路頭ニ於テ生活難ニ苦メル多数ノ住民モ亦止ムナク過激派ニ投シ終ニハ收拾スヘカラサル情態ヲ招致スヘケレハナリ(四)其ノ結果ハ比較的裕福ニ生活シ来リ且シ住民ノ為羨望セラレ幾分ノ反感ヲ買ヒ居ル我在留民(約五百五十名)ハ是等住民ト我軍ニ怨恨ヲ懷キ居ル過激派ノ軍ニ襲ハレ(「ニコリスク」)ノ二ノ舞ヲ演スルナキヲ保セス

(五)以上ノ理由ニ依リ若シ前記ノ計画ニシテ実現セハ(脱)民ハ断シテ引揚ケストノ決議ヲナシ居ルト雖モ事實残留(脱)思ハルニ付此ノ場合ハ撤兵前ニ先ツ居留民ヲ引揚ケシムルコト必要ナリト信ス

右松平、佐々木、清ミ

七五〇 七月二日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

ザバイカル方面ヨリノ撤兵並東支東線及南線

沿線ニ於ケル駐兵繼續ニ付中国政府へ申入方

訓電ノ件

第二五九号(至急)

往電第二五四号第二五五号第二五六号ニテ御承知ノ通り廟議決定ノ結果「サガレン」及沿海州方面ニ當分駐兵ノ事トシ同時ニ後貝加爾及哈爾賓以西東支鐵道沿線及黑河ヨリ撤兵シ又我沿海州駐屯軍ノ側面擁護並ニ南満守備軍トノ聯絡關係上東支鐵道東線即哈爾賓以東「ポグラニチナヤ」間及南線即哈爾賓長春間ニ大体兵力及駐兵地共從前ノ儘當分駐兵スル管ナリ(即チ哈爾賓ニ主力ヲ置キ一面坡、横道河子「ボグラニチナヤ」ノ駐兵ヲ併セテ約一聯隊ノ見込)尚

「チタ」方面ヨリ撤兵ノ為一時右兩線上ニ増兵ノ結果ヲ見ルコトアルヘキモ是大兵ノ移動ニ伴フ止ムヲ得サル一時ノ現象ニ過キスシテ大体七月三日ノ声明ト共ニ着々右ノ方計ニ基キ移駐実行ノ予定ナリ就チハ貴官ハ廟議決定公表ノ日ヲ以テ支那政府当局ニ対シ往電第二五五号(別電)写ヲ手交セラレ同時ニ大体左ノ通り口頭ニテ申入レ置カレタシ『帝国政府ハ別紙声明ノ通り尼港ニ於ケル本邦人ノ慘殺事件ニ対スル問責及國境防衛在留民保護ノ為「サガレン」及沿海州方面ニ此際引続キ駐兵ノ不得止ニ至レル処同時ニ帝国政府累次ノ声明ニ基キ後貝加爾方面及黑河ヨリ撤兵スルコトシ哈爾賓以西東支鐵道沿線ニ於ケル後方聯絡兵モ亦之ト共ニ撤退スルコトトナレリ從テ今後危險ナル過激派軍ノ後貝加爾又ハ黑龍州方面ヨリ北満ニ侵入シ来ルノ虞ナシトセス從テ我沿海州駐屯軍ハ其側面全ク無防禦ノ状態ニ陥ル危険アリ仍テ之カ防衛ノ為メ我沿海州駐屯軍ト南満守備隊トノ聯絡ヲ保持スル必要上哈爾賓以東「ボグラニチナヤ」ニ至ル東支鐵道東線並哈爾賓以南長春ニ至ル同鐵道南線ニ於テ大體現状ノ儘聯絡兵ヲ當分駐在セシムルコトトセリ』

一五 「シベリア」出兵関係一件 七五〇

九〇一

七五一 七月十五日 日露停戦協定

停戦議定

右ニ対シ支那政府ニ於テハ或ハ主権ノ侵害或ハ軍事協定ノ自然消滅等ノ理由ヲ以テ種々故障ヲ唱ヘ我北満駐兵ニ反対スヘキハ推測ニ難カラサル所ナルカ本件ニ閑シテハ貴地ニ於テハ東少将ヲ通シ支那軍憲ニ奉天ニ於テモ我軍憲ヲ通シ張作霖ト内々了解ヲ遂ケシムル筈ナルニ付貴官ハ支那側公然ノ抗議ニ対シテハ臨機可然応酬シ置カレ此ノ際ハ日支軍事協定問題ニハ触レラレサル様致度元來東支鉄道ノ警備ハ露國側ノ既得権ニ属シ一度露國側ニ於テ勢力挽回ノ上ハ何時ニテモ同鉄道沿線ニ出動シ得ヘク支那ノ鐵道守備ノ根拠ハ寧ロ客年四月十四日ノ浦潮聯合国武官会議ノ決定セル露國鐵道守備区域分担協定ニ在ル次第ニテ支那側ノ地位モ国際協定ニ基キ他ノ聯合軍隊ト共ニ露國鐵道警備ノ委任ヲ受ケ他ノ分担区域ニ当レル帝国軍隊ト何等撰フ所ナク又東支線ニ於ケル我軍從来ノ配置ハ之カ為メ妨ケラル事ナキコトモ同協定ニ依リ定マリ居レル次第ニ付右様御含ノ上適宜説明論駁ノ材料トセラレタシ

本電哈爾賓、奉天へ転電アレ

註 別電省略

極東共和国及国民革命軍最高軍權両者ノ代表ハ次ノ停戦議定ニ対シ共和国及革命軍ノ名ヲ以テ全責任ヲ負担ス該議定トハ即チ双方ノ地方軍憲ニヨリ締結セラレ且ツ日本派遣軍中佐加藤宗次郎及国民革命軍黒竜部隊「ヴィクトル、ムヤンド」ノ名ヲ以テ署名セシ「シルカ」河左右両岸地区ノ停戦ニ関スルモノニシテ其ノ停戦開始ノ時期ハ「シルカ」左岸地区ノ為メ七月二日同河右岸地区ノ為ニハ西暦千九百二十年七月十日トナスモノ是レナリ

極東露領ニアル日本派遣軍ノ代表者ハ衷心極東露領全戦線ノ停戦ヲ希望スルト共ニ極東共和国カ極東露領ノ他地方ノ

諸政権ト如何ナル連絡関係ヲ有スルヤハ全ク其ノ任意ニシテ此ノ点ニ於テ日本軍憲ハ何等ノ干渉ヲ為スモノニ非スト雖モ日本軍憲ハ極東共和国政府ヲ未タ極東露領ニ於ケル統一主権トシテ承認セス隨テ極東共和国代表者トノ商議ニ於テ極東露領ノ全戦線ノ停戦議定ヲ締結スル能ハス両軍代表者間ニ既ニ前述ノ如キ意見ノ齟齬アリ故ニ此ノ点ニ一致ヲ見ルニアラスンバ終ニ極東露領全戦線ノ停戦議定ヲ締結スル能ハス若シ夫レ根本主義ノ決定ニ至リテハ両軍代表者少クモ日本軍憲代表者ノ権限外ニ属スルヲ以テ此ノ問題ハ他ノ商議ニ譲リ極東露領ニ於ケル迅速ナル平和回復ノ希望ニ基キ双方ノ合意ヲ一層堅確ニシ且ツ之ヲ実現スル為メ目下ノ急務タル「ヤブノロイ」山脈地方後貝加爾戰線ニ於ケル軍事行動停止ニ関シ左ノ如ク議定ヲ締結ス

第一条 両軍ハ左記ノ線ヲ越エ何等ノ軍事行動（空中ヲ含

ム）ヲモ為ササルモノトス

第二条 「ヤブロノウイ」山脈地方後貝加爾戰線ニ於ケル

日本軍ノ線ハ「ポドオローチナヤ」—「テレンバ」道ト

「ウシュムカン」河ノ交叉点ヨリ起リ同地ノ北方ハ東経百十三度三十分ノ線トス其ノ南方ハ「シャクシヤ」—「テ

レンバ」道ト「テレンバ」—「ウエルフネ、ウヂンスカヤ」道トノ交叉点旧莫斯科街道（旧知多街道）上「ベグレミーシエオ」西北方十露里ノ地点、「ゴンゴタ」駅東方十露里ナル「ゾートリースーガン」河鉄道橋ヲ經テ「カダフタ」ニ亘リ同地点ヨリ南方ハ東経百十三度三十分ニ平行スル線トス国民革命軍ハ「テレンバ」ヨリ起リ其ノ北方ハ東経百十三度三十分ニ平行スル線其ノ南方ハ「ウエルシノ、コンヂンスカヤ」「ゴンゴタ」駅ヲ經テ「ドロニンースコエ」ニ亘リ其ノ南方ハ東経百十三度三十分ノ線トス前記各地点ハ其ノ南方ニ対シ一露里ノ半径トス

備考 日本軍及国民革命軍隊第一線ノ中間ナル中立地

シ迅速ナル連絡ヲ要スル場合若クハ外交官列車或ハ其他ノ列車並ニ一個人ノ同区間通過ノ場合ニ於ケルノ住民カ軍事行動上ニ利用セサルノ義務アルモノト

一五 「シベリア」出兵関係一件 七五

一五 「シベリア」出兵関係一件 七五二

予備的商議用ニ充ツルモノトス

第四条 停戦ニ入ルヘキ時期ハ大正九年（西暦一千九百二十一年）七月十九日正午十二時トス右停戦成立時期迄ニ両軍

憲ハ停戦ニ関シ自己ノ軍隊ニ通報シ又各独立地毎ニ停戦命令受領ニ関シ相互通報スルモノトス停戦成立時期ニ至ル間ト雖モ両軍ハ相互何等ノ軍事行動ヲ行ハス

備考 書簡交換ノ為メ双方ノ軍使ハ左記道路ニ依ルモノトス

一、「テレンバ」—「ウエルフウヂチンスカヤ」道

二、旧莫斯科街道（旧「チタ」街道）

三、鉄道幹線

四、「コダフタ」—「ウリヤースコエ」道

第五条 本条約契約期間ハ極東露領住民ノ意志ヲ正確ニ表スヘキ代表者ノ会議ノ結了スル迄トス

第六条 停戦間何等カノ原因ニヨリ平和状態ヲ破リ軍事行動ニ移ラントスル場合ニ在リテハ其行動開始十日前ニ先方軍ニ通告スルモノトス

議定ニ対スル備考

一、「セメノフ」ニ隸属スル軍隊ハ本議定ヲ承認ス本件

審議ノ結果別紙覚書条項ヲ交換ス

日本軍代表者陸軍少将高柳保太郎

極東共和国代表者「ウエ、エス、シャートフ」

一九二〇年七月十七日於「ゴンゴタ」駅

覚書条項

日露両委員ハ極東露領ニ於ケル迅速ナル平和ノ確立ヲ期シ之カ達成ト安寧及秩序恢復ノ最良手段タルヤ諸外国ヨリノ武力干渉外ニ立チ統一政府ヲ戴ク緩衝国ノ建設ニアルコトヲ信ス

此緩衝国ハ国際的及経済的関係ニ於テ文化及産業ノ発達セル国家ヨリ絶縁シテ存在スル能ハス極東露領ト日本トノ間ニハ最モ密接ナル利害関係ヲ有スルヲ以テ緩衝国ハ日本ヨリ最緊切ナル友好ト協力トヲ期待セサルヲ得ス

前記根本意志ニ基キ両委員ハ次ノ確信ニ於テ一致ス即チ緩衝国ハ其政策トシテ共産主義ヲ採用セス国民的ニシテ広キ民主的性質ヲ有セサルヘカラス之力為メ極東露領住民ノ意志ヲ正確ニ且ツ独立シテ表明スル代表者ノ会議ヲ招集スルヲ現下ノ必要トルコト之ナリ

両委員ハ其受ケタル任務及企図ニ関シ以上ノ如キ了解ノ下

一五 「シベリア」出兵関係一件 七五二

九〇四

ニ関シテハ極東露領ニ於ケル日本派遣軍代表者之ヲ保証ス其根拠左ノ如シ

西暦一九二〇年七月十二日附第四号日本軍委員長高柳少將發極東共和国平和委員長「シャートフ」宛覚書

日本軍委員長陸軍歩兵大佐黒沢準、同陸軍歩兵大尉佐枝義重

極東共和国委員長「ウエ、エス、シャートフ」、同委員「ハウロ」

西暦一九二〇年七月十五日「ゴンゴタ」ニ於テ

日本浦潮派遣軍司令官ノ命ヲ受ケタル第五師団長及極東共和国政府ハ各其代表者ヲ「ゴンゴタ」駅ニ派遣シ停戦議定ヲ締結セリ而シテ此機会ニ於テ両委員ハ全權ノ範囲ニ於テ双方ノ為必要ナル軍事関聯諸問題ニ関シ意見ノ交換ヲ行ヒ

七五二 七月十七日 日露停戦関係覚書

浦潮派遣軍及極東共和国政府各代表間ノ停戦

協定付属覚書条項ニ關スル件

覚書

日本浦潮派遣軍司令官ノ命ヲ受ケタル第五師団長及極東共和国政府ハ各其代表者ヲ「ゴンゴタ」駅ニ派遣シ停戦議定ヲ締結セリ而シテ此機会ニ於テ両委員ハ全權ノ範囲ニ於テ双方ノ為必要ナル軍事関聯諸問題ニ関シ意見ノ交換ヲ行ヒ

ニ相互ニ次ノ声明ヲナス

第一、日本委員ハ日本軍憲ハ各地方政府権ニ對スル交渉關係

ハ極東露領住民ノ意志ヲ正確且独立シテ表明スル代表者ノ会議完了時ニ於テ始テ断絶セラルヘキモノナルコトヲ

声明ス而テ此会議ハ統一政府確立ノ目的ヲ有セサルヘラス

第一、日本委員ハ前記会議開催ノ方法及其事業進捗ニ関シ日本軍憲ノ之ニ干涉セサルコトヲ声明ス然レ共此会議ニ參集スヘキ代表者ニシテ妨害ヲ受クルモノアル時ハ其政見ノ如何ニ拘ハラス之ニ対シ為シ得ル限りノ保護ヲ与フルコトヲ約ス

第三、日本委員ハ日本軍ノ極東露領駐在問題ニ關シ七月三日附日本政府ノ宣言ヲ准拠トス

後貝加爾地方ノ撤退ニ關シ日本軍憲ハ「チエック、スロヴァック」軍ノ撤退完結ゼン現時ニ於テ日本帝国政府ノ宣言ニ基キ今回其軍隊ノ同地方撤退ヲ決定セリ而シテ東共和国トノ交渉円満ニ進捗スルニ於テハ日本軍ノ撤兵ハ速ニ実行セラルヘキヲ予期ス

第四、露國委員ハ極東共和国ノ領域内ニ欧露芳農政府ニ属

九〇五

一五 「シベリア」出兵関係一件 七五三 七五四

九〇六

スル軍隊ヲ侵入、駐屯、通過セシメサルコトヲ声明ス
第五、露国委員ハ極東共和国政府相互主義ニヨリ該共和国
ノ政権ノ及フ範囲ニ於テ日本臣民ノ個人不可侵ヲ保証シ
其權利ヲ尊重スヘキヲ声明ス

第六、日露委員ハ次ノ事ヲ声明ス即チ日本軍憲及極東共和
国政府ハ迅速ナル極東露領ノ安定ヲ期待シ凡て同地方ニ
發生スヘキ武力的抗争ヲ平和的ニ解決スル為メ有ユル手
段ヲ尽シ止ムヲ得サルニ至リ始テ断然タル処置ニ出ツル
モノトス

第七、日露委員ハ今後發生スヘキ諸問題ノ円満ナル解決ニ
資スル為メ相互ニ軍事委員ヲ派遣スルコトニ同意ス但シ
予メ相互ノ協商ヲ経ルヲ要ス

七五三 八月二十一日 内田外務大臣ヨリ
在米國幣原大使宛（電報）
シベリア派遣軍ノザバイカル方面ヨリ撤退ノ

進捗状況ニ付通報ノ件

第三六〇号

後貝加爾方面ノ撤兵ハ着々進行中ナリシ處主力ハ本月十七
日已ニ滿洲里ニ集結ヲ了リ東行シツツアリ撤退輸送最終列
到着セリ

車ハ二十六日滿洲里ヲ発シ九月一日浦潮到着ノ予定ナリ尚
我軍撤退後「チタ」附近ノ状況平穏ニシテ撤兵ノ翌日ヨリ
普通旅客列車ヲ運行シツツアリ
在欧各大使ニ転電アリタシ

七五四 八月二十五日 内田外務大臣ヨリ
在英、米、仏、獨国各大使宛（電報）
東部シベリア及北滿方面ヨリ我軍撤退決定ニ
付其地域ノ在留邦人ノ引揚状況ニ闇スル件

合第一九〇号

帝国政府ハ本年六月後貝加爾及哈爾賓以西東支鐵道沿線並
ニ黒河ヨリ全部撤兵スルニ決セル處同地一帯過激派ノ帝國
ニ対スル反感盛ニシテ軍隊引上ノ曉ハ在留帝國臣民ノ生
命財産ノ安全危殆ニ瀕スヘキヲ慮リ本省ヨリ滿洲里、チタ、
及黒河ノ各在外公館ニ対シ各公館員及強テ残留セントスル
者ヲ除キ一切ノ在留民ノ引上ヲ命シ鮮人ハ邦人ニ準シ取扱
ヒ適宜在留民希望ノ方面へ撤退セシムル様取計フヘキ旨六
月三十日電訓シタル結果在留民ハ左ノ通り引揚ヲ決行スル
ニ至レリ
チタ引揚民中邦人五百八十五名ハ七月二十五日及二十六日

第六一二号 （八月二十八日接受）

佐々木ヨリ左ノ通り

満洲里ヨリ日本軍ノ撤退輸送ハ好成績ヲ以テ完了セリ本官
ハ御電訓ニヨリ最後ノ撤退部隊ト共ニ二十七日午後一時三
十分同地ヲ引揚タルカ出発前露國側ハ停車場ニテ司令官駅
長當市後貝加爾両機関庫長等十数名日本停車場司令官司令
部員並ニ本官ヲ招キ送別ノ宴ヲ張リ席上熱誠ヲ籠メタル數
回ノ演説アリ駅頭ニ我カ軍樂ヲ奏シテ其ノ行ヲ盛ニセリ支
那側モ亦歎少將以下文武官全部見送リタリ市内平靜ニシテ
人心ノ動搖ヲ見ス

七五六 八月二十七日 哈府撤退ニ關スル件

九月十日 閣議決定

齊々哈爾管内東支沿線居留民ノ保護並ニ海拉爾城内殘留者
ニ關シテハ山崎領事代理親シク在滿州里護路司令官及呼倫
貝爾督軍ニ面晤シテ在留民ノ生命財產ノ保護方ヲ依嘱シ其
承諾ヲ得タル趣ナリ又布哈國札蘭屯及昂々溪ニ於ケル在留
邦人ハ各自任意ニ引揚ヲ為ス由ニテ既ニ陸軍側ヨリ列車配
給ノ都合付キ八月十九日及二十日ニ撤退ノ予定ナリ

七五五 八月二十七日 在ハルビン松島總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）
在滿洲里佐々木領事ノ引揚ニ關シ報告ノ件

一五 「シベリア」出兵関係一件 七五五 七五六

九〇七

哈府駐屯部隊ハ全般ノ情況上之ヲ撤退スルヲ要スルヲ以テ
適當ノ時期ニ於テ該部隊ヲ後退セシメ沿海州方面ニ於テハ
二月二十四日閣議決定ノ趣旨ニ基キ概ネ「ボグラニチナヤ」
ヨリ「スペスカヤ」ヲ經テ蘇城ニ亘ル線以南ニ部隊ヲ配置
スルコトト致度

之カ為メ哈府撤退ト同時ニ第十四師團ヲ内地ニ帰還セシ

一五 「シベリア」出兵関係一件 七五七 七五八

九〇八

メ第十一師団ノ残部ヲ沿海州ニ派遣シ之ト交代セシム

浦潮派遣軍整理人員表		大正九年九月調	
内地へ帰還スルモノ	新ニ派遺スルモノ	整理人員	
第十五師団	第十一師団	以上ノ如ク整理シ予算總兵力三四、七三六ニ対シ内地ニ帰還スル人員	
第十四師団	ノ半分	約一〇、〇〇〇人	
南部烏蘇里派遣隊其他小部隊若干	鐵道隊電信隊其他少人員	以上ノ如ク整理シ予算總兵力三四、七三六ニ対シ内地ニ帰還スル人員	
若干部隊ノ整理縮		約一〇、〇〇〇人	
		以上ノ如ク整理シ予算總兵力三四、七三六ニ対シ内地ニ帰還スル人員	

七五七 九月二十一日 在浦潮松平政務部長ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

中国政府ニ依ル「ウエルフネ」政權承認発表

二対シ浦潮政權ノ反撥ニ付報告ノ件

(九月二十二日接受)

在支公使発大臣宛第九八九号ニ關シ支那政府ガ事實上「ザバイカル」ノ一隅ニ存在シ其実權沿海州地方ニ及ハザル

「ウエルフネ」政權ヲ以テ極東全体ヲ代表スルモノト認ム

ル旨ヲ發表セルハ一面労農政府ノ宣伝ニ乘シタルト他面其提供セル利權ヲ獲得セントシタルモノナランガスクテハ目下進捗シツツアル極東統一交渉ヲシテ成ル可ク穩健ナル結果ニ達セシメントスル運動ニ対シ惡影響ヲ及ボスモノト思考シ九月二十日右「コンムニケ」ノ内容ヲ当地臨時政府外交部長ニ内示シ注意ヲ喚起シタル処同部長ハ支那政府ノ態度ニ憤慨シ直チニ閣議ニ付シタル上支那政府ニ抗議ヲ提出スペキ旨申居リタリ

尚同部長ハ先般「ファーカツソン」一行來浦ノ際東支鐵道問題ニ關シ當路ノ意向ヲ糺シタルニ際シ自分等ハ「カラハン」

宣言ハ労農ノ意見ニシテ彼等ヲ以テ露國民ノ意志ト見ル能ハズスノ如キ事件ハ全露的政府ノ確立ヲ待ツテ商議スペキモノナリトノ意見ヲ述べタル事アル故多分同顧問等ノ提議ニシテ支那ノ利權回収ニ都合好キ「ウエルフネ」政權ヲ認メタルモノト察セラル旨内話シ居タリ

北京哈爾賓ヘ転電セリ

七五八 九月二十四日 在浦潮松平政務部長宛(電報)

シベリア派遣軍ハバロフスク撤退ニ伴フ邦人

居留民引揚方ニ付訓電ノ件

第一七一号

告ノ件

第四六三号

(十一月十五日接受)

往電第四五六号末段大井司令官ガ其ノ応接室ニ於テ十二日夕各政党政派代表者ニナシタル声明ハ大要

「最近當地政情ガ動搖シアルノ現状ニ鑑ミ改メテ日本軍ノ立場及沿海州政府トノ關係ヲ明ニスル為メ日本軍駐屯地域内ニ於テハ共產主義ノ施政ヲ容認セザルコト並日本軍ハ其ノ存立ノ駐屯区域ニ於ケル政情ノ安定ニ關シ沿海州臨時政府トノ間ニ覺書停戰議定書及緩衝國設定ニ付各種取極等交換セラレタルコトヲ述べ従ツテ「チタ」ニ於ケル統一會議ノ進捗如何ニ關スル重大ナル交渉關係ヲ保存ス故シ日本軍ノ諒解ナキ第三者ガ本區域ノ靜狀的現状ヲ打破シ不安定ヲ招致スルガ如キハ断ジテ日本軍ノ忍ビ得ザル所ナリ」ト云フニアリ

右大井將軍声明ノ反響ニ關シ當地電報通信社員「パンテレフ」ノ情報ニ拠レバ右声明ハ當地政黨就中農民團ニ甚大ナル影響ヲ与ヘ從米同團ガ共產黨ニ隨伴シ急遽國民議會ノ解散ヲ實行セントセシ方針ヲ改メ今暫時振合ヲ見ルコト事宜ニ依リテハ沿海州丈ヶ別箇ノ行動ニ出デントスルノ形勢ト

人ニ準シテ取扱ハル様致シタシ

右菊池總領事ヘ伝ヘラレタシ

七五九 十一月十五日 在浦潮菊池政務部長ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

極東ロシアノ政權統一事業ニ関スル大井司令官ノ声明及該声明ニ付スル同地ノ反響ニ付報

官ノ声明及該声明ニ付スル同地ノ反響ニ付報

一五 「シベリア」出兵關係一件 七五九

九〇九

一五 「シベリア」出兵関係一件 七六〇

九一〇

ナレリ其ノ結果十三日夕開催ノ筈ナリシ国民議会々議ハト
五日夕ニ延期スルコトトナリタルガ斯クテ農民団ガ共産党
ト別離スルニ於テハ当地臨時政府モ「チタ」ニ於テ憲法会
議ノ招集ヲ見ル迄此ノ儘存続シ得ベシト觀察セラル
本声明ハ十三日臨時政府員会議、内閣々議、各派會議ニ於
テ終日審議セラレタルガ十二日夜本声明ハ直ニ「チタ」ニ
モ電報セラレタルトノコトナリ十二日夜農民団代表者「ベ
トクス」ガ直通電話ニ依リ在「チタ」農民団代表「ルミア
ンツエフ」ト語リタル際「ペトクス」ヨリ吾人ハ大井將軍
(脱) ヨリ多大ノ苦痛ヲ以テ帰来シタルガ右訪問ノ結果總
テノ政党派就中農民団ハ其行動ヲ変更スルナルベシ只今
伝達シタル大井將軍ノ声明ヲ読マレシヤ貴見如何ト問ヘル
ニ対シ「ルミアンツエフ」ハ「浦潮側ハ總テ異レル見解ヲ
有スル處右ハ統一事業ニ悪影響ヲ及スモノナリ」ト回答セ
リト云フ

本件大井司令官ノ声明ハ露人一般政党代表者等モ全然予期
セザリシ所ナル由而シテ司令官側ヨリノ招ハ恰モ社会党非
社会党兩者會議ノ最中ニ到達シタル為メ何レモ會議ヲ中止
シテ倉皇司令官方ニ赴キタルモノナルガ農民団代表者等ハ

ル何等協議ノ時期ニ達シタルモノト認ムル旨軍當局ニ夫々
電達方山本中岡両氏ニ申込ミ置キタルガ尚貴官ヨリモ其筋
ヘ電達アリタシト申出デタルニ依リ本官ハ之孰レモ軍憲管
掌事項ニシテ本官ノ取次グ筋合ニ非ザルモ御依頼トアラバ
個人トシテ両氏ニ聞キ合セタル上然ル可ク取計フ可シ尤停
戦條約ニ対スル「ウ」政權ノ行動及該條約廢棄ノ時期如何
ノ問題ニ關シテハ本官ニ於テ一個ノ意見ヲ有スルモ之ハ權
限外ノ事故茲ニ默ス可シト答ヘタルニ「ク」ハ尚邦人ノ當
地來往ニ關シ中岡氏ニ対シ之ヲ歓迎保護ス可キ様談ジ置キ
タルガ政權及現政府ガ目下最必要ヲ感ジ居レル鐵道材料其
他ノ物資輸入並ニ領内ノ富源開発ニ關スル日本投資家ノ加
入方貴官ヨリモ當局ニ稟報アリタシト申出デタルニ依リ本
官ハ本問題ハ寧ロ本職上重要關係ヲ有スルニ依リ貴官ニ対
シ忌憚無ク私見ヲ述ブ可シトテ邦人ノ來往及投資家ノ加入
ハ一片ノ宣言乃至保証等ニ依リ実現スル事不可能ニシテ寧
ロ實際政治上ノ安定ヲ挙ゲタル曉ニアル可シト語レルニ目
下当地ニ於ケル現状ハ生命居住ハ安全ナルガ何時モ運輸交
通機関等ノ保障無クテハ何人モ通商スル事困難ナル可ク一
方ニ種々外国人ヲシテ不安ノ思ヲナサシムル現象統出シツ

今回ノ声明ヲ以テ決定的威嚇ナリトシ吾人ハ素ヨリ沿海州
地方ニ共産党政權ノ實現ヲ期スルモノニ非ズ民主政策ヲ實
行セムトスルモノナリト云ヒ商工業金融團体代表者ハ声明
ノ口調ノ荒キニ驚ケルモ同時ニ過激政治ノ此地方ニ行ハレ
ザルニ対シ喜ビ居レリ共産黨員ハ一般ニ本件ニ付何事モ語
ラズ

七六〇 十一月十九日 在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

極東共和国ノ政情ニ關シ同國最高指導者渡辺

領事會談ノ件

第四七七号

十一月八日「チタ」発渡辺來電第五〇号左ノ通り
八日「クラスノ」ト會見ノ際「ク」ハ井染大佐ノ満洲里ヨ
リ當地ヘノ旅行ニ關シ現ニ當区域内ニ於ケル安全保障困難
ナル事情及目下政府側ヨリ「セメノフ」及「バルチザン」
両隊ニ対シ十一月十日迄ニ武装解除乃至政府軍ニ帰順(脱)
若シ応ゼザル時ハ已ム無ク武力ヲ以テ何レノ隊ナルヲ問ハ
ズ之ヲ強行スル決意並ニ日本軍トノ停戰條約ハ今ヤ極東統
一政府樹立セラレタルヲ以テ此ノ際兩者間ニ該條約ニ關ス

ツアリトテ往電第四九号「クヅレツヲフ」ニ対シ談ジタル
事實ヲ略述シ如斯ハ貴政權ノ信用ニ影響ヲ及ボスモノト懸
念スルニ依リ諸君ハ十分民衆ヲ穩健ニ指導セラレ理想ノ実
現ニ努力アランコトヲ勧告シタシ政爭鎮定シ内外人ノ信用
ヲ博セントスレバ日本商人及帰来露國民及相互ノ為メ準備
シ居レル日本資本家ハ招カズシテ渡來スルニ至ルベシ日
下ハ遺憾ナガラ當局ガ當事者ヲ勧誘スルノ時期ニ達シ居ラ
スト見シ旨答ヘタルニ「ク」ハ平氣ヲ裝ヒ貴示以上ノ諸現
象ハ一時的民衆心理ノ發現ニシテ政府ハ飽迄方針實行ノ覺
悟ト準備ヲ有スルニ付關係外國ノ當事者カ親シク來リテ實
業ニ從事シ我政治ヲ實現スル様希望スト語レルニ依リ本官
ハ個人ガ自己ノ「リスク」ニテ來ルコトハ自由ナルベシ現
ニ現住邦人ニ対シテ可成從業方ヲ勧告シ居レルモ予ハ貴政
權ガ我實業家ガ「リスク」ヲ感ゼズシテ來往シ得ル如キ状
態實現ニ努力アランコトヲ望ムト答ヘタルニ「ク」ハ苦笑
シツツ努力シツ、アリト答ヘタリ尚前述停戰條約ニ關シ中
岡中佐等ニ(脱)メンジタリトハ全ク「ク」ノ虛言ニシテ
彼等ハ最近「ウ」政權軍隊ノ當方面移送「バルチザン」行
動ノ責任關係等ニ關シ日本軍ノ態度ヲ懸念シ本官ヲ介シテ

一五 「シベリア」出兵関係一件 七六一

九二二

自ラ本件提議ノ（脱）トスルノ狡猾手段ニ出デタルモノト
思慮セラル

七六一 十一月九日 在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

チタ政府外務次官ノ談話報告ノ件

第五一二号

十一月九日本官答礼ノ為非公式ニ「チタ」外務次官「コゼ
フニコフ」ヲ往訪シタルニ其ノ際彼ハ左ノ通り語レリ
浦潮政府カ從来日本ト協定セル諸約束（日本軍憲トノ間ノ
取極ヲ含ム）ニ関シテハ「チタ」政府ハ個々ノ取極竝問題
ニ付研究ノ上承認ノ可否ヲ極メントス（トテ從来ノモノヲ
原則トシテ其ノ儘繼承スル意嚮ヲ語リ）吾人ハ「チタ」統
一會議ニテ決議ノ日ヨリ浦潮ヲモ含メル極東統一成立セル
モノト認ム從ツテ目下行ハレツシアル浦潮国民議会ノ決議

ニ対シテハ何等ノ注意ヲ払ハス（トテ右議会無視ノ態度ヲ
示シ）日本軍ノ撤退アランコトヲ希望シ日本ハ過激思想ノ
宣伝ヲ恐レ居ルモ右宣伝ハ統一共和国ニ於テスラ行ハレ居
ラサルニアラスヤトテ右宣伝ノ行ハルヘカラサルヲ述ヘ同
時ニ革命ノ行ハレツシアル外国ニ軍隊ヲ駐屯スルハ其軍隊
所属国内ニ革命思想醸成ノ原因トナリ得ヘキ危険アリトテ
暗ニ日本ノ撤兵ノ得策ナルヲ皮肉リ且下利權商取引ニ関シ
日英米ノ商人ト交渉中ナリト云ヒ日本ノ土地的野心ナキヲ
信シ吾人ハ誠意以テ民主的政治ヲ行ハシコトヲ期シ日露親
善關係ヲ目的トスト述べ最後ニ十一月三十日以後「ムイソ
ワヤ」以東ノ後貝加爾鉄道ハ「チタ」政府輸送省ノ管轄ニ
属シ「ムイソワヤ」駅ヲ以テ「ソビエット」鉄道トノ境界
点トシ旅客ノ乗換ヲ行フコトトナレル旨ヲ報セリ

事項一六 「メキシコ」革命動乱関係一件

（「オブンガ」政府承認問題ヲ含ム）

七六一 三月三日 在墨伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

墨国叛徒首魁アレナス捕ハレ軍法會議ニ附サ

レタル件

政公信第五六号 （四月一十一日接受）

大正九年三月三日

在墨 臨時代理公使 伊藤敬一（印）

在墨伊藤臨時代理公使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

墨国大統領候補者オアレコン将軍ハ特別軍事

裁判所ニ出廷中ノ旨並メキシコ新聞ノ革命情

勢ニ対スル論評報告ノ件

第三三三号

（四月十三日接受）

大統領候補者「オブレゴン」將軍ハ軍務省ノ召喚ニヨリ十
六日朝、遊説地「タマウリパス」州ヨリ「モンテレイ」市
ヲ経テ帰京シ同日午後ヨリ特別軍事裁判ニ於テ叛徒「ディ
アス」ノ一員領「ロベルトセフード」事件（一度降服シ銃
器其他ノ供給ヲ得テ「ディアス」派征伐ノ為「ペラクル」

Coahuila）Higinio Aguilar（Veracruz, Puebla）Peláez
16 「メキシコ」革命動乱関係一件 七六二 七六三

九二三